



**静岡社会健康医学大学院大学**

**博士前期課程 シラバス**

**2024 年度**

2024年度 博士前期課程科目一覧 (シラバス目次)

科目区分	授業科目の名称	科目責任者	科目区分	コース必修		単位数	配当年次(推奨)	開講時期				曜日	時限	教室	ページ番号		
				*1	*2			前期		後期							
								前半	後半	前半	後半						
共通科目	社会健康医学概論	田原康玄	必修	-	-	2	1年	●	●			金	3	講義室2	1		
	公衆衛生危機管理論	森 寛子	選択	-	-	2	1年			●	●	土	4	講義室2	3		
	基礎医学講座	菅原 照	選択	-	-	1	1年	●				土	6	講義室2	5		
	高齢者ケア概論	森 寛子	必修	-	-	1	1年			●		土	5	講義室2	6		
	公的統計活用法	佐藤康仁	選択	-	-	1	1年				●	土	5	講義室2	7		
	文献検索法・文献評価法	佐々木八十子	必修	-	-	1	1年	●				土	4	講義室2	8		
	プレゼンテーション・ライティングスキル	藤本修平	必修	-	-	1	1年	●				金	5	講義室2	9		
公衆衛生学科目	疫学領域	疫学概論	小島原典子	必修	-	-	1	1年		●		金	4	講義室2	10		
		疫学研究・臨床研究特論	田原康玄	選択	-	-	1	1年			●	●	金	5	講義室2	11	
		臨床研究概論	佐藤康仁	必修	-	-	1	1年			●		土	3	講義室2	12	
		疫学・ゲノム疫学特論	田原康玄	選択	-	○	1	1年				●	土	3	講義室2	13	
		システムティックレビュー概論	小島原典子	選択	-	-	1	1年				●	金	3	講義室1	14	
		診療ガイドライン概論	佐藤康仁	選択	-	-	1	2年		●			金	5	講義室1	15	
		循環器臨床・疫学研究概論	田中仁啓	選択	-	-	1	2年		●			金	3	講義室1	16	
	医療統計学領域	医療統計学概論	中谷英仁	必修	-	-	2	1年	●	●			土	前半5 後半6	講義室2	17	
		医療統計学特論	中谷英仁	選択	-	-	2	1年			●	●	土	6	講義室2	19	
		臨床試験解析学	中谷英仁	選択	-	-	1	2年		●			土	3	講義室1	21	
		観察研究解析学	中谷英仁	選択	-	-	1	2年		●			土	3	講義室1	22	
		環境健康科学・産業衛生学概論	天笠 崇	必修	-	-	2	1年	●	●			土	3	講義室2	23	
	環境健康科学領域	環境健康科学・産業衛生学特論	天笠 崇	選択	-	-	1	1年			●		土	2	講義室2	25	
		生活習慣病(生活習慣・遺伝子・環境)	菅原 照	選択	-	-	1	1年				●	金	3	講義室2	26	
	行動医科学・ヘルスコミュニケーション学領域	ヘルスコミュニケーション概論	山本精一郎	必修	-	-	1	1年		●			土	2	講義室2	27	
		ヘルスコミュニケーション特論	清田友里	選択	-	-	1	2年	●				金	5	講義室1	28	
		行動医科学	山本精一郎	必修	-	-	1	1年			●		金	5	講義室2	29	
		健康情報学	高山智子	選択	-	-	1	1年				●	土	2	講義室2	30	
		健康医療社会学	山崎浩司	選択	-	○	2	1年			●	●	金	4	講義室2	31	
		健康・医療ビッグデータ概論	竹内正人	必修	-	-	1	1年	●				土	2	講義室2	33	
	健康管理・政策学領域	健康・医療ビッグデータ特論	竹内正人	選択	-	-	1	2年	●				金	4	講義室1	34	
		健康政策・医療経済学概論	栗山長門	必修	-	-	1	1年		●			金	5	講義室2	35	
		健康政策・医療経済学特論	高山智子	選択	-	-	1	2年	●				土	4	講義室1	36	
		社会健康医学倫理概論	八田太一	必修	-	-	1	1年		●			土	4	講義室2	37	
		社会健康医学倫理特論	八田太一	選択	-	○	1	2年		●			土	2	講義室1	38	
		ゲノム医学領域	医科遺伝学概論	田原康玄	必修	-	-	1	1年	●				金	4	講義室2	39
	ゲノム医学科目	臨床遺伝学	末岡 浩	選択	-	○	1	1年		●			金	2	講義室2	40	
		医科遺伝学特論	木下和生	選択	-	○	1	1年			●		金	3	講義室2	41	
		ゲノム医学(疾患と遺伝子)	臼井 健	選択	-	○	1	2年		●			土	5	講義室1	42	
		遺伝カウンセリング	臼井 健	選択	-	○	1	1年			●		金	2	講義室2	43	
		ゲノム医学演習	臼井 健	コース必修	-	○	1	1年			●	●	水	5-6	講義室1	44	
医科遺伝学演習		臼井 健	コース必修	-	○	2	1年		●	●	火・水	5-1	講義室1	46			
遺伝情報学演習		木下和生	コース必修	-	○	1	1年			●	●	土	4-5	講義室1	47		
遺伝カウンセリング演習		堀内泰江	コース必修	-	○	3	2年	●	●			金・土	各3-5	-	48		
遺伝カウンセリング演習		臼井 健	コース必修	-	○	6	2年	●	●	●	●	火・水	各3-5	-	49		
聴覚・言語科目		聴覚・言語領域	聴覚解剖・生理学概論	古川茂人	選択	○	-	1	1年	●			水	6	演習室2	50	
			聴覚解剖・生理学特論	古川茂人	選択	○	-	1	2年	●				土	2	演習室2	51
	聴覚心理学概論		古川茂人	選択	○	-	1	1年		●			水	6	演習室2	52	
	聴覚心理学特論		古川茂人	選択	○	-	1	2年	●				土	3	演習室2	53	
	認知科学概論		古川茂人	選択	○	-	1	1年			●		土	5	演習室2	54	
	言語・認知・発達学		古川茂人	選択	○	-	1	1年			●		土	6	演習室2	55	
	言語・認知・発達学特論		古川茂人	選択	○	-	1	2年		●			土	3	演習室2	56	
	聴覚療育・リハビリテーション論		田中智英巳	選択	○	-	1	2年	●				水	6	講義室3	57	
	聴覚療育・リハビリテーション特論		田中智英巳	選択	○	-	1	2年		●			水	6	講義室3	58	
	聴覚障害学		高木 明	選択	○	-	1	1年			●		土	4	演習室2	59	
	聴覚補償技術		田中智英巳	選択	○	-	1	1年			●		水	6	演習室2	60	
	聴覚検査法		田中智英巳	選択	○	-	1	1年			●		水	6	演習室2	61	
	音声言語科学		古川茂人	選択	○	-	1	2年	●				土	4	演習室2	62	
	聴覚健康政策論		高木 明	選択	○	-	1	2年		●			土	4	演習室2	63	
	知覚情報処理演習		古川茂人	コース必修	○	-	2	1年			●		土	1・2	演習室2	64	
	知覚・生体計測演習		古川茂人	コース必修	○	-	2	1年				●		土	3・4	演習室2	65
	言語・聴覚学特別演習 I		Fehérvári Tamás Dávid	コース必修	○	-	1	1年	●			●		土	2	演習室2	66
	言語・聴覚学特別演習 II		Fehérvári Tamás Dávid	コース必修	○	-	1	2年	●					土	5	演習室2	67
言語・聴覚学特別演習 III	Fehérvári Tamás Dávid	コース必修	○	-	1	2年		●				土	5	演習室2	68		
発展科目	フィールド実習	田原康玄	選択	-	-	1	2年					-	-	-	69		
	死生学	山崎浩司	選択	-	-	1	2年	●				土	5	講義室1	70		
	質的研究法	森 寛子	選択	-	-	1	1年		●			土	5	講義室2	71		
	質的研究法特講(M-GTA特講)	山崎浩司	選択	-	-	1	1年		●	*		土	4・5	講義室2	72		
	混合研究法	八田太一	選択	-	-	1	2年	●				土	2	講義室1	73		
	精神保健学概論・心理社会的支援技術論	天笠 崇	選択	-	-	1	2年		●			金	4	講義室1	74		
	医療・ケア組織論	天笠 崇	選択	-	-	1	2年		●			土	3	講義室1	75		
	高齢者ケア特論	森 寛子	選択	-	-	1	2年		●			土	4	講義室1	76		
	高齢者運動・リハビリテーション論	藤本修平	選択	-	-	1	2年	●				金	3	講義室1	77		
	ヘルスケアビジネス論	藤本修平	選択	-	-	1	2年			●		金	3	講義室1	78		
特別研究	オールヘルスプロモーション	佐藤洋子	選択	-	-	1	2年		●			土	2	講義室1	79		
	修士論文	-	選択	-	-	8						-	-	-	80		
	課題研究	-	-	-	-	4						-	-	-	82		
	課題研究(遺伝カウンセラー養成コース)	-	コース必修	-	○	4						-	-	-	84		
	課題研究(聴覚・言語コース)	-	コース必修	○	-	4						-	-	-	85		

\*1 聴覚・言語コース  
 \*2 遺伝カウンセラー養成コース  
 \*3 夏季集中講義(詳細はシラバス参照)

科目名	社会健康医学概論		学 期	前期		
履修区分	必修科目		曜日・時限	金曜 3 限		
単 位 数	2 単位 (90 分 × 15 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	田原康玄		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	宮地良樹、山本精一郎、山崎浩司、小島原典子、田原康玄、高山智子、竹内正人					
科目概要	<p>予防医学や先進医療の視点を取り入れ、社会健康医学に関するテーマについて、各分野の研究者による講義を行うとともに、研究論文や事例を用いた演習を行う。(オムニバス方式・共同(一部)／全 15 回)</p> <p>(宮地良樹／1 回)健康の定義、健康を取り巻く国及び地方の現況、静岡県の特徴について講義し、地域課題について討論を行う。</p> <p>(山本精一郎／1 回)がん予防やがん検診のエビデンスについての講義を踏まえ、利益不利益を考慮した上でのリコメンデーションについて討論する。</p> <p>(山崎浩司／1 回)死別悲嘆の健康面・社会経済面の影響を理解し、当事者支援のコミュニティアプローチについて考察する。</p> <p>(小島原典子／1 回)診療ガイドラインのためのシステムティックレビューの作成方法について概説する。</p> <p>(田原康玄／1 回)フレイルやそのリスク因子についての講義を踏まえ、フレイルを予防するための介入方法や施策等について討論する。</p> <p>(高山智子／1 回)健康政策の中での市民参画の現状と課題について考察する。</p> <p>(竹内正人／1 回)観察研究の有用性、限界点とその対処に関する講義を行う。</p> <p>(田原康玄／8 回)非感染性疾患(non-communicable diseases:NCDs)の理解の上に、近未来の医療の在り方、ウェルビーイングの実現について議論する。社会健康医学上の課題を概観し、ライフコースを通じた予防、医療、ケアの課題と可能性を考える。現代の栄養の課題についての講義を踏まえ、栄養・食事・食生活の視点から収集すべきデータとその実践応用への利活用について考察する。健康寿命延伸のための「暮らしと予防」について、看護職の視点から考察し提案する。地域政策の視点から健康福祉政策と関連する産業政策について考察する。生活習慣病と血栓症の病態と予防法啓発の実態を紹介し、医学研究と社会健康医学の連携を議論する。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>生活習慣病の知識を身に付け、予防するための生活習慣を説明できる。</li> <li>健康指標の評価法について研究方法を理解できる。</li> <li>健康の捉え方について理解し、健康の概念について説明できる。</li> <li>現代社会における健康問題について列挙し、健康づくり施策の変遷を説明できる。</li> <li>静岡県の特性を理解し、取り組みを説明できる。</li> <li>喫煙、飲酒、食事、運動、身体活動などライフスタイルの課題について社会健康医学的に説明できる。</li> <li>健康の評価法について説明できる。</li> </ol>					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	健康の概念と日本の現況	授業の進め方と導入を行い、課題について討論する。	○	○	宮地良樹
	2	「メタボリックドミノ」の未病医療	非感染性疾患(non-communicable diseases:NCDs)の総体(メタボリックドミノ)と生活習慣、生活環境、遺伝要因の関与の今日的理解、並びに、先制医療、未病医療など新しい医療のありかたを議論する。	○	○	田原康玄
	3	がん予防とがん検診の普及	社会健康医学における大きな問題であるがん予防やがん検診について、そのエビデンスを理解し、利益不利益を考慮した上でのリコメンデーションについて討論する。	○	○	山本精一郎
	4	栄養疫学概論	社会健康科学において「何をどう食べるか」の重要性を科学的に確認し、その測定方法ならびに研究方法について概説し、議論する。	○	○	田原康玄
	5	死別悲嘆と健康とコミュニティ	死別悲嘆と健康喪失の関係及び死別悲嘆の社会経済的影響を理解し、当事者支援のコミュニティアプローチについて考察する。	○	○	山崎浩司
	6	フレイルの理解と予防対策	社会健康医学における新たな課題であるフレイルやそのリスク因子を理解し、フレイルを予防するためのアプローチを考察・討論する。	○	○	田原康玄

7	システマティックレビュー	診療ガイドラインのためのシステマティックレビューの作成方法について概説する。	○	○	小島原典子
8	京都大学 SPH( School of Public Health)での経験から	「京大 SPH」の取り組みを通して、静岡県における新たな社会健康医学の開拓に向けた視点を提示する。	○	○	田原康玄
9	観察研究の最近の話題	医学研究の中で大きな割合を占める観察研究に関する、最近の話題(限界やその克服など)についての概説を行う。	○	○	竹内正人
10	暮らしと予防	健康寿命延伸のための「暮らしと予防」について、看護職の視点から提案し考察する。	○	○	田原康玄
11	現代の栄養の課題と社会健康医学	人間栄養学からみた現代的な健康課題を提示し、社会健康医学の視点からアプローチ法を考察する。	○	○	田原康玄
12	健康施策と市民参画	健康政策の中での市民参画の現状と課題について考察する。	○	○	高山智子
13	静岡県の取組(関連主要政策)	静岡県(庁)が重点的に取り組む健康福祉政策と健康関連産業振興策について理解し、政策立案の背景と狙い、期待される効果を考察する。	○	○	田原康玄
14	薬剤による健康被害	薬剤による健康被害・薬疹について考える	○	○	田原康玄
15	血管の健康と生活習慣病	血栓症発症の分子機構と生活習慣病の関連の知見を紹介し、その成果の実装化の方策を議論する。血栓症を例に取り、基礎医学と健康社会医学の連携の可能性を議論したい。	○	○	田原康玄
評価方法	積極的な参加度(100%) <成績評価の前提条件>必修科目のため、全ての授業回に出席すること。				
テキスト	講義内容に応じた資料を配布				
参考書	なし				
授業時間外に行う学修内容	復習:講義内容に関連した文献を読み、理解を深めること。				
備考					

科目名	公衆衛生危機管理論		学 期	後期		
履修区分	選択科目		曜日・時限	土曜 4 限		
単 位 数	2 単位 (90 分 × 15 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	森 寛子		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	社会健康医学概論		
担当教員	森 寛子、天笠 崇、溝田友里					
科目概要	<p>公衆衛生を取り巻く危機管理のアプローチは地域行政が地域の課題を汲みつつ対応している。静岡の現状について、行政担当者から講義を受け、公衆衛生における危機管理の重要性と対策を理解する。さらに、専門職として緊急事態への関与を考え、支援する立場に立つ意味を自覚する。</p> <p>(オムニバス方式 一部共同/全 15 回)</p> <p>(森寛子/5 回) 公衆衛生での緊急事態、危機下のコミュニケーションを中心に講義を行う。</p> <p>(天笠 崇/5 回) 虐待、精神疾患に関する講義を行う。</p> <p>(溝田友里/6 回) リスクコミュニケーション概論や、感染症に関する講義を行う。</p> <p>(学生発表と全体討議) 都道府県レベルの要配慮者避難支援マニュアルと比較するグループ学習を各授業の中で実施する。15 回目の授業でその成果についてグループごとに発表を行う。</p>					
到達目標	<p>専門職として緊急事態への関与を考え、支援する立場に立つ意味を自覚する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 災害時の避難での要配慮者の状況や課題を理解する。</li> <li>2. 感染症の健康危機管理について説明できる。</li> <li>3. リスクコミュニケーションについて説明できる。</li> <li>4. 疫学研究手法が災害研究に貢献できることを理解する。</li> <li>5. 虐待、精神疾患など社会問題の危機管理について説明できる。</li> </ol>					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	被災者である対人援助者の実際	東日本大震災において、自らが被災者でもある医療・介護スタッフの苦悩と実際の活動を、インタビューデータにより理解を深める。	○	△	森 寛子
	2	災害対策概論	ゲストスピーカーによる危機管理の概論の講義を行う。	○	△	天笠 崇
	3	疫学と災害(予定)	エビデンスの少ない災害研究であるが、古典的な疫学研究手法を用い災害危機から命を守るという視点から WHO が活動を始めている。支援と研究の両立、エビデンス構築論、そして倫理的配慮という災害疫学の最前線を学ぶ。	○	△	森 寛子
	4	リスクコミュニケーション(1)	リスクコミュニケーションの概説を受け、理解する。	○	△	溝田友里
	5	リスクコミュニケーション(2)	東日本大震災以降の大規模自然災害や新型コロナにおける自治体等の支援の経験豊富なゲストスピーカーにより、危機発生時の共通言語や情報について説明を受け、理解する。	○	△	溝田友里
	6	火山災害	火山活動等の自然災害において取るべき防災行動について考え、公衆衛生スタッフとしてどのように関与できるか検討する。	○	△	天笠 崇
	7	中毒	テロを含む化学中毒対策の実際について、ゲストスピーカーによる講義を受け、公衆衛生スタッフとしてどのように関与できるか検討する。	○	△	天笠 崇
	8	感染病態学	災害下で発生しやすい感染症と感染症そのものが災害となる COVID-19 などのバイオマーカーによる重症度、予後判定の可能性について概説する	○	△	森 寛子
	9	救急・救命	救急・救命等に関する指導経験豊富なゲストスピーカーにより、災害や感染症等の危機発生時の対応や体制について説明を受け、理解する。	○	△	溝田友里
10	感染症 (1) 静岡県における感染症対策	感染症対策の実務経験が豊富なゲストスピーカーにより、感染症対策の実際について解説を受け、公衆衛生スタッフとしてどのように関与できるか検討する。	○	△	溝田友里	

	11	感染症(2) 災害感染症	災害において発生しやすい感染症と感染症そのものが災害となる COVID-19 などのバイオマーカーによる重症度、予後判定の可能性について概説する。	○	△	森 寛子
	12	感染症(3) 行政によるCOVID-19 対策	感染対策の実務経験が豊富なゲストスピーカーにより、メディア対応を含めたリスク情報等の発信に関して、コロナワクチンを例に理解を深め、公衆衛生スタッフとしてどのように関与できるか検討する。	○	△	溝田友里
	13	虐待 隠蔽された個人レベルの危機	児童虐待をめぐる法制度など、児相の役割に絞った講義の後、事例紹介で理解を深める。	○	△	天笠 崇 溝田友里
	14	要配慮者への対応 (予定)	高齢者 障害者は脆弱な集団として特別な配慮が求められる。当事者に深く関与するゲストスピーカーにより、行政への要望やインクルージョンな災害対策を考える。	○	△	森 寛子
	15	発表	都道府県レベルの要配慮者避難支援マニュアル比較のグループ学習の発表を行い、全体で議論する。	○	×	森 寛子
評価方法	討論の参加度(20%)、リアクションペーパーによる意見交換(10%)、グループによる発表とレポート(70%) <成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3 以上の出席(全 15 コマ中 10 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	スライドハンドアウト					
参考書	「復興を見つめて-東京都健康長寿医療センター東日本大震災被災者支援プロジェクト5年半の取り組み」東京法規出版 「保健緊急事態および災害リスク管理のための研究方法に関する WHO ガイダンス 2022 年改訂」 <a href="https://extranet.who.int/kobe_centre/sites/default/files/documents/2023-09/Research%20Methoda%20Guidance%20in%20Japanese%202023.pdf">https://extranet.who.int/kobe_centre/sites/default/files/documents/2023-09/Research%20Methoda%20Guidance%20in%20Japanese%202023.pdf</a>					
授業時間外に行う学修内容	予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習:講義内容に関連した文献を読み、理解を深め、グループ学習の準備をすること。					
備考	グループ学習を設けており、毎回の授業で 15 分から 20 分程度をグループ作業に充てる予定のため、できる限りオンサイトまたはオンラインで参加することが望ましい。  (16 回目の授業(評価には入りませんが、受講することを強くお勧めします。) 災害精神医学 災害時の精神的な活動経験が豊富なゲストスピーカーによる取組の実際について講義を受け、公衆衛生スタッフとしてどのように関与できるか検討する。					

科目名	基礎医学講座		学 期	前期前半		
履修区分	選択科目		曜日・時限	土曜 6 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	菅原 照		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	菅原 照、森 潔、田中仁啓					
科目概要	医療系学部以外を卒業した学生が、公衆衛生に関わるために不可欠な医学に関する基礎知識について講義を行う。 (オムニバス方式/全 8 回) (菅原照/3 回) 身体の仕組み、組織学・病理学、医療職に必要な基礎医学に関する講義を行う。 (森潔/3 回) 生理学・薬理学・免疫学などの基礎知識に関する講義を行う。 (田中仁啓/2 回) 人体の構造と機能、内科学の基礎知識に関する講義を行う。					
到達目標	解剖学・組織学/病理学・生理学・薬理学・免疫学・内科学などの基本を理解する。					
授業展開	回	テーマ	内 容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	概説と身体の仕組み	本講義の進め方と、身体の仕組み、医学の歴史について解説する。	○	○	菅原 照
	2	解剖学の基礎	解剖学の基礎を解説する。	○	○	田中仁啓
	3	生理学の基礎	ゲストスピーカーを招聘し、生理学の基礎を解説する。	○	○	菅原 照
	4	組織学・病理学の基礎	組織学・病理学の基礎を解説する。	○	○	菅原 照
	5	薬理学の基礎	ゲストスピーカーを招聘し、薬理学の基礎を解説する。	○	○	菅原 照
	6	免疫学の基礎	ゲストスピーカーを招聘し、免疫学の基礎を解説する。	○	○	森 潔
	7	内科学の基礎	内科学の基礎を解説する。	○	○	田中仁啓
	8	総括	医療職に必要な基礎医学について補足・総括を行う。	○	○	菅原 照
評価方法	講義における議論への参加度(30%)、レポート(70%) <成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	授業ハンドアウト配布					
参考書	なし					
授業時間外に 行う学修内容	予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した文献を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考						

科目名	高齢者ケア概論		学 期	後期前半		
履修区分	必修科目		曜日・時限	土曜 5 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	森 寛子		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	森 寛子					
科目概要	超高齢化社会を高齢者のみに焦点化した狭い視野ではなく、社会全体を鳥瞰する視座から再考する。個人差が大きく慢性疾患併存が特徴の高齢者の健康を理解し、長寿をとりまく現状や課題などを講義し、ケアの提供システムだけではない超高齢化社会の在り方を議論し理解を深める。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会健康医学における高齢者の介護予防と介護支援の取り組みを学ぶ。さらに、家族介護者の向き合う問題などについて講義とディスカッションで理解を深める。</li> <li>2. 高齢者ケア＝介護ではない、社会全体としての世代問題であることを理解し、エビデンスに基づいた議論を展開できる。</li> <li>3. 介護による地域社会と個人への影響を、幅広い視点から理解をする。</li> </ol>					
授業展開	回	テーマ	内 容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	高齢化の日本の課題	超高齢化社会の日本の課題について講義を行い、高齢者に関する研究の基本的視座を学ぶ。	○	○	森 寛子
	2	介護制度	公的介護保険制度の国際比較とともに、日本の介護保険制度を理解する。	○	○	森 寛子
	3	高齢者の医療費と介護費	高齢者の社会保障制度では、医療費と介護費の総合的な把握が重要であることを、レセプトデータを提示して理解を促す。	○	○	森 寛子
	4	家庭内介護の担い手	社会学のゲストスピーカーを招聘し、老々介護のみならず、10 代青年層や男性介護者など多様な家族介護者の存在に気づき、介護離職などの課題を認識する。	○	○	森 寛子
	5	社会的孤立	社会学のゲストスピーカーを招聘し、老々介護のみならず、10 代青年層や男性介護者など多様な家族介護者の存在に気づき、介護離職などの課題を認識する。	○	○	森 寛子
	6	認知症者へのコミュニケーション	個人の意思を尊重することから認知症者とのコミュニケーションについて理解し、地域社会との共生を考える。	○	○	森 寛子
	7	介護予防	介護予防の重要性を理解し、地域社会での互助を促進させる社会の仕組みについて考え、グループディスカッションを行う。	○	○	森 寛子
	8	レジリエンス	「極度の不利な状況に直面しても、正常な平衡状態を維持できる」レジリエンス(Bonanno,G)研究を概説した後、高齢者介護についてグループディスカッションを行う。	○	○	森 寛子
評価方法	レポート(40%)、グループディスカッション(40%)、講義内の議論参加への参加度(20%) <成績評価の前提条件>必修科目のため、全ての授業回に出席すること。					
テキスト	ハンドアウト					
参考書	授業展開の必要に応じてその都度提示する。					
授業時間外に行う学修内容	授業前に提示した課題を考えて、簡単なレポートを提出する。講義子に示された課題に関するレポートを提出する。					
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「高齢者ケア特論」の履修にあたっては、本科目の単位修得を必須とする。</li> <li>・ 「医療・ケア組織論」の履修にあたっては、本科目の単位修得が望ましい。</li> </ul>					



科目名	公的統計活用法		学 期	後期後半		
履修区分	選択科目		曜日・時限	土曜 5 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	佐藤康仁		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	佐藤康仁					
科目概要	国の行政機関・地方公共団体などが作成した公的統計を、社会健康医学研究に活用できるよう、公的統計の概要、公的統計の利用および二次利用の方法と活用例について講義するとともに、公的統計を利用した研究論文を用いて演習を行う。					
到達目標	1. わが国の公的統計と統計制度について、内容を説明することができる。 2. 公的統計調査の実際について、方法を説明することができる。 3. 公的統計の二次利用について、手順を説明することができる。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド*	担当教員
	1	統計と統計制度(1)	統計と統計調査、統計調査の必要性、統計・統計調査の種類、厚生統計の調査体系について解説する。	○	○	佐藤康仁
	2	統計と統計制度(2)	統計組織の概要、厚生統計の組織、統計調査の統計法規による区分、統計法の概要について解説する。	○	○	佐藤康仁
	3	統計調査の実際(1)	標本抽出法と標本設計、調査の企画、調査票の設計、統計表様式の設計について解説する。	○	○	佐藤康仁
	4	統計調査の実際(2)	実査法、調査票の受付・入力、データ処理、分析、公表とデータ保存について解説する。	○	○	佐藤康仁
	5	公的統計の基礎知識	公的統計に用いる主な用語、統計指標、統計基準、ICD-10、ICF について解説する。	○	○	佐藤康仁
	6	公的統計の二次利用	公的統計のマイクロデータ利用(匿名データの利用、オーダーメイド集計の利用、調査票情報の利用)について解説する。	○	○	佐藤康仁
	7	公的統計を利用した研究(1)	公的統計を利用した研究論文(和文)を講読して、ディスカッションを行う。	○	○	佐藤康仁
8	公的統計を利用した研究(2)	公的統計を利用した研究論文(英文)を講読して、ディスカッションを行う。	○	○	佐藤康仁	
評価方法	講義における議論への参加度(30%)、レポート(70%) <成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じた資料を配布					
参考書	「厚生統計テキストブック 第 7 版」厚生労働統計協会(2020) 「日本の公的統計・統計調査 第三版」立教大学社会情報教育研究センター(2023)					
授業時間外に行う学修内容	予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考						

科目名	文献検索法・文献評価法		学 期	前期前半		
履修区分	必修科目		曜日・時限	土曜 4 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	佐々木八十子		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	佐々木八十子					
科目概要	社会健康医学領域において、基本的なスキルの1つである文献検索の方法と、疫学、EBM(根拠に基づく医療)の知識をもとに、各種の健康・医療情報を検索し、批判的に評価し、主体的に活用する方法について解説するとともに、実際の文献を用いた演習を行い、理解を深める。					
到達目標	1. 各種データベースを活用して、社会健康医学に関する情報を系統的に検索できるようになる。 2. 文献評価の基本を理解し、得られた文献・情報を批判的に評価できるようになる。 3. 文献評価の結果を主体的に活用できるようになる。					
授業展開	回	テーマ	内 容	オン ライン	オンデ マンド*	担当教員
	1	文献検索の基本	EBM の考えにもとづいた CQ のつくり方、電子ジャーナル・データベース利用の解説及び演習を行う。	○	○	佐々木八十子
	2	医学文献データベース (1)	ゲストスピーカーを招聘して、医中誌 Web、PubMed(基礎)の使い方の解説及び演習を行う。	○	○	佐々木八十子
	3	医学文献データベース (2)	PubMed(応用)の使い方の解説及び演習を行う。	○	○	佐々木八十子
	4	医学文献データベース (3)	コクラン・ライブラリーの使い方の解説及び演習を行う。	○	○	佐々木八十子
	5	文献管理	各種ソフトウェアによる文献管理方法の解説及び演習を行う。	○	○	佐々木八十子
	6	医学系論文の評価(1)	文献評価の基本 観察研究論文の評価の解説及び演習を行う。	○	○	佐々木八十子
	7	医学系論文の評価(2)	臨床試験論文の評価の解説及び演習を行う。	○	○	佐々木八十子
	8	医学系論文の評価(3)	コクランのバイアスリスク評価、システムティックレビューの評価について解説及び演習を行う。	○	○	佐々木八十子
評価方法	授業やディスカッションの参加度(20%)、事前課題・最終レポート(80%) <成績評価の前提条件>必修科目のため、全ての授業回に出席すること。					
テキスト	講義内容に応じて資料配布					
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床研究と疫学研究のための国際ルール集, 中山健夫, 津谷喜一郎編著, (ライフサイエンス出版)</li> <li>コクランレビューハンドブック(The Cochrane Collaboration)</li> <li>PICO から始める医学文献検索のすすめ, 小島原典子, 河合富士美編集(南江堂)</li> </ul>					
授業時間外に 行う学修内容	予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読し、事前課題を行う。 復習: 講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考						

科目名	プレゼンテーション・ライティングスキル		学 期	前期前半		
履修区分	必修科目		曜日・時限	金曜 5 限		
単 位 数	1 単位 (90 分 × 8 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	藤本修平		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	藤本修平、田中仁啓、佐々木八十子					
科目概要	<p>研究成果の発表や研究資金獲得のためのプレゼンテーション、学術論文、報告書の執筆に当たっての効果的な技法について講義を行うとともに、演習形式でプレゼンテーションを行いスキルの獲得を指導する。 (オムニバス方式／全 8 回) (藤本修平／5 回) 論文やスライド作成のコツ、プレゼンテーションスキルに関する講義を行うとともに、プレゼンテーションを通じてスキルの指導を行う。 (田中仁啓／1 回) ChatGPT を活用した英文作成・翻訳の基本的事項及びその注意点を説明し、実際の論文執筆への活用法を説明する。 (佐々木八十子／2 回) 英文科学論文の基本的スタイルや投稿雑誌の規定に関する講義を行う。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>与えられた媒体と想定される対象者に合わせて、適切な資料が作成できる。</li> <li>研究成果を的確により広く伝えるためのアカデミックデザインの基本を獲得する。</li> <li>科学論文執筆の基本を理解し、自らの執筆に活用できる。</li> </ol>					
授業展開	回	テーマ	内 容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	一般向けと学術向けの文章	読者を規定し練られた文章は人の心を動かすことを理解する。研究参加依頼文、助成金獲得など、目的に合わせた執筆を概説する。	○	○	藤本修平
	2	ポスター	A0 版のポスター作製のための Tips について、基礎的なビジュアルマーケティングの手法を紹介しながら、近年のポスター作成の動向を解説する。	○	○	藤本修平
	3	PPT で描く	特別なソフトを使わなくても、PPT の基本機能やアドインを活用することで多彩な概念図や構造図が描けることを解説する。	○	○	藤本修平
	4	フォント・色と Figure・Table 作成	フォントや色彩は、人の心理に大きく作用し、多くの情報を伝達することを理解する。行間調整、一行の文字数など基本的なことを踏まえ、Table や Figure への適用理解を深める。	○	○	藤本修平
	5	英文科学論文	IMRaD 形式の論文、パラグラフ展開の基本、論文引用スタイルなど、基本的項目の理解が良い論文執筆につながることを学ぶ。また、英文の基本的スタイルを解説する。	○	○	佐々木八十子
	6	投稿雑誌	投稿雑誌の Aim や対象読者によって、論文のイントロダクションやディスカッションの内容は変わるため、投稿雑誌を絞り込み、投稿規定から得られる情報を論文執筆に反映するヒントを解説する。	○	○	佐々木八十子
	7	ChatGPT の活用	大規模言語モデルを活用した文章作成や翻訳の基本的事項及びその注意点を踏まえ、効率的な論文執筆の理解を深める。	○	○	田中仁啓
8	プレゼンテーション	与えられた時間内で、どの様に聴衆の関心を集めるかなどのヒントだけでなく、自分らしさを活かしたプレゼンテーションを目指してゆくために、必要なスキルを解説し、演習を行う。	○	○	藤本修平	
評価方法	講義ごとに課すレポート(60%)、最終発表(40%) <成績評価の前提条件>必修科目のため、全ての授業回に出席すること。					
テキスト	講義内容に応じて資料配布					
参考書	授業展開の必要に応じてその都度提示する。					
授業時間外に行う学修内容	予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考						

科目名	疫学概論		学 期	前期後半		
履修区分	必修科目		曜日・時限	金曜 4 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	小島原典子		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	小島原典子					
科目概要	(小島原典子/8 回)臨床上、または公衆衛生上の疑問を構造化し、研究の基本設計図を作成するために必要な理論や基本的知識について講義を行う。後半は、疫学論文を読んで研究デザイン別に解説、討論を行う。					
到達目標	1. 研究デザインと疫学的尺度について説明できる。 2. バイアスと研究の限界について説明できる。 3. 研究デザインごとに論文を批判的に読むことができる。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	疫学とは	疫学とクリニカルクエスチョンについて解説し、本科目の進め方の説明を行う。	○	○	小島原典子
	2	バイアスと交絡	研究デザインとバイアスについて解説する。	○	○	小島原典子
	3	疫学 研究のデザイン (1)	横断研究(診断又はスクリーニング)の論文についてグループ発表を行い、批判的に読むポイントを解説する。	○	○	小島原典子
	4	疫学 研究のデザイン (2)	症例対照研究(リスク)の論文についてグループ発表を行い、批判的に読むポイントを解説する。	○	○	小島原典子
	5	疫学 研究のデザイン (3)	コホート研究(予後)の論文についてグループ発表を行い、批判的に読むポイントを解説する。	○	○	小島原典子
	6	疫学 研究のデザイン (4)	介入研究(無作為比較試験)の論文についてグループ発表を行い、批判的に読むポイントを解説する。	○	○	小島原典子
	7	疫学 研究のデザイン (5)	システマティックレビュー(メタアナリシス)の論文についてグループ発表を行い、批判的に読むポイントを解説する。	○	○	小島原典子
	8	総括	疫学の歴史について動画を視聴し、振り返りの討論を行う。	○	○	小島原典子
評価方法	討論の参加態度(50%)、発表(50%) <成績評価の前提条件>必修科目のため、全ての授業回に出席すること。					
テキスト	はじめて学ぶやさしい疫学 日本疫学会(2018)南江堂					
参考書	・ 臨床研究と疫学研究のための国際ルール集 中山健夫・津谷喜一郎編著(2008) ライフサイエンス出版 ・ 臨床研究と疫学研究のための国際ルール集 Part2 中山健夫・津谷喜一郎編著(2016) ライフサイエンス出版					
授業時間外に行う学修内容	予習:あらかじめ配布した講義資料を読む。 発表担当者は事前に PPT 資料を準備する。					
備考	「疫学研究・臨床研究特論」の履修にあたっては、本科目の単位修得を必須とする。					

科目名	疫学研究・臨床研究特論		学 期	後期後半		
履修区分	選択科目		曜日・時限	金曜 5 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	疫学概論		
科目責任者	田原康玄		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	田原康玄、田中仁啓、佐藤洋子					
科目概要	<p>リサーチクエスションの設定から研究仮説の立案、研究デザインの構築、データの収集、データ解析、学術的な結果の解釈まで、実際の観察研究データの解析を通じて学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全 8 回)</p> <p>(田原康玄/4 回) 観察研究(コホート研究)のデザインの構築、データ収集・解析する手法の概説を行い、DAG を用いた因果推論について講義を行う。実際の観察研究データベースを利用した解析・発表実習を行う。</p> <p>(田中仁啓/2 回) 研究計画書作成について解説する。日本・米国の公共データベースのハンズオン実習を通し、公共データベースについて講義を行う。</p> <p>(佐藤洋子/2 回) 観察研究データの代表的な解析方法として、統計学的因果推論、リスク因子探索や予測モデル構築についての講義を行う。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 疫学研究を立案し、適切な研究プロトコルを組み立て、研究計画書を作成できる。</li> <li>2. 適切なデータ解析方法を選択し、基本的な解析を実施できる。</li> <li>3. 観察研究の目的に応じた解析手法として、因果推論やリスク因子探索・予測モデル構築を行うことができる。</li> <li>4. 解析結果を適切に解釈できる。</li> </ol>					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	データ解析の実際	観察研究(コホート研究)のデータを解析する手法を学び、リサーチクエスションを決めて解析に取り組む	○	○	田原康玄
	2	因果推論	DAG を理解した上で、因果推論の基礎を学ぶ	○	○	田原康玄
	3	交絡因子の調整	観察研究における統計的因果推論(交絡因子の調整)の代表的な手法(重回帰モデル、傾向スコアモデルなど)について学ぶ	○	○	佐藤洋子
	4	リスク因子探索・予測モデル構築	リスク因子探索や予測モデル構築の手法について学び、統計学的因果推論との考え方の違いを理解する	○	○	佐藤洋子
	5	研究計画書の作成	研究計画書作成を行う上で留意すべき事項に関して、実際の研究計画書・論文を使用し理解を深める。	○	○	田中仁啓
	6	公共データベース解析	日本・米国の公共データベースにハンズオン形式で触れることを通し、公共データベースへの理解を深める。	○	○	田中仁啓
	7	解析結果の発表	観察研究の解析結果を発表する。結果の批判的吟味を通じて、疫学研究の手法を実践的に身につける。	○	×	田原康玄
8	解析結果の発表	観察研究の解析結果を発表する。結果の批判的吟味を通じて、疫学研究の手法を実践的に身につける。	○	×	田原康玄	
評価方法	<p>演習や討論への積極的な参加度(70%)、レポート(30%)</p> <p>&lt;成績評価の前提条件&gt; 選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。</p>					
テキスト	講義内容に応じた資料を配布					
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Wonderful R 5 統計的因果推論の理論と実装 高橋将宜</li> <li>・ 医学的研究のデザイン 研究の質を高める疫学的アプローチ 第 4 版 木原雅子・木原正博(記)</li> </ul>					
授業時間外に行う学修内容	<p>予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。</p> <p>復習: 演習で討議した内容の振り返りを通じて理解を深めるとともに疑問点を解決すること。</p>					
備考	第 7 回、第 8 回はオンデマンド不可。					

科目名	臨床研究概論		学 期	後期前半		
履修区分	必修科目		曜日・時限	土曜 3 限		
単 位 数	1 単位 (90 分 × 8 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	佐藤康仁		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	佐藤康仁					
科目概要	臨床研究・疫学研究を行うために必要な研究デザイン、データの収集、統計解析など基本的な医学研究の方法論について講義するとともに、臨床研究・疫学研究の論文を用いて演習を行う。					
到達目標	1. 臨床研究・疫学研究のデザインについて、分類とそれぞれの特徴を説明できる。 2. 統計解析について、どのような時にどのような手法を使うのか説明できる。 3. CONSORT 声明と STROBE 声明について、内容を説明することができる。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	研究の構想	PICO、PECO、文献検索、文献データベース、疫学・統計学用語について解説する。	○	○	佐藤康仁
	2	臨床研究のデザイン (1)	観察研究の概要、コホート研究、症例対照研究、ケース・コホート研究、ケース・クロスオーバー研究について解説する。	○	○	佐藤康仁
	3	臨床研究のデザイン (2)	介入研究の概要、ランダム割り付け、盲検化、クロスオーバー・デザイン、NNT について解説する。	○	○	佐藤康仁
	4	統計解析(1)	変数の特性、データの要約、t検定、カイ二乗検定、相関と回帰、生存曲線の描き方について解説する。	○	○	佐藤康仁
	5	統計解析(2)	多変量解析、説明変数の選択、多変量解析の限界、ロジスティック回帰分析、コックス回帰分析について解説する。	○	○	佐藤康仁
	6	研究結果の公表	研究成果公表の義務、論文の構成、CONSORT 声明、STROBE 声明、査読対応について解説する。	○	○	佐藤康仁
	7	臨床研究・疫学研究の 論文講読(1)	臨床研究・疫学研究の論文(和文)を講読して、ディスカッションを行う。	○	○	佐藤康仁
8	臨床研究・疫学研究の 論文講読(2)	臨床研究・疫学研究の論文(英文)を講読して、ディスカッションを行う。	○	○	佐藤康仁	
評価方法	講義における議論への参加度(30%)、レポート(70%) <成績評価の前提条件>必修科目のため、全ての授業回に出席すること。					
テキスト	講義内容に応じた資料を配布					
参考書	「臨床研究の教科書—研究デザインとデータ処理のポイント 第2版」医学書院(2020) 「医学のあゆみ 現代の臨床研究のための統計学 2022—洗練された研究デザインと統計解析を理解してみよう」医歯薬出版(2022)					
授業時間外に 行う学修内容	予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習:講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考	「疫学・ゲノム疫学特論」の履修にあたっては、本科目の単位修得を必須とする。					

科目名	疫学・ゲノム疫学特論		学 期	後期後半		
履修区分	選択科目(遺伝カウンセラー養成コース必修科目)		曜日・時限	土曜 3 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	臨床研究概論		
科目責任者	田原康玄		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	田原康玄、栗山長門、木下和生、寺尾知可史					
科目概要	<p>我が国の代表的なコホート・ゲノムコホートを事例に、疫学・ゲノム疫学研究の方法論について実践的に解説する。 (オムニバス方式/全 8 回) (田原康玄/4 回)ながはまコホートを例に、多因子疾患を中心として研究テーマの設定、テーマに応じたデータ集取や解析方法、結果の解釈方法について解説する。国内の主要なコホートから研究者を招き、コホート毎に異なるデータ収集や研究の戦略・方針について解説する。 (栗山長門/2 回)我が国における多施設共同コホート研究を例に、研究テーマの設定、テーマに応じたデータ集取や解析方法、結果の解釈方法、共同研究の立案・運営方法について解説する。 (木下和生/1 回)コホートでの検体収集・管理、ゲノム解析、データベース化、データ管理について解説する。 (寺尾知可史/1 回)比較的低頻度な疾患のゲノムコホート研究について、研究テーマの設定、テーマに応じたデータ集取や解析方法、結果の解釈方法について解説する。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 我が国のコホート・ゲノムコホートの代表例とそれぞれの特性について理解する。</li> <li>2. 研究目的に応じたコホートを設定するための基礎的知見を得る。</li> <li>3. コホートデータの解析方法や結果解釈について実例から理解を深める。</li> </ol>					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	地域コホート研究の基礎	地域コホートにおける研究テーマの設定とテーマに応じたコホート構築のための理論を解説する。	○	○	田原康玄
	2	地域コホート研究の実践(1)	ながはまコホートを例に、研究テーマに応じた臨床情報の収集やその解析方法、結果の解釈方法について解説する。	○	○	田原康玄
	3	地域コホート研究の実践(2)	コホート研究に造詣の深い研究者を招聘し、実例に基づいてコホート研究の実際を学ぶ①。	○	○	田原康玄
	4	地域コホート研究の実践(3)	コホート研究に造詣の深い研究者を招聘し、実例に基づいてコホート研究の実際を学ぶ②。	○	○	田原康玄
	5	多施設共同研究の基礎	多施設共同研究における研究テーマの設定とテーマに応じた共同研究体制構築・運営のための理論を解説する。	○	○	栗山長門
	6	多施設共同研究の実践	J-MICC 研究を例に、研究テーマに応じた臨床情報の収集やその解析方法、結果の解釈方法について解説する。	○	○	栗山長門
	7	コホート研究におけるゲノム解析	コホートでの検体収集・管理、ゲノム解析、データベース化、データ管理について解説する。	○	○	木下和生
	8	コホートの実例と成果	比較的低頻度な疾患のゲノムコホート研究について、研究テーマの設定からデータ解析までを解説する。	○	○	寺尾知可史
評価方法	講義における議論への参加度(20%)、レポート(80%) <成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じた資料を配布					
参考書	なし					
授業時間外に行う学修内容	予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習:演習で討議した内容を振り返り、レポートを作成すること。					
備考						

科目名	システマティックレビュー概論		学 期	後期後半		
履修区分	選択科目		曜日・時限	金曜 3 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 1		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	小島原典子		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	小島原典子、佐々木八十子					
科目概要	システマティックレビューを行うために必要なレビュークエスションの設定、文献検索、バイアスリスクの評価など基本的な方法論について講義を行う。定量的システマティックレビュー、エビデンス総体の質の評価については併せて演習を行う。 (小島原典子/8 回)コクランハンドブックから基本的なステップに関わる章を抜粋して介入研究のシステマティックレビューの解説を行う。講義の後半では演習を行い、その結果を小レポートとして提出する。					
到達目標	1. レビュークエスションを作成して研究計画を作成できる。 2. 文献検索、スクリーニングの経過を PRISAM 声明に沿ってまとめることができる。 3. バイアスリスクの評価を行い、定性的・定量的システマティックレビューを行うことができる。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	システマティックレビュー概論	研究計画とレビュークエスションの設定	○	○	小島原典子
	2	文献検索	PubMed とコクランライブラリの検索について PRISMA 声明に沿ってまとめる。	○	○	小島原典子
	3	文献集合の作成	Rayyan によるスクリーニングを行う。	○	○	小島原典子 佐々木八十子
	4	バイアスリスクの評価	ROB2 の評価	○	○	小島原典子 佐々木八十子
	5	定性的システマティックレビュー	定性的システマティックレビューについて解説する。	○	○	小島原典子
	6	メタアナリシス	定量的システマティックレビューを行う。	○	○	小島原典子
	7	エビデンス総体の質の評価	エビデンス総体の質の評価の演習を行う。	○	○	小島原典子
8	システマティックレビュー論文の構成と評価	Summary of findings table の作成とシステマティックレビュー論文の評価について概説する。	○	○	小島原典子	
評価方法	講義における議論への参加度(50%)、小レポート(50%) <成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	診療ガイドラインのための GRADE システム 3 版 (2018) 中外医学社					
参考書	Cochrane Handbook for Systematic Reviews of Interventions (2018) Wiley					
授業時間外に行う学修内容	予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した文献を読み、理解を深めること。					
備考	2023 年度開講(2022 年度以前の入学者は履修不可)					



科目名	診療ガイドライン概論		学 期	前期後半		
履修区分	選択科目		曜日・時限	金曜 5 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 1		
配当年次 (履修推奨年次)	2 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	佐藤康仁		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	佐藤康仁					
科目概要	診療ガイドラインの国際的な作成方法である GRADE(Grading of Recommendations, Assessment, Development and Evaluation)システムについて解説するとともに、診療ガイドラインの国際的な評価方法である AGREE II(The Appraisal of Guidelines for Research and Evaluation II)を用いて、診療ガイドライン評価の演習を行う。					
到達目標	1. 診療ガイドライン(CPG)の定義について、説明することができる。 2. 診療ガイドラインの作成方法である GRADE システムについて、内容を説明することができる。 3. 診療ガイドラインの評価方法である AGREE II について、内容を説明することができる。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド*	担当教員
	1	診療ガイドラインとは	診療ガイドラインの定義、診療ガイドラインに期待される役割、診療ガイドライン作成の全体像について解説する。	○	○	佐藤康仁
	2	スコープの作成	COI の申告、重要臨床課題、CQ(クリニカルクエスション)の構成要素、CQ の作成について解説する。	○	○	佐藤康仁
	3	システマティックレビュー	文献検索と文献スクリーニング、エビデンス総体の評価、定量的システマティックレビュー、SoF 表の作成について解説する。	○	○	佐藤康仁
	4	推奨の作成	EtD フレームワーク、推奨文草案の作成、推奨の決定方法、外部評価の方法について解説する。	○	○	佐藤康仁
	5	診療ガイドラインの評価方法(1)	AGREE II の使用に向けての準備、構成と内容、評価尺度と評価点について解説する。	○	○	佐藤康仁
	6	診療ガイドラインの評価方法(2)	AGREE II の各項目(領域 1~領域 6)、およびガイドライン全体の評価について解説する。	○	○	佐藤康仁
	7	診療ガイドラインの評価演習(1)	わが国で出版された診療ガイドラインを評価して、ディスカッションを行う。	○	○	佐藤康仁
8	診療ガイドラインの評価演習(2)	わが国で出版された診療ガイドラインを評価して、ディスカッションを行う。	○	○	佐藤康仁	
評価方法	講義における議論への参加度(30%)、レポート(70%) <成績評価の前提条件>選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じた資料を配布					
参考書	「Minds 診療ガイドライン作成マニュアル 2020 ver.3.0」日本医療機能評価機構(2021) <a href="https://minds.jcqh.or.jp/s/manual_2020_3_0">https://minds.jcqh.or.jp/s/manual_2020_3_0</a> 「AGREE II 日本語版」日本医療機能評価機構(2016) <a href="https://minds.jcqh.or.jp/s/evaluation_tool">https://minds.jcqh.or.jp/s/evaluation_tool</a> 「診療ガイドラインのための GRADE システム 第 3 版」中外医学社(2018)					
授業時間外に行う学修内容	予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習:講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考	2023 年度開講(2022 年度以前の入学者は履修登録不可)					

科目名	循環器臨床・疫学研究概論		学期	前期後半		
履修区分	選択科目		曜日・時限	金曜 3 限		
単位数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 1		
配当年次 (履修推奨年次)	2 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	田中仁啓		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	田中仁啓					
科目概要	授業の前半部分では、その日のテーマとなっている代表的な循環器疾患に関して概説する。授業後半部分では、その日学んだテーマ疾患に関連した代表的論文の抄読を行い、臨床・疫学研究で使用される頻度の高い研究手法への理解を深める。					
到達目標	1. 代表的な循環器疾患に関する疫学・病態生理・治療法を説明できる。 2. 臨床・疫学研究で使用される代表的な研究手法を理解し、結果を解釈できる。					
授業展開	回	テーマ	内容	オンライン	オンデマンド	担当教員
	1	虚血性心疾患 1	虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞など)の基礎を学び、関連する臨床・疫学研究論文の抄読を通じて循環器疾患予防・治療の現状と課題を理解する。	○	○	田中仁啓
	2	虚血性心疾患 2	外部講師を招聘し、虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞など)の基礎を学び、関連する臨床・疫学研究論文の抄読を通じて循環器疾患予防・治療の現状と課題を理解する。	○	○	田中仁啓
	3	弁膜症	外部講師を招聘し、心不全の基礎を学び、関連する臨床・疫学研究論文の抄読を通じて循環器疾患予防・治療の現状と課題を理解する。	○	○	田中仁啓
	4	心不全 1	心不全の基礎を学び、関連する臨床・疫学研究論文の抄読を通じて循環器疾患予防・治療の現状と課題を理解する。	○	○	田中仁啓
	5	心不全 2	外部講師を招聘し、不整脈疾患の基礎を学び、関連する臨床・疫学研究論文の抄読を通じ、循環器疾患予防・治療の現状と課題を理解する。	○	○	田中仁啓
	6	不整脈疾患	不整脈疾患の基礎を学び、関連する臨床・疫学研究論文の抄読を通じ、循環器疾患予防・治療の現状と課題を理解する。	○	○	田中仁啓
	7	大動脈疾患、末梢動脈疾患	大動脈疾患・末梢動脈疾患の基礎を学び、関連する臨床・疫学研究論文の抄読を通じて循環器疾患予防・治療の現状と課題を理解する。	○	○	田中仁啓
	8	その他の循環器疾患	その他の循環器疾患の基礎を学び、関連する臨床・疫学研究論文の抄読を通じて循環器疾患予防・治療の現状と課題を理解する。	○	○	田中仁啓
評価方法	演習や討論への積極的な参加度(70%)、レポート(30%) <成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じた資料を配布					
参考書	日本循環器学会 循環器病ガイドライン アメリカ心臓病学会 (AHA) ガイドライン ヨーロッパ心臓病学会(ESC) ガイドライン					
授業時間外に行う学修内容	講義資料、毎週授業で抄読する論文(特に方法論)を 1-2 本事前に熟読しておくこと。					
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>本科目で扱うテーマは循環器疾患であるが、論文の読み方は全ての分野に応用可能であるため、多くの生徒の積極的受講をお勧めしたい。循環器疾患に関する基礎知識は受講に不要だが、基本的な生化学・生理学・解剖学の知識はある方が望ましい。</li> <li>2023 年度開講(2022 年度以前の入学者は履修登録不可)</li> </ul>					

科目名	医療統計学概論		学期	前期		
履修区分	必修科目		曜日・時限	土曜 5 限(1~8 週)・土曜 6 限(9~15 週)		
単位数	2 単位(90 分×15 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	中谷英仁		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	中谷英仁					
科目概要	人を対象とした臨床、疫学研究では、個体差に伴う不確実性が付きまとい、統計学的方法が科学の議論のためにしばしば重要な役割を果たす。医学研究の計画及びデータ解析を行う上で必要となる医療統計学の基本的考え方(統計的仮説検定、推定、区間推定など)について講義を行うとともに、統計プログラミング SAS に関する演習を行う。					
到達目標	医療における研究の計画及びデータの解析を行う上で必要となる、医療統計学の原理を把握するために、基本的な統計手法や統計プログラミングの使用法を理解し、研究で使われる統計手法を正確に捉えられるようになる。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	導入	医学研究における統計学の役割を学ぶ。	○	○	中谷英仁
	2	確率の導入(1)	確率の導入を行い、診断法・コホート・ケースコントロール研究の例を通して、確率計算を学ぶ。	○	○	中谷英仁
	3	確率の導入(2)	確率計算を演習する。	○	○	中谷英仁
	4	離散分布(1)	統計的推測の基礎となる概念である確率変数と確率分布を導入し、離散確率分布を通して、期待値や分散、同時・周辺分布などの概念を学ぶ。	○	○	中谷英仁
	5	離散分布(2)	離散確率分布に関する期待値や分散、同時・周辺分布などの数値・数値計算を演習する。	○	○	中谷英仁
	6	連続分布(1)	連続確率分布を通して、期待値、分散、共分散、同時・周辺分布、条件付分布などの概念を学ぶ。	○	○	中谷英仁
	7	連続分布(2)	連続確率分布に関して、期待値、分散、共分散、同時・周辺分布、条件付分布などの数値・数値計算を演習する。	○	○	中谷英仁
	8	連続分布の標本分布論(1)	統計的推測の基本的な枠組みを学習する。正規標本に対する標本分布論の概略を学ぶ。	○	○	中谷英仁
	9	連続分布の標本分布論(2)	正規標本に対する標本分布論の数値・数値計算を演習する。	○	○	中谷英仁
	10	統計的仮説検定(1)	統計的検定の基本的な考え(P 値、帰無仮説、対立仮説、検出力、第一種の過誤、第二種の過誤など)を学ぶ。	○	○	中谷英仁
	11	統計的仮説検定(2)	統計的検定の基本的な考え(P 値、帰無仮説、対立仮説、検出力、第一種の過誤、第二種の過誤など)の数値計算を演習する。	○	○	中谷英仁
12	推定:信頼区間(1)	統計的推測(点・区間推定)の基本、信頼区間と検定の関連を学ぶ。	○	○	中谷英仁	

	13	推定:信頼区間(2)	推定値についての信頼区間と検定の関連に関する数値・数値計算を演習する。	○	○	中谷英仁
	14	統計プログラミング SAS(1)	データの取り込み、文字・数値の変換、SAS 日付データ取扱い、データの集計について演習する。	○	○	中谷英仁
	15	統計プログラミング SAS(2)	データの表現、検定(一標本、二標本)、マクロ、シミュレーションについて演習する。	○	○	中谷英仁
評価方法	試験(20%)、レポート(80%) <成績評価の前提条件>必修科目のため、全ての授業回に出席すること。					
テキスト	講義内容に応じた資料を配布					
参考書	統計学入門(基礎統計学 I)、東京大学出版会、1991、東京大学教養学部統計学教室					
授業時間外に行う学修内容	予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習:講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考	「医療統計学特論」、「臨床試験解析学」、「観察研究解析学」の履修にあたっては、本科目の単位修得を必須とする。					

科目名	医療統計学特論		学 期	後期		
履修区分	選択科目		曜日・時限	土曜 6 限		
単 位 数	2 単位 (90 分 × 15 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	医療統計学概論		
科目責任者	中谷英仁		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	中谷英仁					
科目概要	<p>実際の医学研究においては、複数の変数を対象にそれらの関連等を検討するため、具体的な研究事例を基に、統計的な概念・考え方がどのように拡張・適用されているかについて講義するとともに、統計解析用ソフトウェア SAS を用いた演習も併せて行う。</p> <p>主に、重回帰分析、一般化線形回帰モデル(ロジスティック回帰分析、対数回帰分析など)、生存時間解析(Cox 回帰分析)、経時測定データ解析(一般推定モデルなど)を講義・演習する。</p>					
到達目標	医療における研究の計画及びデータの解析を行う上で必要となる、複数の変数を対象とした統計的方法の考え方を把握するために、回帰分析、生存時間解析、経時測定データ解析や統計プログラミングを理解し、応用的な統計処理を実践できるようになる。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	線形回帰分析(1)	線形推測の行列表現の説明を行い、最小二乗法について解説する。	○	○	中谷英仁
	2	線形回帰分析(2)	多重共線性、回帰分析のための基礎的な技術(ダミー変数、交互作用など)について解説する。	○	○	中谷英仁
	3	線形回帰分析(3)	分散分析、回帰診断法について解説する。	○	○	中谷英仁
	4	線形回帰分析の演習	回帰分析に関するデータ解析の演習を行う。	○	○	中谷英仁
	5	一般化線形モデル(1)	最尤推定量、Fisher 情報行列、回帰診断法について解説する。	○	○	中谷英仁
	6	一般化線形モデル(2)	ロジスティック回帰分析、ポワソン回帰分析について解説する。	○	○	中谷英仁
	7	一般化線形モデルの演習	回帰分析に関するデータ解析の演習を行う。	○	○	中谷英仁
	8	Mantel-Haenszel 型推測	Mantel-Haenszel 検定、Breslow-Day 検定について解説する。	○	○	中谷英仁
	9	条件付ロジスティック回帰	Mantel-Haenszel 推定、条件付最尤法について解説する。	○	○	中谷英仁
	10	生存時間データの解析(1)	パラメトリックモデルの推測、Kaplan-Meier 推定量について解説する。	○	○	中谷英仁
	11	生存時間データの解析(2)	ログランク検定、Cox 比例ハザードモデルについて解説する。	○	○	中谷英仁
12	生存時間解析の演習	生存時間解析に関するデータ解析演習を行う。	○	○	中谷英仁	

	13	経時測定データの解析法(1)	欠測メカニズム MCAR, MAR, MNAR に関する説明を行う。	○	○	中谷英仁
	14	経時測定データの解析法(2)	一般線形混合効果モデル、平均構造と分散共分散構造について解説する。	○	○	中谷英仁
	15	経時測定データ解析の演習	経時測定データ解析に関するデータ解析演習を行う。	○	○	中谷英仁
評価方法	レポート(100%) <成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3 以上の出席(全 15 コマ中 10 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じた資料を配布					
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然科学の統計学(基礎統計学)、東京大学出版会、1992、東京大学教養学部統計学教室</li> <li>・一般化線形モデル入門 原著第 2 版、共立出版、2008、Annette J.Dobson, 田中 豊他(訳)</li> </ul>					
授業時間外に行う学修内容	<p>予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。</p> <p>復習: 講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。</p>					
備考	「臨床試験解析学」、「観察研究解析学」、「健康・医療ビッグデータ特論」の履修にあたっては、本科目の単位修得が望ましい。					

科目名	臨床試験解析学		学期	前期前半		
履修区分	選択科目		曜日・時限	土曜 3 限		
単位数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 1		
配当年次 (履修推奨年次)	2 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	医療統計学概論		
科目責任者	中谷英仁		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	医療統計学特論		
担当教員	中谷英仁					
科目概要	臨床試験における実施の流れ、基本的なデザイン、ランダム化の意義、試験デザイン(特に非劣性)、サンプルサイズ計算の方法、中間解析、データ管理及びモニタリング等について講義、演習を行う。					
到達目標	臨床試験の計画、実施、解析、報告するために必要となる、諸種の統計学関連事項を把握するために、実際の臨床試験の事例および基本事項の解説し、さらに医療統計学的な技術を講義・演習する。					
授業展開	回	テーマ	内容	オンライン	オンデマンド	担当教員
	1	臨床試験概論	臨床試験管理学のゲストスピーカーを招聘し、臨床研究の中の臨床試験、デザインの概説、試験の流れ、Phase、プロトコール記載および報告ガイドラインについて事例を踏まえて解説する。	○	○	中谷英仁
	2	ランダム化	ランダム化の概説、Fisher 先生による発明、予見不可能な割り付け、解析対象集団、個人に対するランダム化・最小化法、集団に対するクラスターランダム化、ランダム化の報告を概説する。	○	○	中谷英仁
	3	Estimand	ICH E9 での Estimand の概念、フレームワーク、プロトコールの逸脱と中間事象、同じ Estimand での感度解析について概説する。	○	○	中谷英仁
	4	試験デザイン(非劣性)	非劣性試験、非劣性マージン、分析感度、非劣性試験での生存曲線のクロス、優越性へのスイッチに概説するとともに、同等性試験(生物学的同等性試験、バイオシミラー)についても概説する。	○	○	中谷英仁
	5	サンプルサイズ設計(1)	サンプルサイズ設計に必要な事項、関連話題、事前の仮定の多さ、基本のサンプルサイズ計算、平均値の比較におけるサンプルサイズ計算を解説・演習する。	○	○	中谷英仁
	6	サンプルサイズ設計(2)	単群の割合の比較、対応のある 2 群の割合の比較、独立 2 群の割合の比較(非劣性も含め)、独立 2 群の生存時間の比較、コホート研究・ケースコントロール研究でのサンプルサイズを解説・演習する。	○	○	中谷英仁
	7	中間解析	中間解析と独立データモニタリング委員会、実例、有効性の中間解析、検定の多重性に対する対処、 $\alpha$ 消費関数というルール、ベイズ流中間モニタリングについて概説する。	○	○	中谷英仁
8	データ管理及びモニタリング	データ管理学のゲストスピーカーを招聘し、データマネジメント、医学研究でのデータの収集保存、データの精査・クリーニング、症例報告書(CRF)について概説する。	○	○	中谷英仁	
評価方法	レポート(100%) <成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じた資料を配布					
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床試験のデザインと解析—薬剤開発のためのバイオ統計(バイオ統計シリーズ)、角間 辰之、服部 聡、近代科学社</li> <li>サンプルサイズの設計、2010、山口拓洋</li> </ul>					
授業時間外に行う学修内容	予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考						

科目名	観察研究解析学		学 期	前期後半		
履修区分	選択科目		曜日・時限	土曜 3 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 1		
配当年次 (履修推奨年次)	2 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	医療統計学概論		
科目責任者	中谷英仁		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	医療統計学特論		
担当教員	中谷英仁					
科目概要	臨床・疫学研究にて、臨床試験のような実験研究が行えない場合に、諸種の観察研究が実施されているが、観察研究デザイン特有の問題への対処(統計的モニタリング、感度分析)が必要な場合が多いため、観察研究の解析(研究)デザイン、統計解析の方法について講義、演習を行う。 病因論的研究の報告、観察研究における解析デザイン・バイアス、交絡の調整解析、予測因子探索および予測モデル構築、競合リスクの解析、経時測定データのための一般化線形モデルの拡張、データベース研究について講義、演習を行う。					
到達目標	観察研究の計画、実施、解析、報告のために必要となる、諸種の統計学関連事項を把握するために、実際の疫学研究の事例および用語や基本的な事項の解説し、さらに医療統計学的な技術について講義・演習する。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	病因論的研究の報告	観察研究の報告ガイドンス、推測および記述疫学に関わる各研究(デザイン)の位置づけ、探索的、プロトコル、有意差とは、解析による解釈の違い等を概説する。	○	○	中谷英仁
	2	解析デザイン	内的・外的妥当性、RCT が観察研究より上か、効果の指標、観察研究デザイン(横断研究、コホート研究、(ネステッド・)ケース・コントロール研究、(コホート研究内)ケース・コホート研究を概説する。	○	○	中谷英仁
	3	バイアス	交絡(因果グラフによる交絡要因の同定)、選択バイアス(主に集団選択)、情報バイアス(系統的な誤差など)、簡単なバイアス解析(E-value など)について概説する。	○	○	中谷英仁
	4	交絡の調整解析(演習)	傾向スコアを用いた解析(傾向スコアマッチング、層別解析、逆確率重み付き推定、アウトカム回帰、二重頑健推定)の SAS による実行方法を解説し、サンプルデータを用いて演習を行う。	○	○	中谷英仁
	5	予測因子と予測モデル	予測因子探索および予測モデル構築についての、SAS による実行方法を解説し、サンプルデータを用いて演習を行う。欠測の取扱い、モデル選択、確率の予測 or スコア化、予測性能評価、AI 中の機械学習などを取り扱う。	○	○	中谷英仁
	6	競合リスクの解析	競合リスクを考慮する理由、発生率の推定における CIF・Grey 検定、競合リスクモデル(Cause-specific PH モデル、Fine-Gray モデル)、モデル間のハザードの違いについて概説する。	○	○	中谷英仁
	7	経時測定データのための一般化線形モデルの拡張	周辺モデル、変量効果モデル、推移モデルの違いを説明し、周辺モデルおよび一般化線形混合モデルでの推測・SAS による解析例、さらにモデル間の違いを概説する。	○	○	中谷英仁
	8	データベース研究	疫学の中でも、データベース研究の基盤となる薬剤疫学を概説する。データベースからの各種研究デザインを切り出すための共通言語、研究デザイン、Target 試験とニューユーザーデザインなどについて概説する。	○	○	中谷英仁
評価方法	レポート(100%) <成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じた資料を配布					
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 統計的因果推論、朝倉書店、2015、岩崎学</li> <li>・ サバイバルデータの解析—生存時間とイベントヒストリデータ、近代科学社、2010、赤澤 宏平、柳川 堯</li> <li>・ 経時データ解析、朝倉書店、2015、船渡川伊久子、船渡川 隆</li> </ul>					
授業時間外に行う学修内容	<p>予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。</p> <p>復習: 講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。</p>					
備考						



科目名	環境健康科学・産業衛生学概論		学 期	前期		
履修区分	必修科目		曜日・時限	土曜 3 限		
単 位 数	2 単位 (90 分 × 15 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	天笠 崇		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	天笠 崇、谷 幸則					
科目概要	<p>自然環境や社会環境といった環境と健康に関する科学の到達点、特に職場環境と労働者の健康の保持・増進に関する産業衛生学の過去と現在について学び、持続可能な開発目標(SDGs)という未来に向け社会健康医学の専門家に今求められる基礎知識について講義を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全 15 回)</p> <p>(天笠崇/12 回)社会環境と健康、産業衛生学(労働衛生管理、職業性疾病预防、メンタルヘルス対策等)について講義を行う。</p> <p>(谷幸則/3 回)環境汚染と健康影響、わが国の代表的な公害等、環境健康科学について講義を行う。</p>					
到達目標	<p>1. 環境が人の健康に影響を及ぼし得ることを理解し具体例で説明できる。</p> <p>2. 労働衛生の現況と三管理一教育について具体的事例を挙げて説明できる。</p> <p>3. 環境と職場における健康へのリスクのアセスメントとマネジメント法について説明できる。</p>					
授業展開	回	テーマ	内 容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	自然環境と健康(1)	環境健康科学のオリエンテーション、生物環境と、代表的な感染症及びその対策、新興・再興感染症とそれらの制御、外来種問題や森林破壊と健康等について解説する。	○	○	天笠 崇
	2	自然環境と健康(2)	地球規模の環境破壊(地球温暖化、酸性雨、砂漠化、オゾン層破壊等)と健康影響について解説する。	○	○	谷 幸則
	3	自然環境と健康(3)	環境汚染(大気・水質・土壌・騒音・放射線・環境化学物質等)と健康影響並びに環境保全について解説する。	○	○	谷 幸則
	4	自然環境と健康(4)	わが国の代表的な公害と起きた健康影響と対策、未来の環境健康科学にとっての教訓について解説する。	○	○	谷 幸則
	5	社会環境と健康(1)	文化・文明・宗教や政治や社会保障制度と健康影響(感染症、戦争・紛争・テロ、生活習慣病、精神疾患等)について講義する。	○	○	天笠 崇
	6	社会環境と健康(2)	都市化、少子高齢化や核家族化、格差と貧困や女性の社会進出(非婚・晩婚化等)といった主に社会環境の変化と健康影響(発達障害の横行、高齢者介護問題、引きこもり、健康格差、災害に脆弱な都市等)、並びに健康の保持・増進対策について解説する。	○	○	天笠 崇
	7	社会環境と健康(3)	核家族や単身(高齢)世帯の増加といった多様な家族形態の増加、女性の社会進出(共働き家庭)の増加(非婚・晩婚化等)、家族レジリエンスの低下(子育てや介護力の低下等)といった主に家庭環境の変化と健康影響、並びにその対策について講義する。	○	○	天笠 崇
	8	社会環境と健康(4)	神経発達症の増加を初めとした児童生徒の健康状態の変化、過度な競争、教職員の多忙化といった主に学校環境の変化と健康影響(いじめ、不登校、教職員のメンタル不全)、それらに対する対策について講義する。	○	○	天笠 崇
	9	社会環境と健康(5)	産業衛生学のオリエンテーション、就業・産業構造の変化と健康影響並びに労働衛生の現況について講義する。	○	○	天笠 崇
	10	労働衛生管理の基本	労働衛生管理の基本、健康確保対策、快適職場環境の形成について講義する。	○	○	天笠 崇
11	職業性疾病预防について(1)	リスクアセスメント・リスクマネジメント・リスクコミュニケーション、代表的な有害物質と健康影響並びにそれらの制御について講義する。	○	○	天笠 崇	

	12	職業性疾病予防について(2)	粉じん、電離放射線、酸欠、高気圧、騒音、振動、腰痛、熱中症などと予防対策について講義する。	○	○	天笠 崇
	13	メンタルヘルス対策について	一次予防(ストレスチェック制度、長時間労働対策)、二次予防(早期発見・早期適切な処遇)、三次予防(職場の復帰支援)について講義する。	○	○	天笠 崇
	14	作業環境の測定に基づく作業環境管理について	作業環境の測定方法、結果の評価と事後措置、局配装置などについて講義する。	○	○	天笠 崇
	15	最近のトピックスについて	過労死vs過労自殺、「働き方改革」の内容、両立支援、第13次防止計画、持続可能な開発目標(SDGs)などについて講義する。	○	○	天笠 崇
評価方法	最終レポート(50%)、中間レポート(30%)、ディスカッション参加度・発言内容(20%) <成績評価の前提条件>必修科目のため、全ての授業回に出席すること。					
テキスト	参考書の1・2番目を中心に作成予定の、講義用の資料で代えます。					
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ NEW 予防医学・公衆衛生学(南江堂)</li> <li>▪ 令和5年版労働衛生のしおり(中災防)</li> <li>▪ 沈黙の春(新潮文庫)</li> <li>▪ 感染症と文明(岩波新書)</li> <li>▪ 病気の社会史(岩波現代文庫)</li> <li>▪ 銃・病原菌・鉄(上)(下)(草思社文庫)</li> <li>▪ 四大公害病(中公新書)</li> <li>▪ 水俣病は終わっていない(岩波新書)</li> <li>▪ 健康格差(日本評論社)</li> <li>▪ 健康格差社会第2版(医学書院)</li> <li>▪ 雇用身分社会の出現と労働時間(桜井書店)</li> <li>▪ ファクトフルネス(日経BP)</li> <li>▪ サステイニング・ライフ(東海大学出版部)</li> </ul>					
授業時間外に行う学修内容	<p>予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。</p> <p>復習:講義内容に関連した参考書を読み、理解を深めること。</p>					
備考	「環境健康科学・産業衛生学特論」の履修にあたっては、本科目の単位修得を必須とする。					

科目名	環境健康科学・産業衛生学特論		学 期	後期前半		
履修区分	選択科目		曜日・時限	土曜 2 限		
単 位 数	1 単位 (90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	環境健康科学・産業衛生学概論		
科目責任者	天笠 崇		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	天笠 崇、雨谷敬史					
科目概要	環境健康科学・産業衛生学概論で学んだ内容を基に、具体的な有害物質の影響と対策、労働環境の改善の手法等について演習を行う。 (オムニバス方式／全 8 回) (天笠 崇／5 回)本科目のオリエンテーション、ストレスチェック制度の応用と職場巡視を通じた職場環境改善方法について講義、演習を行う。 (雨谷敬史／3 回)リスク・アナリシス、具体的な有害物の影響と対策、県における疾病予防対策の方法に関する内容について講義を行う。					
到達目標	1. 代表的な有害物質と職場環境の健康に与える影響を理解し対策について立案できる。 2. 県内の疾病統計について知り予防対策を立案できる。 3. ストレスチェックの実際を知り結果に基づいて対策を立てられる。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	本科目について	本科目の全体像について講義し、環境健康科学・産業衛生学概論で学んだ内容を踏まえ予防対策について体系的に学ぶ。	○	×	天笠 崇
	2	リスク・アナリシスについて	リスク・アセスメント、リスク・マネジメント、リスク・コミュニケーションについて、それらに対する県の取り組みについて講義する。	○	×	雨谷敬史
	3	健康障害防止対策について	代表的な有害物質と職場環境について、作業環境管理・作業管理について県の事例を交えながら講義する。	○	×	雨谷敬史
	4	有害物質による健康障害の実例	これまでに職場環境等で問題となったベンゼン、アスベスト、1,2-ジクロロプロパンなどの有害化学物質の健康影響について学ぶ。	○	×	雨谷敬史
	5	ストレスチェック制度の実際(1)	標準的なストレスチェックを受検し、個人結果と集団結果に基づいて具体的な対応プランを立てる。	○	×	天笠 崇
	6	ストレスチェック制度の実際(2)	集団結果に基づいて立てた具体的で効果的な実践方法として、参加型職場環境改善やストレスマネジメントプログラムについて演習しながら学ぶ。	○	×	天笠 崇
	7	職場巡視	複数業種の職場を対象に模擬的に職場巡視を行い、リスク要因とその対策についてディスカッションする。	○	×	天笠 崇
	8	発表会	あらかじめ選んだ有害物質が職場環境について、リスク・アセスメントの方法を選択し、具体的なマネジメント計画を立てた内容について発表する。	○	×	天笠 崇
評価方法	ディスカッション参加度・発言内容(20%)、演習への参加度(30%)、発表内容(50%) <成績評価の前提条件>選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じて資料配布					
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ NEW 予防医学・公衆衛生学(南江堂)</li> <li>▪ よくわかる専門基礎講座 公衆衛生 第 12 版(金原出版)</li> </ul>					
授業時間外に行う学修内容	予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習:演習で討議した内容を振り返るとともに、参考書を読み、理解を深めること。					
備考	第 8 回の発表に向け、毎回の授業で 30 分程度のグループワークを行うため、各回ともできるだけオンデマンドを避けるようにしてください。					

科目名	生活習慣病(生活習慣・遺伝子・環境)		学 期	後期後半		
履修区分	選択科目		曜日・時限	金曜 3 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	菅原 照		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	菅原 照、臼井 健、森 潔、溝田友里					
科目概要	<p>食事、運動、休養、喫煙、飲酒などの生活習慣により発症、進行する生活習慣病の概要と疫学的知見、予防のための取組について講義を行う。 (オムニバス方式／全 8 回) (菅原 照／4回)腎疾患、高血圧、糖尿病、肥満等における生活習慣、遺伝子、環境との関係に関する講義を行う。 (臼井 健／1 回)腸内細菌と生活習慣病との関係に関する講義を行う。 (森 潔／1 回)骨粗鬆症と生活習慣との関係に関する講義を行う。 (溝田友里／2 回)特定健診、特定保健指導による生活習慣の改善支援に関する講義を行う。</p>					
到達目標	<p>1. 主な生活習慣が疾患に及ぼす影響を環境・遺伝子の視点を含めて説明できる。 2. 特定健診と特定保健指導における生活習慣の意義とその改善支援を説明できる。 3. ヘルスプロモーションの視点から生活習慣と生活習慣病を説明できる。</p>					
授業展開	回	テーマ	内 容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	腎疾患	腎疾患と生活習慣の関係、食事療法による透析導入の回避について解説する。	○	○	菅原 照
	2	高血圧・糖尿病・脂質異常(1)	代表的な生活習慣病における生活習慣と遺伝子、環境の関係について解説する。	○	○	菅原 照
	3	高血圧・糖尿病・脂質異常(2)	臨床現場における生活習慣病の遺伝子、診断、個別治療について解説する。	○	○	菅原 照
	4	肥満	ゲストスピーカーを招聘し、肥満などの生活習慣病における生活習慣と遺伝子について解説する。	○	○	菅原 照
	5	骨粗鬆症	ゲストスピーカーを招聘し、骨粗鬆症と生活習慣病について解説する。	○	○	森 潔
	6	腸内細菌	腸内細菌と生活習慣病について解説する。	○	○	臼井 健
	7	生活習慣と健康、ヘルスプロモーション	生活習慣と健康、疾患の関係や、ヘルスプロモーションのあり方について解説する。	○	○	溝田友里
8	特定健診と特定保健指導	特定健診と特定保健指導から見た生活習慣の意義とその改善支援について解説する。	○	○	溝田友里	
評価方法	<p>毎回の小レポート(60%)、全体を通してのレポート(40%) &lt;成績評価の前提条件&gt; 選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。</p>					
テキスト	講義内容に応じて資料配布					
参考書	授業展開の必要に応じてその都度指示					
授業時間外に行う学修内容	<p>予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。</p>					
備考	本領域に関する基礎的な知識を有していることが望ましい。					

科目名	ヘルスコミュニケーション概論		学 期	前期後半		
履修区分	必修科目		曜日・時限	土曜 2 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	山本精一郎		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	山本精一郎、溝田友里					
科目概要	健康増進と疾病予防に関する情報伝達を効果的に行うためのコミュニケーション手法の基礎について講義を行う。特に対象の調査・分析に基づく適切なヘルスコミュニケーション戦略に関する理解を深める。					
到達目標	1. ヘルスコミュニケーションの基本的な概念を理解する。 2. 対象に応じて異なるヘルスコミュニケーション手法の特性を理解する。 3. 良好なヘルスコミュニケーションを実現するための手法を主体的に検証できる。					
授業展開	回	テーマ	内 容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	ヘルスコミュニケーション事業の流れ	実例を通し、ヘルスコミュニケーション事業の流れを理解する。	○	○	山本精一郎 溝田友里
	2	現状分析と対象者の理解	テーマと対象を定め、既存及び新規の情報を収集し、現状や提案されている解決策を把握する方法について解説を行う。	○	○	山本精一郎 溝田友里
	3	コミュニケーション戦略分析とセグメンテーション	対象に対するコミュニケーションがどのように行われているかを調べるとともに、対象のセグメンテーションの方法を解説する。	○	○	山本精一郎 溝田友里
	4	戦略ステートメントの作成	これまでの調査を基に、対象者、目標、障壁、メリット、チャネルなどを含んだコミュニケーション戦略ステートメントの作成方法を解説する。	○	○	山本精一郎 溝田友里
	5	コンセプト・メッセージの作成	これまでの調査を基に、それぞれのセグメントに対する介入戦略作りのコンセプト・メッセージの作成方法を解説する。	○	○	山本精一郎 溝田友里
	6	プレテスト	作成したコンセプト・メッセージを想定される対象に対してテストを行い、意図の変化の測定を行うことによって、採用するコンセプト・メッセージを決定する方法について解説する。	○	○	山本精一郎 溝田友里
	7	クリエイティブ資材の作成	採用したコンセプトを用い、利用するチャネルに合わせたクリエイティブ資材を作成する方法について解説する。	○	○	山本精一郎 溝田友里
	8	資材の確定と事業の実施	作成した資材のうち、利用するものを決定し、計画に沿って事業を実施する方法を解説する。	○	○	山本精一郎 溝田友里
評価方法	授業における議論への参加度・発言内容(70%)、レポート(30%) <成績評価の前提条件>必修科目のため、全ての授業回に出席すること。					
テキスト	講義内容に応じて資料配布					
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヘルスコミュニケーション実践ガイド(日本評論社)</li> <li>健康行動理論による研究と実践(医学書院)</li> </ul>					
授業時間外に行う学修内容	復習:講義内容に関連した資料や参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ヘルスコミュニケーション特論」の履修にあたっては、本科目の単位修得を必須とする。</li> <li>「精神保健学概論・心理社会的支援技術論」の履修にあたっては、本科目の単位修得が望ましい。</li> </ul>					

科目名	ヘルスコミュニケーション特論		学 期	前期前半		
履修区分	選択科目		曜日・時限	金曜 5 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 1		
配当年次 (履修推奨年次)	2 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	ヘルスコミュニケーション概論		
科目責任者	溝田友里		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	溝田友里					
科目概要	ヘルスコミュニケーション手法やナッジ、ソーシャルマーケティングなど様々な行動科学理論を用いた、健康の維持増進のための研究や実践例について、講義、演習を行う。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>ヘルスコミュニケーションや、ナッジ、ソーシャルマーケティングなど様々な行動科学理論の real world での具体的な活用方法を理解する。</li> <li>対象者の健康の維持増進のための行動変容に、メディア、自治体、国などの現場で取り組む実務者の経験から、実践に必要なことを学ぶ。</li> <li>事例を通じて、健康づくりに関して、理論や研究を社会実装する方法を学ぶ。</li> </ol>					
授業展開	回	テーマ	内 容	オンライン	オンデマンド	担当教員
	1	メディア等との協働による健康づくり	住民・国民に発信するために必須であるメディア等の活用に関して、メディア等との協働、関係のつくり方などについて考える。	○	○	溝田友里
	2	禁煙・防煙への取り組み	禁煙・防煙に向けたキャンペーンの実践例をもとに、行動科学を活用したヘルスプロモーションの企画・立案から評価までの一連の流れを理解する。	○	○	溝田友里
	3	メディアを活用した健康づくりキャンペーン	健康情報番組と連動したがん検診・精密検査受診勧奨の実践例をもとに、メディアを活用したヘルスプロモーションの企画・立案から評価までの一連の流れを理解する。	○	○	溝田友里
	4	国際保健におけるコミュニケーション	国際的な健康政策に関して経験豊富な行政担当者をゲストスピーカーに迎え、国際保健におけるコミュニケーションについて理解する。	○	○	溝田友里
	5	行政による健康づくり	健康づくり政策に関する経験豊富な行政担当者をゲストスピーカーに迎え、行政広報の長所や改善点などについて学ぶ。	○	○	溝田友里
	6	健康づくりに関する広報	企業・行政の広報に関する経験豊富な行政広報担当者をゲストスピーカーに迎え、行政広報の長所や改善点などについて学ぶ。	○	○	溝田友里
	7	健康情報番組の作り方(1)	健康情報番組制作者をゲストスピーカーに迎え、視聴者を惹きつける情報の伝え方や、番組作りの一連の流れを解説するとともに、演習を行う。	○	○	溝田友里
8	健康情報番組の作り方(2)	健康情報番組制作者をゲストスピーカーとして招聘し、視聴者を惹きつける情報の伝え方や、番組作りの一連の流れを解説するとともに、演習を行う。	○	○	溝田友里	
評価方法	講義における議論への参加度(60%)、小レポート(40%) <成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じてスライドハンドアウト等を配布					
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヘルスコミュニケーション実践ガイド(日本評論社)</li> <li>健康行動理論による研究と実践(医学書院)</li> </ul>					
授業時間外に行う学修内容	テキストや講義内容に関連した参考資料等を読み、理解を深め、小レポートを作成すること。					
備考						

科目名	行動医科学		学 期	後期前半		
履修区分	必修科目		曜日・時限	金曜 5 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	山本精一郎		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	山本精一郎、天笠 崇					
科目概要	<p>行動科学理論に基づき人間の行動を科学的に理解し、健康増進への行動変容を促すための基本知識について講義を行う。 (オムニバス方式／全 8 回) (天笠 崇／4 回)行動の生物・心理・社会学的理解について、特に認知行動療法や社会生活スキルトレーニング(SST)と健康増進への応用の実際について講義を行う。 (山本精一郎／4 回)健康行動理論モデルを用いて人間の行動を科学的に理解するための基本的知識及び行動変容を促す具体的な方法について講義を行う。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 行動科学理論を理解し人間の行動を科学的に理解できる。</li> <li>2. 健康増進に向けた行動変容を促すための行動変容技法を理解できる。</li> <li>3. それぞれのフィールドで対象・行動・方法について計画できる。</li> </ol>					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	行動医科学とは	本科目の全体像、行動医科学の歴史と発展、行動の全人的理解、行動の生物学的理解(行動の基盤となる脳・神経内分泌・遺伝の役割、行動に作用する精神神経薬理学など)について講義する。	○	○	天笠 崇
	2	行動の心理・社会学的理解	行動の心理的理解(認知情報処理過程、性格の役割、ライフサイクル、問題の定式化など)並びに社会学的理解(個人間(対人的行動)、社会やコミュニティなどと行動との関係)について講義する。	○	○	天笠 崇
	3	行動変容の基礎理論と技法について	学習理論やストレスコーピングなどについて講義し、行動療法、認知療法、心理教育(健康教育)、社会生活スキルトレーニング(SST)、認知行動療法について概論的に講義する。	○	○	天笠 崇
	4	行動変容の応用について	これまでに学んだ知識や技法が実際にどのように応用されているか、応用し得るかをデモンストレーションを交えながら講義する。	○	○	天笠 崇
	5	健康行動理論について	ヘルスビリーフモデルやトランスセオレティカルモデルなど、基本的な健康行動理論モデルについて講義する。	○	○	山本精一郎
	6	ナッジと行動経済学	行動変容を促す方法の新しい潮流であるナッジや行動経済学のヘルスコミュニケーション分野での適用について学ぶ。	○	○	山本精一郎
	7	健康行動の無関心者とポジティブ・デビアン	健康行動に関する無関心者に対するアプローチについて議論するとともに、行動変容を促す方法としてのポジティブ・デビアンアプローチについて学ぶ。	○	○	山本精一郎
8	ポピュレーションアプローチによる健康行動変容	これまでの講義のまとめとして、実際の例を知ることにより、健康行動のポピュレーションアプローチの技法の復習を行う。	○	○	山本精一郎	
評価方法	議論への参加度・発言内容(90%)、レポート(10%) <成績評価の前提条件>必修科目のため、全ての授業回に出席すること。					
テキスト	講義内容に応じて資料配布					
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行動医学テキスト(中外医学社)</li> <li>・ 健康行動学(メディカル・サイエンス・インターナショナル)</li> <li>・ 健康行動理論による研究と実践(医学書院)</li> </ul>					
授業時間外に行う学修内容	復習:講義内容に関連した資料や参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考	「医療・ケア組織論」、「精神保健学概論・心理社会的支援技術論」の履修にあたっては、本科目の単位修得が望ましい。					

科目名	健康情報学		学 期	後期後半		
履修区分	選択科目		曜日・時限	土曜 2 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	高山智子		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	高山智子、中山健夫、山本精一郎、溝田友里					
科目概要	<p>疫学やEBM(根拠に基づく医療)を基本として、医学文献からマスメディア、インターネットによる健康情報まで、様々な情報の特徴を知り、それらを主体的、効果的に活用する方法について講義、演習を行う。 (オムニバス方式/全 8 回) (高山智子/3 回)健康情報を取り巻く環境や課題についての講義を行うとともに、健康情報の利用場面を想定した文書や情報を活用した支援について講義を行う。 (山本精一郎/2 回)健康情報の評価、様々な情報の特徴について講義を行うとともに、具体的な事例を用いた演習を通じ効果的な健康情報の提供方法を議論する。 (中山健夫/2 回)診療ガイドラインについて講義を行う。 (溝田友里/1 回)国等行政からの情報提供について講義を行う。</p>					
到達目標	<p>1. 疫学・EBM の知識を応用して、各種の健康・医療情報を適切に活用できる。 2. マスメディア情報、インターネット情報を収集し、適正な吟味を行った上で、各人の意思決定、問題解決、そしてコミュニケーションの素材とすることができる。 3. 意思決定に困難を感じている人々への真摯な理解と援助に役立つスキルを体得する。</p>					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	健康情報を取り巻く環境	我々をとりまく健康情報を取り巻く環境について、現状の課題について学ぶ。	○	○	高山智子
	2	エビデンスとリコメンデーション	疫学や EBM の知識を基に、健康情報の評価方法を講義する。	○	○	山本精一郎
	3	健康に関する文書情報の作成	エビデンスに基づく情報をどう文書で伝えるか、健康関連の文書情報作成の留意点について学ぶ。	○	○	高山智子
	4	エビデンスに基づく医療<EBM>の「原点」と「その先」(1)	質の高い医療情報の集約・共有・普及、根拠である診療ガイドラインの作成法、評価法を学ぶ。	○	○	中山健夫
	5	エビデンスに基づく医療<EBM>の「原点」と「その先」(2)	診療ガイドラインからさらに進み、Shared decision making について学ぶ。	○	○	中山健夫
	6	臨床試験を探す	がんを例に、患者の立場から必要な情報について考えることにより、一般の方向けの情報発信の方法を学ぶ(演習)。	○	○	山本精一郎
	7	リスクコミュニケーション	国等、行政の立場からの健康に関する情報の発信の仕方について知り、公的な情報の発信の仕方を学ぶ。	○	○	溝田友里
8	健康情報の活用支援	健康情報を利用する立場、提供する立場のヘルスリテラシーの観点から、健康情報の活用支援について学ぶ。	○	○	高山智子	
評価方法	演習における議論の参加(50%)、レポート(50%) <成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じて資料配布					
参考書	授業展開の必要に応じてその都度提示する。					
授業時間外に行う学修内容	復習: 講義内容に関連した資料や参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考						



科目名	健康医療社会学		学 期	後期		
履修区分	選択科目(遺伝カウンセラー養成コース必修科目)		曜日・時限	金曜 4 限		
単 位 数	2 単位(90 分×15 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	山崎浩司		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	山崎浩司、高山智子、臼井健、堀内泰江、田中仁啓					
科目概要	健康医療社会学は、現代の生老病死と健康にまつわる多様な現象や営為を、社会的側面から研究する学問である。本科目では、健康医療社会学が蓄積してきた諸理論を解説し、さらに医療にまつわる最近の動向も取り上げて、それらを受講生が日常生活や臨床現場で直面する健康・病気・医療に関する社会現象や社会問題と関連づけながら理解を深められるよう、討論やグループプレゼンテーション課題を行う。					
到達目標	1. 健康・病気に対する医療専門職的な視点を相対化できる。 2. 現代の医療問題に生活者として、あるいは専門職として、どうかかわるべきかをクリティカルに考えられる。 3. 社会的に考察・解明した結果を人々にわかりやすく伝えることができる。					
授業展開	回	テーマ	内 容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	健康医療社会学とは	健康医療社会学の成り立ちや特性を学び、いかに健康・医療問題の考察に役立つのかを確認する。	○	○	山崎浩司
	2	病気行動	人が病気になったと感じた時にとる行動について、病人役割理論等の社会学理論で考察する。	○	○	山崎浩司
	3	病いの語り	病者による病いの語りと、それに基づく医療である Narrative Based Medicine について理解する。	○	○	山崎浩司
	4	医師—患者関係	社会的な医師—患者関係の捉え方を学び、両者の関係やコミュニケーションのあり方を考える。	○	○	山崎浩司
	5	医師と連携する専門職	医師と連携する専門職の医師との関係やジェンダーの影響及び感情労働について考察する。	○	○	山崎浩司
	6	精神疾患とラベリング	精神疾患がいかに疾患として社会的に成立するのかを、ラベリング理論等の社会学理論で考察する。	○	○	山崎浩司
	7	病気と差別	病気に対する社会的差別がいかにして生まれるのかを、スティグマ理論等の社会学理論で考察する。	○	○	山崎浩司
	8	医療化・施設化	医療の範疇になかった現象がその範疇に取り込まれていくという医療化論と、医療施設が収容者に及ぼす影響を論じる施設化論について理解する。	○	○	山崎浩司
	9	緩和ケアと健康増進	緩和ケアを健康増進・公衆衛生的に捉え直す社会学理論について理解する。	○	○	山崎浩司
	10	がんを取り巻く連携	AYA 世代のがん等を事例に、医療を含む社会における連携のあり方について考察する。	○	○	高山智子
	11	患者の立場からの思い	遺伝性疾患の患者さんをゲストスピーカーに招き、当事者からその体験、患者会の活動、社会への提言等の話を聞き、遺伝性疾患患者の思いを理解する。	○	○	臼井健 堀内泰江
12	デジタルヘルス	デジタルヘルス普及に伴う、診療・社会・患者の変化及び今後の取り組み方に関して考察する。	○	○	田中仁啓	

	13	グループ課題のプレゼンテーション 1	受講者がこれまでの学びを踏まえ、健康医療社会学のテーマを選択してプレゼンテーションを行う。	○	×	山崎浩司
	14	グループ課題のプレゼンテーション 2	受講者がこれまでの学びを踏まえ、健康医療社会学のテーマを選択してプレゼンテーションを行う。	○	×	山崎浩司
	15	あらためて健康医療社会学とは	これまでの講義とプレゼンテーション課題を振り返り、健康医療社会学をどう自分が理解したかを確認する。	○	○	山崎浩司
評価方法	グループプレゼンテーション課題(50%)、期末レポート(50%) <成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3 以上の出席(全 15 コマ中 10 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	・ 中川輝彦・黒田浩一郎編『よくわかる医療社会学』ミネルヴァ書房					
参考書	・ 中川輝彦・黒田浩一郎編『[新版]現代医療の社会学—日本の現状と課題』世界思想社 ・ 佐藤順一・美馬達哉・中川輝彦・黒田浩一郎編著『病と健康をめぐるせめぎあい—コンステーションの医療社会学』ミネルヴァ書房					
授業時間外に行う学修内容	授業で講師が指定したテキストの該当部分や関連する参考書などを読み、授業内容を復習して理解を深める。グループプレゼンテーションの準備を、同じグループのメンバーと連絡しあったり、直接またはオンラインで集まったりしつつ進める。					
備考	ゲストスピーカーの都合により、授業展開の順番が変更になる可能性があることを了解されたい。					

科目名	健康・医療ビッグデータ概論		学期	前期前半		
履修区分	必修科目		曜日・時限	土曜 2 限		
単位数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	竹内正人		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	竹内正人、山本博之、一原直昭、平原憲道、隈丸 拓、野村周平					
科目概要	<p>健診データや診療情報、介護認定データなど、医療や介護を取り巻くビッグデータの解析手法と活用方法の基本的考え方について講義を行う。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部)／全 8 回)</p> <p>(竹内正人／3 回(健康・医療ビッグデータの理解と特性、データベースとの特性と活用、電子カルテ情報の収集と標準化)</p> <p>(山本博之／1 回)医療・健康系管理データについて講義を行う。</p> <p>(野村周平／1 回)エビデンスを創出し政策を導くデータサイエンスなどについて講義を行う。</p> <p>(平原憲道／1 回)IoT のもたらすビッグデータについて講義を行う。</p> <p>(隈丸 拓／1 回)健康・医療ビッグデータによる疾病と医療提供状況の把握、ビッグデータ研究のプロトコル作成について講義を行う。</p> <p>(一原直昭／1 回)臨床レジストリ、健康・医療ビッグデータに必要な配慮について講義を行う。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康・医療ビッグデータの特性を理解する。</li> <li>2. 健康・医療ビッグデータの活用とその課題を理解する。</li> <li>3. 患者レジストリやコホート検診におけるビッグデータの仕組みを理解する。</li> </ol>					
授業展開	回	テーマ	内容	オンライン	オンデマンド	担当教員
	1	健康・医療ビッグデータの理解と特性	健康社会を目指すうえで必要な医療ビッグデータの基本的な理解とその特性を学ぶ。	○	○	竹内正人
	2	医療・健康系管理データ	医療・健康関連ビッグデータの例として、KDB、NDB、DPC、MIDNET、海外事例、等を理解する。	○	○	山本博之
	3	データベースとの特性と活用への反映	国内で利用可能ないくつかのデータベースの特性(長所や制約)と、その特性をどのように研究に反映させたかを、事例ベースで解説する。また、今後の期待される展望に関しても概説を行う。	○	○	竹内正人
	4	世界の疾病負荷とグローバルヘルス政策	エビデンスを創出し政策を導くデータサイエンスを紹介する。	○	○	野村周平
	5	IoT のもたらすビッグデータ	いわゆるウェアラブル/IoT デバイスのもたらすデータの性質とその活用事例や関連構想を理解する。認知・行動・社会科学との関連についても理解する。	○	○	平原憲道
	6	健康・医療ビッグデータによる疾病と医療提供状況の把握	健康・医療ビッグデータを用いて、疾病の発生・存在と治療の実態を把握する手法の概要と、その制約を理解する。	○	○	隈丸 拓
	7	臨床レジストリ	医療・健康系分野における前向きデータ収集システムである臨床レジストリについて、NCD を中心とし、歴史、現状、性質、活用例を学ぶ。	○	○	一原直昭
	8	電子カルテ情報の収集と標準化	複数の医療機関から電子カルテ情報を収集した事例、及び利活用に関して工夫した点などについての紹介を行う。	○	○	竹内正人
評価方法	小レポート(100%) <成績評価の前提条件>必修科目のため、全ての授業回に出席すること。					
テキスト	パワーポイントスライドを用いる。					
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療ビッグデータがもたらす社会変革. 中山健夫著. 21 世紀医療フォーラム</li> <li>・ ビッグデータが医療を変える. 北風政史著. 中外医学社</li> </ul>					
授業時間外に行う学修内容	<p>予習:配布した講義資料を熟読すること。</p> <p>復習:講義内容に関連した参考書なども読み、理解を深め、レポートを作成すること。</p>					
備考	「健康・医療ビッグデータ特論」の履修にあたっては、本科目の単位修得を必須とする。					

科目名	健康・医療ビッグデータ特論		学期	前期前半		
履修区分	選択科目		曜日・時限	金曜 4 限		
単位数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 1		
配当年次 (履修推奨年次)	2 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	健康・医療ビッグデータ概論		
科目責任者	竹内正人		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	医療統計学特論		
担当教員	竹内正人、中谷英仁					
科目概要	SKDB をはじめとするビッグデータの解析や結果の好評に関する、実務的な内容を中心とした講義や演習を行う。教科書などには十分に書かれていない内容や、理解が困難と思われる内容が中心となる。一部にやや高度な内容を含む。また、ビッグデータ以外の解析においても応用可能となるよう内容を吟味する。					
到達目標	1. 実践的な問題設定を基に、レセプトデータの利用、解析、解釈の方法を習得する。 2. 疫学、医療統計学を応用し、既存データから実際の問題にアプローチする方法を学習する。					
授業展開	回	テーマ	内容	オンライン	オンデマンド	担当教員
	1	研究計画の立案	保健医療ビッグデータを用いた研究の立案や報告に関する概説を行う	○	○	竹内正人
	2	交絡の調整 1	多変量解析を行うことを想定し、変数選択、適切な変数がない場合の考え方などについての解説を行う	○	○	竹内正人
	3	交絡の調整 2	傾向スコアを用いた交絡の調整(マッチング・IPTW)に関する解説を行う。	○	○	竹内正人
	4	交絡の調整 3	傾向スコアの適応条件や、マッチング・IPTW 以外の傾向スコアの使用に関する解説を行う。やや高度な内容となる。	○	○	竹内正人
	5	未測定交絡	感度解析、positive/negative control を含む未測定交絡への対応を解説する。やや高度な内容となる。	○	○	竹内正人
	6	データのクリーニング	欠測値や外れ値などの対処法に関して、解説を行う	○	○	竹内正人
	7	縦断データの取り扱い	時間依存性交絡、混合効果モデル、不死時間バイアスなど縦断的データに特異的な問題やその対処法の解説を行う。やや高度な内容となる。	○	○	竹内正人
8	テーマ演習	事前の研究案に関して、グループ発表・討議を行う。	○	○	竹内正人 中谷英仁	
評価方法	小レポート(75%)、発表(25%) <成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じた資料を配布					
参考書	特に指定しない					
授業時間外に行う学修内容	予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 演習で討議した内容を振り返り、レポートを作成すること。					
備考						

科目名	健康政策・医療経済学概論		学 期	前期後半		
履修区分	必修科目		曜日・時限	金曜 5 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	栗山長門		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	栗山長門、高山智子、後藤 励					
科目概要	<p>公的医療保険制度など健康に関するわが国の制度や政策を概観しつつ、今後、持続可能な制度として確立するための具体的な政策展開について、ミクロ経済学等の知識も活用して講義を行う。</p> <p>(オムニバス方式／全 8 回)</p> <p>(栗山長門／3 回)健康政策、地域医療、疾病対策、高齢者医療、喫煙に対する健康政策などについて講義を行う。</p> <p>(後藤 励／3 回)健康政策に対する医療経済学的な視点について講義を行う。</p> <p>(高山智子／2 回 健康政策・医療政策の基礎、評価分析方法などについて講義を行う。</p>					
到達目標	<p>1. 我が国の健康政策について概略を理解する。</p> <p>2. 健康政策の運用方法とその成果や課題を理解する。</p> <p>3. 医療経済学の基礎を修得し、我が国における課題を理解する。</p>					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	健康政策・医療経済学 (1)	概論イントロダクションとして、講義・到達目標について学ぶ。	○	○	栗山長門
	2	健康政策の経済学的分析(1)	医療経済学の基本的な考え方と分析対象について学ぶ。加えて、医療費について、国民医療費の現状と国際的な医療費指標である OECD の総保健医療支出 (THE) の考え方について学ぶ。	○	○	後藤 励
	3	健康政策の経済学的分析(2)	保険の基礎、公的医療保険の必要性に関する経済学的な理論を学び、日本の公的医療保険の課題を考察する。	○	○	後藤 励
	4	健康政策の経済学的分析(3)	医療需要の経済学的分析として、医療需要の価格弾力性やその推定方法などの基礎的な概念について学ぶ。	○	○	後藤 励
	5	健康政策・医療経済学 (4)	ゲストスピーカーを招聘し、健康に関する基本的な知識と喫煙に対する健康政策の特徴、健康行動学やその理論などを学ぶ。	○	○	栗山長門
	6	健康政策・医療経済学 (2)	健康政策・医療政策について基礎的な知識を学ぶ。	○	○	高山智子
	7	健康政策・医療経済学 (3)	高齢者と介護保険・老年疾患として、喫煙の課題である高齢者対策と介護保険・老年疾患の基礎的な特徴を学ぶ。	○	○	栗山長門
8	健康政策・医療経済学 (4)	我が国の健康政策・疾病対策の評価分析の一つとして、利用者の視点からの評価分析方法について学ぶ。	○	○	高山智子	
評価方法	小レポート(50%)、最終レポート(50%) <成績評価の前提条件>必修科目のため、全ての授業回に出席すること。					
テキスト	配布資料を都度用意し、適宜パワーポイントスライドを用いる。					
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>『健康経済学 ～市場と規制のあいだで～』。後藤励、井深陽子著。(2020)。有斐閣。</li> <li>医療経済学 15 講 (ライブラリ経済学 15 講 APPLIED 編)。細谷 圭、増原 宏明、林行成著。新世社。</li> <li>医療経済学の基礎理論と論点 講座 医療経済・政策学。西村周三、田中滋、遠藤久夫著。勁草書房。</li> <li>公衆衛生がみえる 2022-2023。医療情報科学研究所 (編) メディックメディア。</li> <li>国民衛生の動向 2022/2023。厚生労働統計協会 (編集)。一般財団法人 厚生労働統計協会。</li> <li>日本の医療 増補改訂版: 制度と政策。島崎 謙治著。東京大学出版会。</li> <li>健康行動学 その理論、研究、実践の最新動向。木原雅子、加治正行、木原正博。メディカルサイエンスインターナショナル。</li> </ul>					
授業時間外に 行う学修内容	<p>予習: 配布した講義資料を熟読すること。</p> <p>復習: 講義内容に関連した参考書なども読み、理解を深め、レポートを作成すること。</p>					
備考	「健康政策・医療経済学特論」の履修にあたっては、本科目の単位修得を必須とする。					

科目名	健康政策・医療経済学特論		学期	前期前半		
履修区分	選択科目		曜日・時限	土曜 4 限		
単位数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 1		
配当年次 (履修推奨年次)	2 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	健康政策・医療経済学概論		
科目責任者	高山智子		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	高山智子、栗山長門、吉岡貴史					
科目概要	健康政策・医療経済学概論で学んだ内容を基に、社会保障制度の将来予測をいいつつ、健康政策上重要な各テーマ別に、具体的な政策提言のあり方について講義する。 (オムニバス方式／全 8 回) (高山智子／3 回) 健康政策の分析や応用について講義を行う。 (栗山長門／2 回) 健康政策における予防医学、医療提供体制の実際や考え方について講義を行う。 (吉岡貴史／3 回) 医療経済評価(費用効果分析など)に関する医療政策の経済学的な分析について講義を行う。					
到達目標	1. 我が国の健康政策について代表的な疾患を取り上げ理解する。 2. 健康政策の運用方法とその成果や各課題を理解する。 3. 医療経済学のあり方を修得し、我が国における応用やその課題を理解する。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マント	担当教員
	1	健康政策・医療経済学	特論イントロダクションとして、講義・到達目標について学ぶ。	○	○	高山智子
	2	生活習慣病	生活習慣病などの予防対策について、生活習慣病予防の基礎的な知識を習得する。	○	○	栗山長門
	3	医療経済評価 1	医療技術やマクロの医療政策について、経済的な評価方法を学ぶ。	○	○	吉岡貴史
	4	医療サービス	医療サービスについて、現在の医療サービスの基礎的な知識を習得する。	○	○	高山智子
	5	医療経済評価 2	医療技術の経済評価について、費用とアウトカムの評価方法を学ぶ。	○	○	吉岡貴史
	6	長寿政策・介護政策	長寿や介護政策として、高齢社会対策、介護保険、地域医療に関する政策について学ぶ。	○	○	栗山長門
	7	医療経済評価 3	医療技術の経済評価について、不確実性の評価方法や臨床実態のモデル化の方法などを学ぶ。	○	○	吉岡貴史
	8	健康政策・市民参画	健康政策における市民参画と政策提言の実際について学ぶ。	○	○	高山智子
評価方法	小レポート(40%)、最終レポート(60%) <成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	配布するハンドアウトなどを都度用意し、適宜パワーポイントスライドを用いる。					
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>『健康経済学 ～市場と規制のあいだで～』。後藤 励、井深陽子著。(2020)。有斐閣。</li> <li>医療経済学 15 講(ライブラリ経済学 15 講 APPLIED 編)。細谷 圭、増原 宏明、林行成著。新世社。</li> <li>シンプル衛生公衆衛生学。鈴木庄亮、辻 一郎、小山 洋(編)。南江堂。</li> <li>公衆衛生がみえる 2022-2023。医療情報科学研究所(編)メディックメディア。</li> <li>国民衛生の動向 2022/2023。厚生労働統計協会(編集)。一般財団法人 厚生労働統計協会</li> <li>医療経済学・地域医療学。齋藤 信也、浜田 淳著。岡山大学出版会。</li> <li>「薬剤経済」わかりません!!。五十嵐 中、佐條 麻里著。東京図書</li> <li>患者目線の医療改革。渡辺英克。日本経済新聞出版。</li> </ul>					
授業時間外に 行う学修内容	予習: 配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した参考書なども読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考						

科目名	社会健康医学倫理概論		学 期	前期後半		
履修区分	必修科目		曜日・時限	土曜 4 限		
単 位 数	1 単位 (90 分 × 8 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	八田太一		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	八田太一、藤田みさお、山崎浩司					
科目概要	社会健康医学領域の研究は、医療、福祉、教育、政策などに関する課題や問題意識を取り上げ、研究テーマを設定している。一つの研究を計画し、実施し、その成果を公表し社会に還元するまでに、研究者は様々な倫理的な判断や態度が求められる。社会健康医学倫理概論では、そのような判断や態度の基礎となる倫理・哲学的な考え方を身につけるために、医療倫理、公衆衛生倫理、研究倫理のトピックスや事例を提示する。そして、各学生が自分の体験例に倫理的な考え方をういて倫理的葛藤を洞察する場をつくる(7、8 回目の授業で、学生は数分の個別発表をおこなう)。					
到達目標	1. 研究活動や対人支援の現場で生じる倫理的な課題の性質を理解し、葛藤として認識する。 2. 倫理的な葛藤を可視化するのに適切な倫理・哲学的な考え方を参照する。 3. 倫理原則や倫理指針などを用いて、その問題を説明する。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	社会健康医学の倫理	医療倫理、公衆衛生倫理、研究倫理の歴史と射程を俯瞰し、倫理的課題の性質を理解する。また、本学で研究計画を申請する際の手続きを概説する。	○	○	八田太一
	2	医療倫理の基礎	倫理学の基礎、倫理理論の専門家をゲストスピーカーとして招聘、倫理・哲学的な考え方を学ぶ。	○	○	八田太一
	3	公衆衛生倫理	公衆衛生倫理のゲストスピーカーを招聘し、その歴史から近年の課題まで、その概要を学ぶ。	○	○	八田太一
	4	研究倫理	研究倫理の歴史から国内の研究規制まで、研究倫理の概要を学ぶ。	○	○	八田太一、 藤田みさお
	5	安楽死・尊厳死の倫理	安楽死・尊厳死の概念や用語を整理し、これらの法制度の概要を示し、死のありかたを考える機会とする。	○	○	山崎浩司
	6	医療倫理の四原則	四原則を概説し、臨床事例や研究事例とあわせて使い方を学ぶ。	○	○	八田太一、 藤田みさお
	7	個別発表	各学生が自分の体験例を提示し、本講義取り上げた倫理的な考え方をういて倫理的葛藤を洞察する。	○	×	八田太一
	8	個別発表	各学生が自分の体験例を提示し、本講義取り上げた倫理的な考え方をういて倫理的葛藤を洞察する。	○	×	八田太一
評価方法	授業後の課題(40%)、授業中の議論(20%)、個別発表(40%) <成績評価の前提条件> 必修科目のため、全ての授業回に出席すること。					
テキスト	講義内容に応じた資料を配布					
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>赤林朗(編著)『入門・医療倫理 1』勁草書房</li> <li>井上悠輔/一家綱邦(編著)『医学研究・臨床試験の倫理 わが国の事例に学ぶ』日本評論社</li> </ul>					
授業時間外に行う学修内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>あらかじめ配布した講義資料に目を通すこと。</li> <li>この科目は必修科目(全出席が履修条件)であるため、オンデマンド受講者の出席確認を兼ねて、各回とも課題を出す。</li> </ul>					
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>7、8 回はオンデマンド不可。</li> <li>「社会健康医学倫理特論」の履修にあたっては、本科目の単位修得を必須とする。</li> </ul>					

科目名	社会健康医学倫理特論		学期	前期後半		
履修区分	選択科目(遺伝カウンセラー養成コース必修科目)		曜日・時限	土曜2限		
単位数	1単位(90分×8コマ)		使用教室	講義室1		
配当年次 (履修推奨年次)	2年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	社会健康医学倫理概論		
科目責任者	八田太一		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	八田太一、藤田みさお、山崎浩司、臼井健					
科目概要	社会健康医学領域の研究は、医療、福祉、教育、政策などに関する課題や問題意識を取り上げ、研究テーマを設定している。一つの研究を計画し、実施し、その成果を公表し社会に還元するまでに、研究者は様々な倫理的な判断や態度が求められる。社会健康医学倫理特論では、倫理的・法的・社会的課題(ELSI: Ethical Legal Social Issues)に関する具体的な研究トピックスを取り上げ、その問題の構造を俯瞰し議論するための場をつくる。各回、60～70分の話題提供、20～30分の議論を目安とする。また、遺伝カウンセリングに関わるトピックスや倫理的課題についても取り上げる。					
到達目標	1. ELSIが調査の対象になることを理解する。 2. 各トピックスの背景と研究の制約を洞察する。 3. ELSIを解決または同定するうえで研究が果たす役割を認識する。					
授業展開	回	テーマ	内容	オンライン	オンデマンド	担当教員
	1	再生医療の倫理	再生医療の実態と課題を概説し、再生医療に関する ELSI を研究対象として扱う際に留意すべき点を議論する。	○	○	八田太一
	2	医療広告	科学性を装い患者の受診を煽る医療 Web サイトや医療広告規制を概説し、その問題の所在について議論する。	○	○	八田太一
	3	遺伝医療の倫理	遺伝医療学の専門家を招聘し、遺伝医療に関わる倫理的課題の概要を学び、遺伝カウンセリングに必要な知識を身につける。	○	○	臼井健
	4	iPS 細胞研究の倫理	動物性集合胚研究、人工配偶子研究、ゲノム編集技術などに対する意識調査を紹介し、ELSIを扱う調査研究について議論する。	○	○	八田太一、 藤田みさお
	5	健康格差	健康格差というグローバルな社会現象の概要を示し、その複雑な現象を構造化する上で社会疫学研究の実践的取り組みを紹介し、社会的・倫理的課題を議論する。	○	○	山崎浩司
	6	治療との誤解	医学研究を治療と誤解する患者の心理について研究を紹介し、ELSIを可視化する調査研究の役割を議論する。	○	○	八田太一、 藤田みさお
	7	出版倫理	大学学術支援や国際誌査読の経験者を招聘し、学術的出版に関わる倫理的課題の概要を学び、公正な情報発信のあり方についても議論する。	○	○	八田太一
	8	研究公正	臨床心理士を招聘し、研究不正にかかる事例を通して意思決定プロセス追体験し、研究者にとって公正な振る舞いを議論する。	○	○	八田太一
評価方法	授業への出席(40%)、授業中の議論への参加(60%) <成績評価の前提条件>選択科目のため、2/3以上の出席(全8コマ中6コマ以上)を条件とする。					
テキスト	各授業で扱う研究論文を題材とする。					
参考書	なし					
授業時間外に行う学修内容	オンデマンド受講者には出席確認のため、ショート・レポートを課す場合がある。					
備考						



科目名	医科遺伝学概論		学 期	前期前半		
履修区分	必修科目		曜日・時限	金曜 4 限		
単 位 数	1 単位 (90 分 × 8 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	田原康玄		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	田原康玄、臼井 健、木下和生、寺尾知可史					
科目概要	<p>医科遺伝学に関する基本的な知識を修得することを目的に、遺伝子の構造と機能、細胞遺伝と染色体異常、メンデル遺伝と非メンデル遺伝、腫瘍遺伝、集団遺伝について系統的に講義する。</p> <p>(オムニバス方式 / 全 8 回)</p> <p>(臼井 健 / 2 回) 医科遺伝学の基礎、単一遺伝子疾患について解説する。</p> <p>(木下和生 / 2 回) 医科遺伝学の基礎、がんゲノムについて解説する。</p> <p>(寺尾知可史 / 2 回) 遺伝子変異・多型、染色体異常と臨床形質について解説する。</p> <p>(田原康玄 / 2 回) 多因子疾患のゲノム解析、集団遺伝について解説する。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヒト遺伝学の基礎について、集団遺伝も含めて理解する。</li> <li>2. メンデル遺伝と非メンデル遺伝について理解する。</li> <li>3. 腫瘍遺伝について理解する。</li> </ol>					
授業展開	回	テーマ	内 容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	ヒトゲノム概論	医学・医療における遺伝学、ヒトゲノムの多様性、ゲノム情報の伝達について解説する。	○	○	臼井 健
	2	遺伝子の構造と機能	セントラルドグマ、遺伝子の構造と発現、エピジェネティクスについて解説する。	○	○	木下和生
	3	単一遺伝子疾患	メンデル遺伝型疾患、ミトコンドリア異常、家系・家族歴について解説する。	○	○	臼井 健
	4	遺伝学的多様性	変異と多型、変異と多型が臨床形質に及ぼす影響について解説する。	○	○	寺尾知可史
	5	遺伝学的多様性	変異と多型、変異と多型が臨床形質に及ぼす影響について解説する。	○	○	寺尾知可史
	6	多因子疾患	多因子疾患の遺伝因子と環境因子について解説する。	○	○	田原康玄
	7	腫瘍遺伝	がんの遺伝学、がん個別化医療について解説する。	○	○	木下和生
8	集団遺伝	集団における遺伝型の頻度、人種民族差、人類進化について造詣の深い研究者を招聘し、実際に基づいてコホート研究の実際を学ぶ。	○	○	田原康玄	
評価方法	講義における議論への参加度 (20%)、レポート (80%) <成績評価の前提条件> 必修科目のため、全ての授業回に出席すること。					
テキスト	トンプソン&トンプソン遺伝医学 第 2 版					
参考書	なし					
授業時間外に行う学修内容	<p>予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。</p> <p>復習: 講義内容に関連した文献を読み、理解を深め、レポートを作成すること。</p>					
備考	「医科遺伝学特論」、「遺伝カウンセリング」、「ゲノム医学」、「臨床遺伝学」の履修にあたっては、本科目の単位修得を必須とする。					

科目名	臨床遺伝学		学 期	前期後半		
履修区分	選択科目(遺伝カウンセラー養成コース必修科目)		曜日・時限	金曜 2 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	医科遺伝学概論		
科目責任者	末岡 浩		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	末岡 浩、堀内泰江、田中仁啓					
科目概要	<p>医科遺伝学概論で学んだ内容を基に、細胞生物学、分子遺伝学の理解を更に深めるとともに遺伝性疾患を遺伝形式からの切り口でその病態特性を包括的に学習する。更に代表的な遺伝性疾患及び具体的な遺伝診療現場における課題とその解決手法について講義を行う。</p> <p>(オムニバス方式／全 8 回)</p> <p>(末岡 浩／5 回)臨床の立場から遺伝病の概要、ミトコンドリア病の具体例について解説する。医科遺伝学概論の総括および理解度の確認を行う。</p> <p>(堀内泰江／1 回)非メンデル遺伝、多因子遺伝、細胞質遺伝についての概要、具体例の解説をする。</p> <p>(田中仁啓/2 回)遺伝性循環器疾患についてその概要、各論を講義する。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 細胞遺伝学、分子遺伝学を理解する。</li> <li>2. 遺伝性疾患について各論について理解する。</li> <li>3. 代表的な遺伝性疾患についての病態を理解する。</li> </ol>					
授業展開	回	テーマ	内容	オンライン	オンデマンド	担当教員
	1	遺伝子とセントラルドグマ	遺伝医学の基本となる分子生物学の基本原則であるセントラルドグマの再認識から遺伝医学の基本原則を学ぶ。DNA, RNA, 遺伝子の基本構造、DNA の複製・修復機構を学修する。	○	○	末岡 浩
	2	遺伝性神経筋疾患 1	遺伝性の神経筋疾患についてその概要を学修する	○	○	末岡 浩
	3	遺伝性神経筋疾患 2	遺伝性神経筋疾患について代表的な疾患について各論の理解を深める	○	○	末岡 浩
	4	遺伝性循環器疾患 1	遺伝性循環器疾患についてその概要を解説しその全体像を理解する	○	○	田中仁啓
	5	遺伝性循環器疾患 2	遺伝性不整脈について学修しその理解を深める	○	○	田中仁啓
	6	ミトコンドリア病	ミトコンドリア遺伝病についてその概論と一部具体的なケースについて学修する。	○	○	末岡 浩
	7	非メンデル遺伝	非メンデル遺伝、多因子遺伝、細胞質遺伝についてその概論と一部具体的なケースについて学修する。	○	○	堀内泰江
	8	臨床遺伝学総括	臨床遺伝学概論の総括を行う。理解度の確認を行う。	○	○	末岡 浩
評価方法	議論への参加度(30%)、レポート(70%)、必要に応じて小テストや口頭試問で理解度を確認する。 <成績評価の前提条件>選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	トンプソン&トンプソン遺伝医学 第 2 版 メディカル・サイエンス・インターナショナル					
参考書	臨床遺伝学総論 診断と治療社 臨床遺伝学成人領域 診断と治療社					
授業時間外に行う学修内容	予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考	2024 年度開講(2023 年度以前の入学者は履修登録不可。)					

科目名	医科遺伝学特論		学 期	後期前半		
履修区分	選択科目(遺伝カウンセラー養成コース必修科目)		曜日・時限	金曜 3 限		
単 位 数	1 単位 (90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	医科遺伝学概論		
科目責任者	木下和生		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	木下和生、臼井 健、田原康玄、寺尾知可史					
科目概要	<p>様々な疾患を実例に、臨床・予防医学・医療における遺伝学の意義について講義する。また、疾患の遺伝的背景について、環境因子との係わり、原因遺伝子を探索・同定するためのアプローチについて講義する。 (オムニバス方式/全 8 回)</p> <p>(田原康玄/2 回)生活習慣病を中心に多因子疾患のゲノム解析について解説する。 (木下和生/2 回)がんのゲノム解析について解説する。 (寺尾知可史/2 回)自己免疫疾患のゲノム解析について解説する。 (臼井 健/2 回)小児内分泌遺伝性疾患のゲノム解析について解説する。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床・予防医学・医療における遺伝学の意義を理解する。</li> <li>2. 主要な疾患の遺伝的背景について理解する。</li> <li>3. 疾患の原因遺伝子を探索・同定するためのアプローチについて理解する。</li> </ol>					
授業展開	回	テーマ	内 容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	生活習慣病(1)	生活習慣病の発症・増悪と遺伝因子との関連について解説する。	○	○	田原康玄
	2	生活習慣病(2)	生活習慣病の原因遺伝子解析方法について造詣の深い研究者を招聘し、多数例を対象としたゲノム網羅的解析を中心に解説する。	○	○	田原康玄
	3	がん(1)	がんの発症・増悪と遺伝因子との関連について解説する。	○	○	木下和生
	4	がん(2)	がんの原因遺伝子解析方法について、がんゲノム解析・がん遺伝子パネル検査を中心に解説する。	○	○	木下和生
	5	自己免疫疾患(1)	自己免疫疾患の発症・増悪と遺伝因子との関連について解説する。	○	○	寺尾知可史
	6	自己免疫疾患(2)	自己免疫疾患の原因遺伝子解析方法について、臨床症例を対象としたゲノム解析を中心に解説する。	○	○	寺尾知可史
	7	小児遺伝性疾患(1)	小児内分泌遺伝性疾患の発症・増悪と遺伝因子との関連について解説する。	○	○	臼井 健
8	小児遺伝性疾患(2)	小児内分泌遺伝性疾患の原因遺伝子解析方法について、家系解析・未診断疾患イニシアティブを中心に解説する。	○	○	臼井 健	
評価方法	講義における議論への参加度(20%)、レポート(80%) <成績評価の前提条件>選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じた資料を配布					
参考書	なし					
授業時間外に行う学修内容	<p>予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。</p> <p>復習:講義内容に関連した文献を読み、理解を深め、レポートを作成すること。</p>					
備考	「遺伝カウンセリング」、「ゲノム医学(疾患と遺伝子)」の履修にあたっては、本科目の単位修得が望ましい。					

科目名	ゲノム医学(疾患と遺伝子)		学 期	前期後半		
履修区分	選択科目(遺伝カウンセラー養成コース必修科目)		曜日・時限	土曜 5 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 1		
配当年次 (履修推奨年次)	2 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	医科遺伝学概論		
科目責任者	臼井 健		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	医科遺伝学特論		
担当教員	臼井 健、森 潔					
科目概要	医科遺伝学概論及び医科遺伝学特論で学んだ内容を基に、代表的な遺伝性疾患及び具体的な遺伝診療現場における課題とその解決手法について講義を行う。 (オムニバス方式/全 8 回) (臼井 健/5 回) 遺伝性腫瘍症候群、骨系統疾患、ファブリー病党に関して解説し、講義を行う。 (森 潔/3 回) ミトコンドリア病や多発性嚢胞腎等に関して解説し、講義を行う。					
到達目標	1. 遺伝性疾患について理解する。 2. 代表的な遺伝性疾患についての病態を理解する。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	遺伝性腫瘍	遺伝性腫瘍における遺伝学的側面を解説し、ゲノム医療の現状について理解する。	○	○	臼井 健
	2	骨系統疾患	ゲストスピーカーを招聘して骨系統疾患のゲノム医学的な理解「を深める。	○	○	臼井 健
	3	アレイ CGH	ゲストスピーカーを招聘して保険医療となったアレイ CGH の概要と実際について学ぶ。	○	○	臼井 健
	4	ファブリー病	ファブリー病の臨床診断、遺伝様式、遺伝子診断、疾患特異的薬物療法について解説する。	○	○	臼井 健
	5	ミトコンドリア病	ミトコンドリア病による糖尿病、難聴、腎疾患、遺伝子診断、薬物療法について解説する。	○	○	森 潔
	6	アルポート症候群	アルポート症候群の臨床診断、遺伝子診断、薬物療法について解説する。	○	○	森 潔
	7	多発性嚢胞腎	常染色体優性多発性嚢胞腎の臨床診断、遺伝子診断、薬物療法について解説する。	○	○	森 潔
	8	多因子遺伝	多因子疾患のゲノム医療について解説する。	○	○	臼井 健
評価方法	議論への参加度(30%)、レポート(70%) <成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じて資料配布					
参考書	授業展開の必要に応じてその都度指示					
授業時間外に行う学修内容	予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考						

科目名	遺伝カウンセリング		学期	後期前半		
履修区分	選択科目(遺伝カウンセラー養成コース必修科目)		曜日・時限	金曜2限		
単位数	1単位(90分×8コマ)		使用教室	講義室2		
配当年次 (履修推奨年次)	1年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	医科遺伝学概論		
科目責任者	臼井 健		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	医科遺伝学特論(同時期受講可)		
担当教員	臼井 健、堀内泰江					
科目概要	主要な遺伝性疾患の病態や、遺伝的問題の把握、それらの疾患に関わる遺伝カウンセリングの基本的な考え方や留意点について講義を行う。					
到達目標	1. 臨床遺伝学、ゲノム医学の概論を理解する。 2. 遺伝カウンセリングに必要な基礎知識、スキルについて理解し実践できる。					
授業展開	回	テーマ	内容	オンライン	オンデマンド	担当教員
	1	遺伝カウンセリング概論	遺伝カウンセリングの概論について解説する。遺伝カウンセリングの基本的なスキル等について学ぶ。	○	×	臼井 健
	2	遺伝カウンセリングの実際(1)	モデルケース(遺伝性腫瘍症候群)についてその疾患概念を学習し、ロールプレイを通じて遺伝カウンセリングを体験する。	○	×	臼井 健
	3	遺伝カウンセリングの実際(2)	モデルケース(遺伝性神経難病)についてその疾患概念を学習し、ロールプレイを通じて遺伝カウンセリングを体験する。	○	×	臼井 健
	4	出生前診断	ゲストスピーカーを招聘して出生前診断の遺伝カウンセリングについて学ぶ。	○	×	臼井 健
	5	遺伝子バリエントの表記	遺伝学的検査で表記されるバリエントの評価法、バリエント評価の意味について学習する。	○	×	臼井 健
	6	遺伝子バリエントの評価	遺伝学的検査で示されたバリエントについてデータベース等で意義付けを演習する。	○	×	臼井 健
	7	ゲノム医療と遺伝カウンセリング	ゲノム医療の現状と遺伝カウンセリングの役割について学ぶ。	○	×	堀内泰江
8	遺伝カウンセリング全般のまとめ	これまで触れなかったケースについての解説と講義全体の復習をし、理解度を確認する。	○	×	臼井 健	
評価方法	議論への参加度(30%)、レポート(70%) <成績評価の前提条件>選択科目のため、2/3以上の出席(全8コマ中6コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じて資料配布					
参考書	授業展開の必要に応じてその都度指示					
授業時間外に行う学修内容	予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習:講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考	オンデマンドでの受講は不可。					

科目名	ゲノム医学演習		学 期	後期後半		
履修区分	遺伝カウンセラー養成コース必修科目		曜日・時限	水曜 5 限、6 限		
単 位 数	1 単位(90 分×15 コマ)		使用教室	講義室 1		
配当年次	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	臼井 健		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	臼井 健、末岡 浩、木下和生、堀内泰江					
科目概要	<p>ゲノム医学(疾患と遺伝子)で学んだ内容を更に深めて演習のスタイルで理解したうえでその応用力を身につける。また各疾患の遺伝医療に関連する心理社会的問題を理解しその対応法についても演習を通して学ぶ。 (オムニバス方式/全 15 回)</p> <p>(臼井健/9 回)臨床遺伝、遺伝カウンセリングの基本、常染色体顕性、潜性遺伝、X 連鎖性遺伝について解説する。小児の遺伝性疾患について解説、演習を行う。エピジェネティクスに関する解説、演習を行う。成人遺伝性疾患の解説、演習を行う。 (末岡浩/3 回)ミトコンドリア病、染色体異常について解説、演習を行う。 (木下和生/2 回)がんに関する解説、演習、DNA レベル個体差に関する解説を行う。 (堀内泰江/2 回)遺伝カウンセリングの基本、家系図作成、カウンセリングスキルの演習を行う。</p>					
到達目標	遺伝カウンセリングを行うにあたり必要な遺伝学の知識を整理し、症例を念頭においての情報収集、情報整理を演習形式で学び、実践力の基礎を身につける。					
授業展開	回	テーマ	内容	オンライン	オンデマンド	担当教員
	1	臨床遺伝学とは・遺伝カウンセリングとは	臨床遺伝学と遺伝カウンセリングの基本について確認する。	×	×	臼井 健 堀内泰江
	2	常染色体潜性遺伝	常染色体劣性遺伝病について理解を深め、具体例を示して病態の理解を確認しながら、必要な情報収集の手法を実践し、心理社会的側面を含めて、遺伝カウンセリングにおける問題点を整理する。	×	×	臼井 健
	3	常染色体顕性遺伝	常染色体優性遺伝病について理解を深め、具体例を示して病態の理解を確認しながら、必要な情報収集の手法を実践し、心理社会的側面を含めて、遺伝カウンセリングにおける問題点を整理する。	×	×	臼井 健
	4	X 連鎖性遺伝	X 連鎖性遺伝病について理解を深め、具体例を示して演習する。X 連鎖性遺伝に特異的な心理社会的、倫理的問題についても学修する。	×	×	臼井 健
	5	ミトコンドリア遺伝	ミトコンドリア遺伝病について理解を深め、具体例を示して演習する。	×	×	末岡 浩
	6	染色体異常	染色体異常症例について臨床遺伝、遺伝カウンセリング、臨床心理等の立場より演習を行う。	×	×	末岡 浩
	7	エピジェネティクス	エピジェネチック異常症に関しての臨床遺伝的な解説に加えて演習を行う。	×	×	臼井 健
	8	がん	がん関連遺伝子、腫瘍の発生機序を学修する。また遺伝性腫瘍症候群に関する臨床遺伝、遺伝カウンセリング演習を行う。	×	×	木下和生
	9	DNA レベルの個体差	DNA の個体差について演習する。	×	×	木下和生
	10	家系図の書き方、遺伝リスクの推定、カウンセリングスキル	家系図の作製法を演習し遺伝リスクの推定演習を行う。	×	×	堀内泰江
11	小児疾患	小児の遺伝性疾患について具体例を示し遺伝カウンセリング演習を行う。	×	×	臼井 健	

	12	出生前診断	出生前診断についての理解を深め具体例を示し演習を行う。	×	×	末岡 浩
	13	成人発症疾患 1	成人の遺伝性疾患について具体例を示し遺伝カウンセリング演習を行う。臨床医の立場から病態を解説する。	×	×	臼井 健
	14	成人発症疾患 2	成人の遺伝性疾患について具体例を示し遺伝カウンセリング演習を行う。臨床医の立場から病態を解説する。	×	×	臼井 健
	15	遺伝情報に基づく治療	遺伝情報に基づいた治療戦略の考え方を解説し演習する。	×	×	臼井 健
評価方法	議論への参加度(30%)、レポート(70%)					
テキスト	遺伝カウンセリングマニュアル 監修 福嶋義光、編集 櫻井晃洋 南江堂					
参考書	授業展開の必要に応じてその都度指示					
授業時間外に行う学修内容	予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習:講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考	遺伝カウンセラー養成コースのみ履修可					

科目名	医科遺伝学演習		学 期	後期		
履修区分	遺伝カウンセラー養成コース必修科目		曜日・時限	火曜 5 限、水曜 1 限		
単 位 数	2 単位 (90 分 × 30 コマ)		使用教室	講義室 1		
配当年次	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	臼井 健		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	臼井 健、堀内泰江					
科目概要	<p>医科遺伝学概論、特論、臨床遺伝学で学んだ知識をもとに遺伝医療の現場で遭遇する事例について現場のカンファレンス、エキスパートパネル等に参加し体験する。そのうえでその内容に対して担当教官より解説を加えることで理解を深める。 (オムニバス方式 / 全 30 回) 各担当者の役割分担は、下記授業展開のとおり</p>					
到達目標	遺伝診療の現場で要求される知識やスキルを体感し、その体感を生かして座学で知識を深め、実践力を身に付ける。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1~ 30	座学で学んだ知識を実習につなげるための準備学修	臨床現場で展開されるケースを体感し、遺伝医療の現場で行われる遺伝カウンセリングの全体像を把握する。実習に向けて現場で実践されているインテイク、医学的情報の収集、整理、プレゼンテーション資料の作成、事前に確認しておくべき問題点の抽出、整理などの実践力を養う。	×	×	臼井 健 堀内泰江
評価方法	各セッション後に理解度の確認のための試問。議論への参加度(30%)、レポート(70%)					
テキスト	講義内容に応じて資料配布					
参考書	授業展開の必要に応じてその都度指示					
授業時間外に行う学修内容	<p>予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。</p>					
備考	遺伝カウンセラー養成コースのみ履修可					



科目名	遺伝情報学演習		学期	後期後半		
履修区分	遺伝カウンセラー養成コース必修科目		曜日・時限	土曜 4 限、5 限		
単位数	1 単位(90 分×15 コマ)		使用教室	講義室 1		
配当年次	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	木下和生		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	木下和生、臼井健、堀内泰江					
科目概要	<p>遺伝に関連する情報収集の方法について演習を通して学習する。  (オムニバス方式／全 15 回)  (臼井健／2 回)一般的な遺伝医学文献データベースの利用法を解説、演習する。  (木下和生／4 回)遺伝関連データベース、ClinVar の解析、利用演習を行う。  (堀内泰江／4 回)OMIM の解析、利用演習を行う。GeneReviews の紹介、利用演習を行う。  (木下和生、堀内泰江／5 回)(共同)in silico 解析ツールを含めた総合的なデータベース利用の解説と演習、総合的なデータベースを用いた演習を行う。</p>					
到達目標	<p>1. web 上の遺伝関連情報へのアクセス方法を学ぶ。  2. variant の表記方法、評価方法を学ぶ。</p>					
授業展開	回	テーマ	内容	オンライン	オンデマンド	担当教員
	1	医学文献データベース(1)	pubmed 等の一般的な医学情報データベースの種類を学修する。	×	×	臼井 健
	2	医学文献データベース(2)	上記データベースを活用してその検索方法について学ぶ。	×	×	臼井 健
	3,4	遺伝関連データベース	遺伝関連データベースの種類や基本構造、利用法を学ぶ。Variant の表記法も併せて学修する	×	×	木下和生
	5,6	OMIM の利用法	遺伝病のデータベースである OMIM について学び利用できるようになる。	×	×	堀内泰江
	7,8	GeneReviews の利用法	GeneReviews の概要、利用方法を学修する。	×	×	堀内泰江
	9, 10	ClinVar の利用法	ClinVar 等の variant 評価データベースの利用法を学習する。	×	×	木下和生
	11, 12	in silico 解析ツールの利用法	Polyphen-2 等の in silico ツールの活用を学修する。	×	×	堀内泰江 木下和生
	13, 14, 15	その他のデータベース、解析ツールの利用法	上記データベースの総合的な活用法について学ぶ。	×	×	堀内泰江 木下和生
評価方法	議論への参加度(30%)、レポート(70%)、必要に応じて小テストや口頭試問で理解度を確認する。					
テキスト	医療に役立つ遺伝子関連 web 情報検索 中山智祥著 メディカルサイエンスインターナショナル					
参考書	授業展開の必要に応じてその都度指示					
授業時間外に行う学修内容	<p>予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。  復習:演習内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。</p>					
備考	遺伝カウンセラー養成コースのみ履修可					

科目名	遺伝カウンセリング演習		学期	前期		
履修区分	遺伝カウンセラー養成コース必修科目		曜日・時限	金曜 3～5 限、土曜 3～5 限		
単位数	3 単位 (90 分 × 45 コマ)		使用教室	—		
配当年次	2 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	堀内泰江		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	堀内泰江、臼井健、末岡 浩					
科目概要	遺伝カウンセリング手法を獲得する。模擬事例に対するロールプレイを行い遺伝カウンセリングの理解を深める。具体的には家族歴の取得法、家系図の作成、家族とのかかわり、心理的配慮、インタビュー・レポート形成と実施、等々について演習を通じて学修する。遺伝カウンセラーとして、クライアント・家族の支援のためのコミュニケーションは勿論のこと、チーム医療のメンバーとして、異なった専門性を持つチームメンバーとのコミュニケーションのあり方についても学ぶ。					
到達目標	<p>心理学的実践技術、基本的コミュニケーションスキルについて学び、多様な模擬事例に対するロールプレイを通じて遺伝カウンセリングの実践能力を養う。またこれまで学んだ遺伝カウンセリングに必要な知識、スキルの再確認、再学習も併せて行う。</p> <p>(学生の学修目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学的実践技術、基本的コミュニケーションスキルを復習し理解を深める</li> <li>2. 遺伝カウンセラーとして、クライアント・家族の立場にたつてどのように支援していくのかに関して必要と考えられる知識及び態度を身につけ、行動に移せるようにする。</li> <li>3. 医療チームのメンバーとしてどのような動きをすることが望ましいか必要な知識及び態度を身につける。</li> </ol>					
授業展開	回	テーマ	内容	オンライン	オンデマンド	担当教員
	1	オリエンテーション	本演習全体の概要説明	×	×	堀内泰江
	2～5	心理学的実践技術、基本的コミュニケーションスキル	心理学的実践技術、基本的コミュニケーションスキル、遺伝カウンセリングの理論、技法の復習	×	×	堀内泰江
	6～44	ロールプレイ	模擬症例を設定してロールプレイ演習。家系図の作成、再発率の評価、血縁者の at risk 者の評価、心理的配慮、カウンセリング技法の再確認。各ロールプレイの場面において遭遇する倫理的な問題等についてはその都度にミニレクチャーや討論形式で理解を深める。	×	×	臼井 健 末岡 浩 堀内泰江
	45	総括	演習の総括	×	×	臼井 健 末岡 浩 堀内泰江
評価方法	議論への参加度 (30%)、レポート (70%)					
テキスト	遺伝カウンセリングのためのコミュニケーション論 小杉真司 (編集) メディカルドゥ 遺伝カウンセリングロールプレイ 三宅秀彦 (著) メディカル・サイエンス・インターナショナル 遺伝カウンセリングガイド 福島明宗、川目 裕、山本佳世乃 (監訳) メディカルドゥ					
参考書	遺伝カウンセリングマニュアル (改定第 3 版) 福嶋義光 (監修)、櫻井晃洋 (編集) 南江堂					
授業時間外に行う学修内容	予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考	遺伝カウンセラー養成コースのみ履修可					

科目名	遺伝カウンセリング実習	学期	通年
履修区分	遺伝カウンセラー養成コース必修科目	曜日・時限	火曜 3～5 限、水曜 3～5 限
単位数	6 単位(180 時間)	使用教室	—
配当年次	2 年次	本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—
科目責任者	臼井 健	本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—
担当教員	臼井健、末岡 浩、堀内泰江		
科目概要	遺伝カウンセリングで学んだ内容を基に、遺伝カウンセリングの現場に参加し、その現状を体験するとともに、予診の聴取、家系図の作成、電話フォローアップ、症例記録の作成、事前検討における症例提示などについて指導者の指導を受けながら実習を行う。実習を実施する医療機関に関しては静岡県立総合病院、静岡県立こども病院の 2 施設で実施する、詳細は別紙(遺伝カウンセリング実習連携)で示す。		
到達目標	クライアントへ適切に接し、予診の聴取、家系図の作成を適切に行うことができる。更に遺伝カウンセリング全般について遺伝カウンセラーとしてクライアントに適切に対応できる総合力を身につける。		
実習計画	<p>遺伝カウンセリング実習施設において実施される遺伝カウンセリング症例について事前の情報収集(インテイク)、家系図の作成、問題点の抽出、心理社会的問題の抽出等の一連の過程をカンファレンスの場に参加して学修する。また遺伝カウンセリングの現場に陪席し遺伝診療科の診療現場を体験する。</p> <p>(1)遺伝カウンセリングの目的、(2)遺伝カウンセリングに至るまでの概略、(3)クライアントの情報、(4)クライアントに提供した情報、(5)問題点、(6)クライアントの理解、(7)遺伝カウンセリングにおいて反省あるいは改善すべき点、(8)その他(転帰など)を症例記録としてまとめ、担当(同席)した教員の指導を受けるとともに、定例の症例検討会(遺伝診療カンファレンス)で発表する。症例は、小児領域、生殖・周産期領域、成人領域、遺伝性腫瘍の基本的な 4 領域について偏りなく必要症例数以上を経験する。</p> <p>実習の後半では臨床遺伝専門医あるいは認定遺伝カウンセラーの指導、立ち合いのもとで事前情報収集(インテイク)、家系図の作成等を行い、カウンセリング前のカンファレンスでプレゼンテーションを行い問題点を提示し討議に参加する。更にこれらにより収集した情報等について適宜学生権限で実習医療機関における疑似電子カルテに入力記載し医療人としての自覚を育む。またこれらの記録はレポートとして提出するものとする。</p>		
評価方法	議論への参加度(30%)、レポート(70%)		
テキスト	遺伝カウンセリングのためのコミュニケーション論 小杉真司(編集) メディカルドゥ		
参考書	遺伝カウンセリングマニュアル(改定第 3 版) 福嶋義光(監修)、櫻井晃洋(編集) 南江堂		
授業時間外に行う学修内容	予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習:講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。		
備考	遺伝カウンセラー養成コースのみ履修可		

科目名	聴覚解剖・生理学概論		学 期	前期前半		
履修区分	選択科目(聴覚・言語コース必修科目)		曜日・時限	水曜 6 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	演習室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	古川茂人		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	古川茂人、高木 明、Fehérvári Tamás Dávid					
科目概要	聴覚末梢から中枢神経系の構造と生理学的特性を概説する。音の情報処理システムという観点から細胞や神経系の生理学反応の意味を考察する。					
到達目標	1. 聴覚系の構造や機能に関する基本的な特性を理解する。 2. 細胞や神経の役割を知覚と関連付けながら体系的にとらえ、のちに聴覚障害や補償技術をその原理から理解する礎とする。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	末梢の解剖学	聴覚末梢(外耳～内耳)の構造について概説する。	○	○	高木 明
	2	内耳(基底膜・有毛細胞)	内耳における周波数分析を担う基底膜(基底板)および、基底膜振動を神経電気活動へと変換する有毛細胞の特性を解説する。	○	○	古川茂人
	3	内耳(聴神経)	音の情報を中枢へと伝達する聴神経の特性について解説する。	○	○	古川茂人
	4	内耳における情報表現	以上で知識を踏まえて、音情報(主にスペクトルと強さ)が内耳でどのように表現されているかを考察する。	○	○	古川茂人
	5	中枢神経経路の概要	聴覚中枢神経経路の解剖や特性について解説する。	○	○	古川茂人
	6	中枢における情報表現	中枢における音情報表現という観点から神経の生理学的反応特性を考察する。	○	○	高木 明
	7	皮質の解剖と機能	聴覚皮質の構造・解剖学的特徴と機能について解説する。	○	○	高木 明 古川茂人
	8	脳イメージングの原理	脳波、MRI、MEG、PET、NIRS など、非侵襲脳機能計測の原理を解説する。	○	○	Fehérvári Tamás Dávid
評価方法	レポート(80%)、単元ごとの小課題(20%) <成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じて資料配布					
参考書	J.O. Pickles (2013) An Introduction to the Physiology of Hearing, Brill Academic Pub. J. Schnupp 他(2012) Auditory Neuroscience, MIT Press					
授業時間外に行う学修内容	予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した文献を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考						

科目名	聴覚解剖・生理学特論		学 期	前期前半		
履修区分	選択科目(聴覚・言語コース必修科目)		曜日・時限	土曜 2 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	演習室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	2 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	古川茂人		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	古川茂人、高木 明、Fehérvári Tamás Dávid					
科目概要	聴覚解剖・生理学に関する教科書的な知見の根拠となっているランドマーク的な原著論文を精読する。先人の具体的な事例から、当時の研究背景や知見の発見に至った過程も含めて理解する。					
到達目標	1.聴覚解剖・生理学分野における重要知識を背景も含めて深く理解する。 2.過去の優れた研究が、研究課題にどのように挑んだのか・何がブレークスルーだったのかを理解し、自らの研究遂行の糧とする。 3.専門的な視点での文献の読み方を身に着ける。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	末梢の解剖学	聴覚末梢(外耳～内耳)の構造に関する原著論文を精読する。	○	△	高木 明
	2	内耳(基底膜・有毛細胞)	基底膜(基底板)および有毛細胞の機能や特性に関する代表的論文を精読する。	○	△	古川茂人
	3	内耳(聴神経)	聴神経の機能や特性を解明した代表的論文を精読する。	○	△	古川茂人
	4	内耳における情報表現	内耳における情報表現を考察した影響力の高い論文を精読する。	○	△	古川茂人
	5	中枢神経経路の概要	聴覚中枢神経経路の解剖や機能に関するレビュー論文やランドマーク的論文を精読する。	○	△	古川茂人
	6	中枢における情報表現	中枢における情報表現を考察した影響力の高い論文を精読する。	○	△	古川茂人
	7	皮質の解剖と機能	聴覚皮質の構造・解剖学的特徴と機能に関するレビュー論文やランドマーク的論文を精読する。	○	△	古川茂人
	8	脳イメージング	脳イメージング技術や特性に関するレビュー論文やランドマーク的論文を精読する。	○	△	Fehérvári Tamás Dávid
評価方法	レポート(60%)、講義内での議論態度(40%) <成績評価の前提条件> 聴覚・言語コースの学生は、必修科目のため、全ての授業回に出席すること。 上記コース以外の学生は、選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	取り組む論文は講義内にて指定					
参考書	なし					
授業時間外に行う学修内容	予習:講義前に指定論文を読み込んでおくこと。 復習:講義内容に関連した文献を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>極力オンサイト・オンラインでの出席が望ましい。アクティブな学びを重視するため、講義内では学生に積極的な発言や議論を求める。</li> <li>オンデマンドでの受講する場合は、追加の課題を課す場合がある。</li> </ul>					

科目名	聴覚心理学概論		学 期	前期後半		
履修区分	選択科目(聴覚言語コース必修科目)		曜日・時限	水曜 6 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	演習室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	古川茂人		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	古川茂人					
科目概要	聴覚知覚の基礎的な特性を解説する。ヒトの聴覚系を音または音環境を分析するシステムとみなし、主に心理物理学的な立場・手法でその特性を定量的に示すほか、その背後にあるメカニズムを推定する過去の試みを紹介する。					
到達目標	1.聴覚の基本的な特性を理解する。 2.聴覚の知覚への科学的アプローチとはどのようなものかを理解する。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	音響学・生理学の基礎	聴覚の特性を理解するうえで必須となる音響学・生理学を概説する。	○	○	古川茂人
	2	周波数分析	聴覚の周波数分析の基礎となる聴覚フィルタの概念と、その特性を解説する。	○	○	古川茂人
	3	検出閾値・ラウドネス	音の強度に関する感度や主観的な大きさ(ラウドネス)の知覚特性を解説する。	○	○	古川茂人
	4	時間情報処理	音の時間変化に対する感度やその処理メカニズムについて考察する。	○	○	古川茂人
	5	空間・両耳情報処理	音源方向に対する知覚特性および、両耳情報の処理メカニズムについて考察する。	○	○	古川茂人
	6	ピッチ知覚	音の高さ(ピッチ)の知覚メカニズムについて、歴史的な議論も踏まえて考察する。	○	○	古川茂人
	7	知覚体制化	複数の音響的要素の統合や、複数音源の知覚的分離に関する特性を解説する。	○	○	古川茂人
	8	音声知覚	音声の特徴およびそれを知覚するうえでの歴史的な議論を解説する。	○	○	古川茂人
評価方法	レポート(80%)、単元ごとの小課題(20%) <成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じて資料配布					
参考書	B. C. J. Moore (2013) An Introduction to the Psychology of Hearing, 6th ed., Brill Academic Pub. 古川茂人(編) (2021) 音響学講座 5 聴覚, コロナ社					
授業時間外に 行う学修内容	予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した文献を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考						

科目名	聴覚心理学特論		学 期	前期前半		
履修区分	選択科目(聴覚言語コース必修科目)		曜日・時限	土曜 3 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	演習室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	2 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	古川茂人		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	古川茂人					
科目概要	聴覚心理学に関する教科書的な知見の根拠となっているランドマーク的な原著論文を精読する。先人の具体的な事例から、当時の研究背景や知見の発見に至った過程も含めて理解する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 聴覚心理学分野における重要知識を深く理解する。</li> <li>2. 当該分野の優れた研究が、研究課題にどのように挑んだのか・何がブレークスルーだったのかを理解し、自らの研究遂行の糧とする。</li> <li>3. 専門的な視点での文献の読み方を身に着ける。</li> </ol>					
授業展開	回	テーマ	内 容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	検出閾値・強度弁別	聴力検査の基礎となる検出閾値等の計測やモデリングに関する代表的論文を精読する。	○	△	古川茂人
	2	周波数分析	聴覚フィルタの推定に関するランドマーク的論文を精読する。	○	△	古川茂人
	3	ラウドネス	ラウドネスの評価やモデリングに関する代表的論文を精読する。	○	△	古川茂人
	4	時間情報処理	時間分解能の推定や、時間情報分析モデルに関する代表的論文を精読する。	○	△	古川茂人
	5	空間・両耳情報処理	音源定位能力の評価や両耳情報処理のモデリングに関する代表的論文を精読する。	○	△	古川茂人
	6	ピッチ知覚	音の高さ(ピッチ)の知覚メカニズムを考察するレビュー論文を精読する。	○	△	古川茂人
	7	知覚体制化	音の知覚的体制化の特性やメカニズムにアプローチするレビュー論文、ランドマーク的論文を精読する。	○	△	古川茂人
8	音声知覚	音声知覚の特徴やメカニズムに関するレビュー論文、代表的な論文を精読する。	○	△	古川茂人	
評価方法	レポート(60%)、講義内での議論態度(40%) <成績評価の前提条件> 聴覚・言語コースの学生は、必修科目のため、全ての授業回に出席すること。 上記コース以外の学生は、選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	取り組む論文は講義内にて指定					
参考書	なし					
授業時間外に行う学修内容	予習: 講義前に指定論文を読み込んでおくこと。 復習: 講義内容に関連した文献を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 極力オンサイト・オンラインでの出席が望ましい。アクティブな学びを重視するため、講義内では学生に積極的な発言や議論を求める。</li> <li>・ オンデマンドで受講する場合は、追加の課題を課す場合がある。</li> </ul>					

科目名	認知科学概論		学 期	後期後半		
履修区分	選択科目(聴覚言語コース必修科目)		曜日・時限	土曜 5 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	演習室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	古川茂人		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	古川茂人、高木 明					
科目概要	人間の「こころ」の諸側面を自然科学的な視点でとらえ、主に神経科学・心理学的な方法論によるアプローチによって得られた特性やメカニズムを概説する。聴覚・言語分野の発展的な理解の礎とする。 テーマによってはゲストスピーカーによる講義も行う。					
到達目標	1. 認知の特性やメカニズムに関する基礎的な知識を習得する。 2. 「こころ」に対する神経科学・心理学的なアプローチがどのようなものであるかを理解する。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	認知科学概要	認知科学における基本的な考え方、および、関連する神経科学の基礎知識、方法論について概説する。	○	○	古川茂人
	2	体性感覚・運動	体性感覚・運動制御のメカニズムを概説する。	○	○	古川茂人
	3	注意	「注意」の機能的意義と定義、メカニズム等を概説する。	○	○	古川茂人
	4	学習と記憶	学習・記憶の定義と役割、メカニズム、説明モデルを概説する。	○	○	古川茂人
	5	発達	知覚・運動・学習などの発達過程とメカニズムを解説する。	○	○	高木 明
	6	情動	情動の定義、神経メカニズムや説明モデルを概説する。	○	○	古川茂人
	7	言語	言語の特性、音声・文字言語の産出、認識メカニズムを解説する。	○	○	古川茂人
	8	執行機能	情報選択、認知制御、意思決定とそのメカニズムを概説する。	○	○	古川茂人
評価方法	レポート(80%)、単元ごとの小課題(20%) <成績評価の前提条件> 聴覚・言語コースの学生は、必修科目のため、全ての授業回に出席すること。 上記コース以外の学生は、選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じて資料配布					
参考書	村上郁也(2010) イラストレクチャー 認知神経科学, オーム社					
授業時間外に行う学修内容	予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した文献を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考						



科目名	言語・認知・発達学		学 期	後期前半		
履修区分	選択科目(聴覚言語コース必修科目)		曜日・時限	土曜 6 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	演習室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	古川茂人		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	古川茂人、高木明					
科目概要	認知科学と言語習得に関して、特に発達の側面に重きをおいて基本的な知識を解説する。テーマに関連する論文等を選択し、その概要をわかりやすく解説する形をとる。 テーマによってゲストスピーカーによる講義も行う。					
到達目標	1. 言語・認知科学分野における幅広い知見を得る。 2. 認知発達と言語習得の関わり合いを理解する。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	心の理論 (Theory of mind)	心の理論と言語習得の関わりを解説する。	○	○	古川茂人
	2	コミュニケーションと言 語	コミュニケーションと言語の差に関する知見を解説する。	○	○	古川茂人
	3	言語の元(自然対養育)	言語習得メカニズムを議論する上での定義について考察する。	○	○	古川茂人
	4	コミュニケーションと言 語発達	コミュニケーションから言語への習得プロセスを理解する。	○	○	高木 明
	5	言語習得と臨界期仮説	発達一般および言語発達における臨界期仮説を解説する。	○	○	高木 明
	6	言語と認知の関連性	言語への認知発達や認知低下による関連性についての知見や現在の仮説を解説する。	○	○	古川茂人
	7	短期と長期記憶	記憶の種類やあり方と言語習得や認知への関連性について解説する。	○	○	古川茂人
	8	認知発達とメタ認知	認知発達やメタ認知の役割について解説する。	○	○	古川茂人
評価方法	レポート(80%)、単元ごとの小課題(20%) <成績評価の前提条件> 聴覚・言語コースの学生は、必修科目のため、全ての授業回に出席すること。 上記コース以外の学生は、選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じて資料配布					
参考書	なし					
授業時間外に 行う学修内容	予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考	アクティブな学びを重視するため、講義内では学生に積極的な発言や議論を求める。					

科目名	言語・認知・発達学特論		学 期	前期後半		
履修区分	選択科目(聴覚言語コース必修科目)		曜日・時限	土曜 3 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	演習室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	2 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	古川茂人		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	古川茂人、高木明					
科目概要	言語や認知に関する教科書的な知見の根拠となっているランドマーク的な原著論文を精読する。発達の側面にやや重きをおく。先人の具体的な事例から、当時の研究背景や知見の発見に至った過程も含めて理解する。 テーマによってゲストスピーカーによる講義も行う。					
到達目標	1. 言語・認知やその発達における重要知識を背景も含めて深く理解する。 2. 過去の優れた研究が研究課題にどのように挑んだのかを理解し、自らの研究遂行の糧とする。 3. 専門的な視点での文献の読み方を身に着ける。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	言語	広い意味での言語の特性や概念に関わるレビュー論文・ランドマーク的論文を精読する。	○	△	古川茂人
	2	音声言語	音声言語の特性や概念に関わるレビュー論文・ランドマーク的論文を精読する。	○	△	古川茂人
	3	言語発達	言語機能の発達に関わるレビュー論文・ランドマーク的論文を精読する。	○	△	古川茂人
	4	音声言語発達	音声言語機能の発達に関わるレビュー論文・ランドマーク的論文を精読する。	○	△	高木 明
	5	知覚認知	感覚知覚を主とする認知機能に関するランドマーク的論文を精読する。	○	△	古川茂人
	6	認知	高次認知機能へのアプローチの端的な例を示す代表的な論文を精読する。	○	△	古川茂人
	7	知覚発達	知覚認知の発達に関わるレビュー論文・ランドマーク的論文を精読する。	○	△	古川茂人
	8	認知発達	社会性なども含む認知機能の発達に関わるレビュー論文・ランドマーク的論文を精読する。	○	△	古川茂人
評価方法	レポート(60%)、講義内での議論態度(40%) <成績評価の前提条件> 聴覚・言語コースの学生は、必修科目のため、全ての授業回に出席すること。 上記コース以外の学生は、選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	取り組む論文は講義内にて指定					
参考書	なし					
授業時間外に 行う学修内容	予習: 講義前に指定論文を読み込んでおくこと。 復習: 講義内容に関連した文献を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 極力オンサイト・オンラインでの出席が望ましい。アクティブな学びを重視するため、講義内では学生に積極的な発言や議論を求める。</li> <li>・ オンデマンドで受講する場合は、追加の課題を課す場合がある。</li> </ul>					

科目名	聴覚療育・リハビリテーション論		学 期	前期前半		
履修区分	選択科目(聴覚言語コース必修科目)		曜日・時限	水曜 6 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 3		
配当年次 (履修推奨年次)	2 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	田中智英巳		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	田中智英巳、高木 明、Hollowell Jason					
科目概要	リハビリテーションに関する、オージオロジー分野での教科書的な知識を身につけて、発展的な課題に備える。 テーマによってゲストスピーカーによる講義も行う。					
到達目標	1. 言語獲得前と言語獲得後の聴覚障害の(り)ハビリテーションが異なることを理解する 2. 老人性難聴のきこえの限界について理解する 3. 中等度難聴の学童に対する介入のあり方を理解する					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	概要	WHO の提言と聴覚障害について学び、聴覚リハビリテーションで提供するサービスの概要について学ぶ。	○	○	田中智英巳
	2	聴覚障害に関するカウンセリングの概要	聴覚ケアの専門家が実施する聴覚障害者や難聴を持つ子どもの保護者へのカウンセリングの概要について学ぶ。	○	○	田中智英巳
	3	聴覚リハビリテーションプランの要素	聴覚リハビリテーションプランに入れるべき要素について学ぶ。	○	○	Hollowell Jason
	4	成人の聴覚リハビリテーション	成人難聴者の特徴とリハビリテーションプランについて学ぶ。	○	○	田中智英巳
	5	高齢者の聴覚リハビリテーション	高齢難聴者の特徴とリハビリテーションプランについて学ぶ。	○	○	田中智英巳
	6	乳幼児期の聴覚リハビリテーション	難聴乳幼児の特徴とリハビリテーションプランについて学ぶ。	○	○	高木 明
	7	学童期の聴覚リハビリテーション	難聴学童の特徴とリハビリテーションプランについて学ぶ。	○	○	田中智英巳 高木 明
8	聴覚障害に関する介入と聴覚障害児への療育	日本における聴覚障害に関する介入と聴覚障害児への療育の実際について学ぶ。	○	○	高木 明	
評価方法	レポート(100%) <成績評価の前提条件> 聴覚・言語コースの学生は、必修科目のため、全ての授業回に出席すること。 上記コース以外の学生は、選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じて資料を配布					
参考書	Foundations of Aural Rehabilitation: Children, Adults and Their Family Members 5th ed. by Nancy Tye-Murray					
授業時間外に行う学修内容	予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した文献を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考						

科目名	聴覚療育・リハビリテーション特論		学 期	前期後半		
履修区分	選択科目(聴覚言語コース必修科目)		曜日・時限	水曜 6 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 3		
配当年次 (履修推奨年次)	2 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	田中智英巳		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	田中智英巳、高木 明、Hollowell Jason					
科目概要	分野のマイルストーン的論文を精読する。 現在の療育・リハビリテーション・介入に関わる課題を議論する場としてもよい。 テーマによってはゲストスピーカーによる講義も行う。					
到達目標	1. 現在の難聴児の療育・リハビリテーション・介入に関わる課題を討議することで問題意識を持つ。 2. 現在の成人のリハビリテーション・介入に関わる課題を討議することで問題意識を持つ。 3. 聴覚障害に関する療育・リハビリテーション・介入の今後についてのビジョンを持つ。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	難聴児の療育・リハビリ テーション・介入におけ る現在の課題	現在、療育の場は聴覚特別支援学校が主となるが、教育界 の聴覚活用が進まない現状など述べる。	○	×	高木 明
	2	難聴児のリハビリテー ションにおける課題の 討議	聴覚障害児のリハビリの海外の現状と日本の比較から課題 を捉える。	○	×	Hollowell Jason
	3	難聴児の介入における 課題の討議	聴覚障害児の介入における日本の現状から課題を捉える。	○	×	田中智英巳 高木 明
	4	難聴児の療育における 課題の討議	聴覚障害児の療育における日本の現状から課題を捉える。	○	×	田中智英巳 高木 明
	5	成人のリハビリテーシ ョン・介入における課題 の概要	成人の難聴の対応と認知症、孤立について述べる。	○	×	田中智英巳
	6	成人のリハビリテーシ ョンにおける課題の討議	成人難聴者のリハビリの海外の現状と日本の比較から課題 を捉える。	○	×	田中智英巳 高木 明
	7	成人の介入における課 題の討議	成人難聴者の介入における日本の現状から課題を捉える。	○	×	田中智英巳 高木 明
	8	聴覚障害に関する療 育・リハビリテーション・ 介入の今後	聴覚障害の介入の今後のあり方について述べる。	○	×	Hollowell Jason
評価方法	レポート(60%)、講義内での議論態度(40%) <成績評価の前提条件> 聴覚・言語コースの学生は、必修科目のため、全ての授業回に出席すること。 上記コース以外の学生は、選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	討議トピックに応じて資料を配布					
参考書	なし					
授業時間外に 行う学修内容	あらかじめ配布した講義資料を熟読し理解を深め、討議に参加すること。					
備考	オンデマンドでの受講は不可					

科目名	聴覚障害学		学 期	後期前半		
履修区分	選択科目(聴覚言語コース必修科目)		曜日・時限	土曜 4 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	演習室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	高木 明		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	高木 明					
科目概要	聴覚障害は見えない障害とされるがその障害の機序、分類について述べ、診断、治療について学ぶ。また、治せない難聴についての対応法の理解を深める。					
到達目標	難聴という障害を具体的に理解し、きこえの障害が大ききだけの問題でないことを理解する。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	聴覚障害とは	聴覚障害とはなにか、見えない障害であることを理解する。	○	○	高木 明
	2	聴覚障害の原因	障害の原因は外耳から中枢(脳)までの広範であることを知る。	○	○	高木 明
	3	診断方法	難聴の障害部位の診断法について学ぶ。	○	○	高木 明
	4	先天性聴覚障害	先天性難聴の発見の方策と対応について学ぶ。	○	○	高木 明
	5	後天性聴覚障害	後天性難聴、進行性難聴についての対応を学ぶ。	○	○	高木 明
	6	先天性聴覚障害の治療	先天性難聴の治療方針の立て方について学ぶ。	○	○	高木 明
	7	後天性聴覚障害の治療	後天性難聴の治療方針について学ぶ。	○	○	高木 明
	8	治せない聴覚障害	聴力改善の手段のない障害についての対応を学ぶ。	○	○	高木 明
評価方法	レポート(100%) <成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じて資料配布					
参考書	Schuknect's Pathology of the Ear Pmph USA Ltd; 第 3 版 (2010/8/1)					
授業時間外に 行う学修内容	予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した文献を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考						

科目名	聴覚補償技術		学 期	後期後半		
履修区分	選択科目(聴覚・言語コース必修科目)		曜日・時限	水曜 6 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	演習室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	田中智英巳		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	田中智英巳、高木 明					
科目概要	補聴器や人工内耳の基本的技術や課題に関して、オーディオロジー分野の常識的な知識を身に着け、この後の発展的な課題に対して備える。					
到達目標	1. 補聴器や人工内耳を含む聴覚補聴技術の仕組みについて学ぶ。 2. 補聴器や人工内耳を含む聴覚補聴技術の適応について学ぶ。 3. 補聴器と人工内耳のフィッティングと効果測定について学ぶ。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	補聴器(1)	補聴器の適応、種類、デジタル補聴器の機能について学ぶ。	○	○	田中智英巳
	2	補聴器(2)	補聴器フィッティングの流れについて学ぶ。	○	○	田中智英巳
	3	補聴器(3)	フィッティング理論について学ぶ。	○	○	田中智英巳
	4	補聴器(4)	補聴器適合検査や効果測定について学ぶ。	○	○	田中智英巳
	5	補聴援助システム	補聴器や人工内耳と併用して使用されたり、単体で使用される補聴援助システムの機能や使用方法について学ぶ。	○	○	田中智英巳
	6	人工内耳(1)	人工内耳の適応を理解し、手術のリスク、術後の留意点、経過を説明できるようにする。	○	○	高木 明
	7	人工内耳(2)	人工内耳フィッティングについて学ぶ。	○	○	高木 明
	8	その他人工聴覚機器	埋め込み型骨導補聴器、補聴援助システムについて学ぶ。	○	○	高木 明
評価方法	レポート(100%) <成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じて資料を配布					
参考書	なし					
授業時間外に 行う学修内容	予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した文献を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考						

科目名	聴覚検査法		学 期	後期前半		
履修区分	選択科目(聴覚言語コース必修科目)		曜日・時限	水曜 6 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	演習室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	田中智英巳		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	田中智英巳、高木 明					
科目概要	聴覚検査法の教科書の事項を講義する。臨床的な検査を中心とし、オージオロジー分野から見た常識を身に着ける。					
到達目標	1. 様々な聴覚検査の仕組みと検査部位について学ぶ。 2. 聴覚検査の様々な方法について学ぶ。 3. 聴覚検査の結果解釈について学ぶ。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	聴覚検査の概要	様々な聴覚検査の種類と検査の概要について学ぶ。	○	○	高木 明
	2	純音聴力検査	純音聴力検査(気導・骨導)の基礎と検査方法と結果解釈について学ぶ。	○	○	高木 明
	3	語音聴力検査	語音聴力検査の基礎と検査方法と結果解釈について学ぶ。	○	○	田中智英巳
	4	インピーダンスオー ジオメトリー	インピーダンスオージオメトリーの基礎と検査方法や結果解釈について学ぶ。	○	○	田中智英巳
	5	耳音響放射検査	耳音響放射検査(特に歪成分耳音響放射検査)の基礎と検査方法や結果解釈について学ぶ。	○	○	田中智英巳
	6	聴性脳幹反応検査	聴性脳幹反応検査(神経学的検査と閾値検査)の基礎と検査方法や結果解釈について学ぶ。	○	○	田中智英巳
	7	聴性定常反応検査	聴性定常反応検査の基礎と検査方法や結果解釈について学ぶ。	○	○	田中智英巳
	8	小児の聴力検査	原始反射検査、条件付け、遊戯聴力検査、新生児聴覚スクリーニングなどの検査方法と結果解釈を学ぶ。	○	○	田中智英巳
評価方法	レポート(100%) <成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じて資料を配布					
参考書	聴覚検査の実際 改訂 4 版					
授業時間外に 行う学修内容	予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した文献を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考	基礎科学的な内容は「知覚・生体計測演習」などでカバー					

科目名	音声言語科学		学 期	前期前半		
履修区分	選択科目(聴覚・言語コース必修科目)		曜日・時限	土曜 4 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	演習室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	2 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	古川茂人		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	古川茂人、高木 明、Hollowell Jason					
科目概要	音声言語は人間のコミュニケーションの強力なツールである。発声、構音の学習には聴覚が不可欠であり、また、会話においても聴覚の feedback があってスムーズな音声となる。音声の音韻論から語彙認知までの高次脳の働きを知る。また、言語間(日本語対英語など)の比較により、日本語の特徴や母語・非母語の認知特性を理解する。テーマによってゲストスピーカーによる講義も行う。					
到達目標	音声言語の特性や聴覚との相互作用の重要性を理解する。また、音声生成・知覚の発達過程や聴覚系の関与を理解する。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	喉頭の解剖と発声・構音の仕組み	発声機構の解剖学的特性を解説する。	○	○	高木 明
	2	音声学の基礎	音声を構成する基本単位や表記法を解説する。	○	○	古川茂人
	3	音声の物理	音声の音響的な特徴とその表示手法を解説する。	○	○	古川茂人
	4	音声の制御	音声を制御する神経機構を解説する。	○	○	高木 明
	5	言語学の基礎	人間の言語の特性の基本を解説する。	○	○	古川茂人
	6	比較言語	英語・日本語といった言語間での比較を通して、言語の特性を解説する。第 2 言語の習得過程も解説する。	○	○	Hollowell Jason
	7	音声知覚、聴覚との相互作用	音声の生成と知覚(聴覚)との相互作用や依存性を解説する。	○	○	高木 明
	8	発達・学習	音声生成と知覚の発達・学生過程や特性を解説する。	○	○	古川茂人
評価方法	レポート(60%)、講義内での議論態度(40%) <成績評価の前提条件> 聴覚・言語コースの学生は、必修科目のため、全ての授業回に出席すること。 上記コース以外の学生は、選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じて資料配布					
参考書	なし					
授業時間外に行う学修内容	予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習:講義内容に関連した文献を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考						



科目名	聴覚健康政策論		学 期	前期後半		
履修区分	選択科目(聴覚言語コース必修科目)		曜日・時限	土曜 4 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	演習室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	2 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	高木 明		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	高木 明、Hollowell Jason					
科目概要	聴覚障害は乳幼児の音声言語獲得を困難にするのみならず、高齢者の孤立、孤独を引き起こし、認知症の発症の誘因となると言われる。これらに対する社会体制、法律、今後の期待される政策などを理解し、実践への足がかりを得る。テーマによってはゲストスピーカーによる講義も行う。					
到達目標	聴覚障害を取り巻く社会の現状を理解し、課題抽出、対策を考案する。実践への足がかりをつかむ。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	難聴と社会健康医学	聴覚障害が社会、個人に及ぼす影響を考える。	○	○	高木 明
	2	聾教育の歴史	聾教育の歴史を知って、今後の教育の方向性を考える。	○	○	高木 明
	3	新生児聴覚スクリーニングについて	新生児聴覚スクリーニングの目的を理解し、現状の不備を解消するための方策を議論する。	○	○	高木 明
	4	早期介入の現状	早期介入の現状と課題を理解し、改善のための方策を議論する。	○	○	高木 明
	5	難聴に関わる人材	先進諸外国の難聴に関わる人材の豊富さに比して、日本は専門家が少ないことを理解し、自らが専門家を育てる立場となることを認識する。	○	○	Hollowell Jason
	6	聴覚障害とろうあ団体	音声言語と手話の対立の現状を知る。	○	○	高木 明
	7	聴覚障害と法律	聴覚障害に関する法律とその社会での実践状況を知る。	○	○	高木 明
	8	inclusive 教育の現状	障害者との共生社会をめざすことが省令で定まっているが、進まないことの要因を議論する。	○	○	高木 明
評価方法	レポート(60%)、講義内での議論態度(40%) <成績評価の前提条件> 聴覚・言語コースの学生は、必修科目のため、全ての授業回に出席すること。 上記コース以外の学生は、選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じて資料配布					
参考書	なし					
授業時間外に行う学修内容	予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習:講義内容に関連した文献を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考						

科目名	知覚情報処理演習		学 期	後期前半		
履修区分	聴覚言語コース必修科目		曜日・時限	土曜 1・2 限		
単 位 数	2 単位 (90 分 × 15 コマ)		使用教室	演習室 2		
配当年次	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	古川茂人		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	古川茂人、Fehérvári Tamás Dávid					
科目概要	聴覚・言語研究に必要なプログラミング、実験機器操作、データ処理などに関する知識と実施能力を、実際の実験を模擬した小プロジェクトを通して体験的に習得する。					
到達目標	1.音響・生体情報処理に必要となるプログラミングやデータ処理を体得する。 2.修士・博士課程や卒業後の聴覚・言語研究において実験や分析を自ら実施する能力を身に着ける。					
授業展開	回	テーマ	内 容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	導入	計算機環境に関するオリエンテーションを行う。	○	△	古川茂人 Fehérvári
	2 3	プログラミングの基礎	プログラミングに関する基本的な概念を習得する。	○	△	古川茂人 Fehérvári
	4 5	関数の活用と作成	プログラミングにおける関数の活用や作成を習得する。	○	△	古川茂人 Fehérvári
	6 7	視聴覚刺激作成	実験における視聴覚刺激の作成方法を習得する。	○	△	古川茂人 Fehérvári
	8 9	外部機器とのインター フェース	インターフェースを介した外部機器の制御とデータ取り込み を習得する。	○	△	古川茂人 Fehérvári
	10 11	信号処理	デジタル信号の基本を習得する。	○	△	古川茂人 Fehérvári
	12 13	統計処理	データの統計的な処理をプログラミングに実装する。	○	△	古川茂人 Fehérvári
	14 15	データの表示	計測データや解析結果を表示する手法を習得する。	○	△	古川茂人 Fehérvári
評価方法	演習への参加度 (20%)、レポート (80%)					
テキスト	テーマに応じて資料配布					
参考書	必要に応じて演習中に指示する					
授業時間外に 行う学修内容	テーマごとの課題を完了させるため、授業時間外でも計算機を用いた演習を行うこと。					
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実際の実験・計測を模擬するような小プロジェクトを通して、体験的に上記テーマの習得を行う。このため、上記の授業展開の表示順に関わらず、学生の進捗や小プロジェクトの性質に応じてテーマの進行を柔軟に設定する。就学時点ですでに十分なプログラミング能力等を備えている学生に対しては、それに合わせて発展的な内容を課すことがある。</li> <li>・ 極力オンサイト・オンラインでの出席が望ましい。オンデマンドで受講する場合は、追加の課題や実習を課す場合がある。</li> <li>・ 聴覚・言語コースのみ履修可</li> </ul>					

科目名	知覚・生体計測演習	学期	後期後半			
履修区分	聴覚言語コース必修科目	曜日・時限	土曜 3・4 限			
単位数	2 単位 (90 分 × 15 コマ)	使用教室	演習室 2			
配当年次	1 年次	本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—			
科目責任者	古川茂人	本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—			
担当教員	古川茂人、高木 明、Fehérvári Tamás Dávid、田中智英巳					
科目概要	聴覚・言語に関する知覚や生体反応を計測するための様々な技術を体得する。聴覚臨床現場で用いられている検査の他、心理物理学実験や脳波計測の実施からデータ解析までの一連の過程を実習する。					
到達目標	1. 臨床検査から基礎研究で用いられる計測手法を体得し、自らの研究遂行に必要な実験技術を身に着ける。 2. 臨床・研究現場で用いられている検査の実態を理解する。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1 2	音響システム	音響刺激呈示システムの設定と校正	×	×	古川茂人
	3 4	聴覚検査(自覚検査)	聴覚検査の概要、聴力検査	×	×	高木 明 田中智英巳
	5 6	聴覚検査(他覚検査)	耳音響放射、ティンパノメトリ、聴性脳幹反応	×	×	高木 明 田中智英巳
	7 8	補聴器	補聴器の取り扱い、フィッティング	×	×	高木 明 田中智英巳
	9 10	心理物理実験	閾値計測、ラウドネス、音源定位	×	×	古川茂人
	11 12	刺激・計測システム	刺激提示・反応記録システムの取り扱い	×	×	Fehérvári Tamás Dávid
	13 14	脳波	脳波計測実験	×	×	Fehérvári Tamás Dávid
	15	fNIRS	fNIRS による脳活動計測	×	×	Fehérvári Tamás Dávid
評価方法	テーマごとに課すレポート(100%)					
テキスト	テーマに応じて資料配布					
参考書	必要に応じて演習中に指示する					
授業時間外に行う学修内容	テーマごとの課題を完了させるため、授業時間外でも計算機を用いてレポートをまとめること。					
備考	原則としてオンサイトで出席すること。 聴覚・言語コースのみ履修可					

科目名	言語・聴覚学特別演習 I		学 期	後期後半		
履修区分	聴覚言語コース必修科目		曜日・時限	土曜 2 限		
単 位 数	1 単位 (90 分 × 8 コマ)		使用教室	演習室 2		
配当年次	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	Fehérvári Tamás Dávid		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	Fehérvári Tamás Dávid、古川茂人、高木 明					
科目概要	<p>広く聴覚・言語に関わる重要・先端的な文献を輪講する。各学生は、教員のアドバイスを受けながら担当する文献を選択し、交替でプレゼンテーションする。参加者全員でその論文を吟味・議論する。議論を活発化するために、外部の有識者や学生に参加してもらうこともある。外部講師を招いて先端研究成果の聴講および議論を行う場合もある。</p>					
到達目標	<p>1.分野の先端的な知識を追跡し、習得する。 2.テーマ探索、文献調査、プレゼンテーション、建設的議論の実践的なスキルを身につける。</p>					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	文献選択	オリエンテーション。学生と教員の議論によりテーマの探索と担当文献の選択を行う。	○	×	Fehérvári Tamás Dávid 古川茂人 高木 明
	2	文献輪講	学生による担当文献のプレゼンテーションと議論を行う。	○	×	
	3	文献輪講	同上	○	×	
	4	文献輪講	同上	○	×	
	5	文献輪講	同上	○	×	
	6	文献輪講	同上	○	×	
	7	文献輪講	同上	○	×	
	8	先端研究	ゲストスピーカーによる先端的研究講演と議論を行う。	○	×	
評価方法	レポート(60%)、演習内での議論態度(40%)					
テキスト	なし					
参考書	なし					
授業時間外に行う学修内容	<p>予習:発表担当者は、担当日までにプレゼンテーションと議論のポイントを準備すること。 復習:演習内容に関連した文献を読み、理解を深め、レポートを作成すること。</p>					
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業展開のスケジュールは、ゲストスピーカーの都合に合わせて柔軟に設定する。</li> <li>原則としてオンデマンドの参加は不可とする。</li> <li>聴覚・言語コースのみ履修可</li> </ul>					

科目名	言語・聴覚学特別演習 II		学 期	前期前半		
履修区分	聴覚言語コース必修科目		曜日・時限	土曜 5 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	演習室 2		
配当年次	2 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	Fehérvári Tamás Dávid		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	Fehérvári Tamás Dávid、古川茂人、高木 明					
科目概要	「言語・聴覚学特別演習 I」の発展。広く聴覚・言語に関わる重要・先端的な文献を輪講する。各学生は、教員のアドバイスを受けながら担当する文献を選択し、交替でプレゼンテーションする。参加者全員でその論文を吟味・議論する。議論を活性化するために、外部の有識者や学生に参加してもらうこともある。ゲストスピーカーを招いて先端研究成果の聴講および議論を行う場合もある。					
到達目標	1. 分野の先端的な知識を追跡し、習得する。 2. テーマ探索、文献調査、プレゼンテーション、建設的議論の実践的なスキルを身に着ける。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	文献選択	オリエンテーション。学生と教員の議論によりテーマの探索と担当文献の選択を行う。	○	×	Fehérvári Tamás Dávid 古川茂人 高木 明
	2	文献輪講	学生による担当文献のプレゼンテーションと議論を行う。	○	×	
	3	文献輪講	同上	○	×	
	4	文献輪講	同上	○	×	
	5	文献輪講	同上	○	×	
	6	文献輪講	同上	○	×	
	7	文献輪講	同上	○	×	
	8	先端研究	ゲストスピーカーによる先端的研究講演と議論を行う。	○	×	
評価方法	レポート(60%)、演習内での議論態度(40%)					
テキスト	なし					
参考書	なし					
授業時間外に行う学修内容	予習:発表担当者は、担当日までにはプレゼンテーションと議論のポイントを準備すること。 復習:演習内容に関連した文献を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業展開のスケジュールは、ゲストスピーカーの都合に合わせて柔軟に設定する。</li> <li>オンデマンドでの受講は不可。</li> <li>聴覚・言語コースのみ履修可</li> </ul>					

科目名	言語・聴覚学特別演習 Ⅲ		学 期	前期後半		
履修区分	聴覚言語コース必修科目		曜日・時限	土曜 5 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	演習室 2		
配当年次	2 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	Fehérvári Tamás Dávid		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	Fehérvári Tamás Dávid、古川茂人、高木 明					
科目概要	「言語・聴覚学特別演習 Ⅱ」の発展。広く聴覚・言語に関わる重要・先端的な文献を輪講する。各学生は、教員のアドバイスを受けながら担当する文献を選択し、交替でプレゼンテーションする。参加者全員でその論文を吟味・議論する。ゲストスピーカーを招いて先端研究成果の聴講および議論を行う場合もある。					
到達目標	1. 分野の先端的な知識を追跡し、習得する。 2. テーマ探索、文献調査、プレゼンテーション、建設的議論の実践的なスキルを身に着ける。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	文献選択	オリエンテーション。学生と教員の議論によりテーマの探索と担当文献の選択を行う。	○	×	Fehérvári Tamás Dávid 古川茂人 高木 明
	2	文献輪講	学生による担当文献のプレゼンテーションと議論を行う。	○	×	
	3	文献輪講	同上	○	×	
	4	文献輪講	同上	○	×	
	5	文献輪講	同上	○	×	
	6	文献輪講	同上	○	×	
	7	文献輪講	同上	○	×	
	8	先端研究	ゲストスピーカーによる先端的研究講演と議論を行う。	○	×	
評価方法	レポート(60%)、演習内での議論態度(40%)					
テキスト	なし					
参考書	なし					
授業時間外に行う学修内容	予習:発表担当者は、担当日までにプレゼンテーションと議論のポイントを準備すること。 復習:演習内容に関連した文献を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業展開のスケジュールは、ゲストスピーカーの都合に合わせて柔軟に設定する。</li> <li>オンデマンドでの受講は不可。</li> <li>聴覚・言語コースのみ履修可</li> </ul>					

科目名	フィールド実習		学期	通年		
履修区分	選択科目		曜日・時限	土曜1限 (※初回のみ)		
単位数	1単位		使用教室	講義室1 (※初回のみ)		
配当年次 (履修推奨年次)	2年次(履修推奨年次)		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	田原康玄		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	田原康玄、森 寛子					
科目概要	<p>医療機関や公衆衛生機関における疾病予防対策、健康増進施策の実態と課題、県内のゲノムコホート研究の具体的研究内容やその成果について実習を行う。R6年度は、市町単位での健康推進関連の行政に焦点を当てたフィールドで研修を行う。</p> <p>実習/全12時間  田原康玄:3時間 地域住民コホートの見学実習から疾病予防のための研究と健康づくりの実際を学ぶ。  森 寛子:11時間 県内外の医療・保健・衛生機関等の見学実習から公衆衛生の実際を学ぶ。</p>					
到達目標	1. 地域で最期まで暮らし続けるための。行政や地域病院取り組みや課題を説明できる。 2. 環境衛生、健康増進の現場の課題を説明できる。 3. 地域住民コホートの実際と意義を説明できる。					
授業展開	回	テーマ	内容	オンライン	オンデマンド	担当教員
	1	オリエンテーション	集団としての健康を守るための実務や健康戦略の重要性を理解し、公衆衛生の果たすべき幅広い役割を理解する	×	×	森 寛子
	2	校外実習(1)	富士宮市役所 8月23日 認知症対策など先駆的な取り組みを行う行政担当者による講義(現在調整中内容は変更有)	×	×	森 寛子
	3	校外実習(2)	掛川東病院 9月6日 住み慣れた地域で医療を受け人生の最期を迎えるためには、医療と介護の連携が重要です。様々な役割を持つ異なった病棟、退院後の帰宅を目指す老人保健施設、在宅療養で必要となる通所リハや訪問リハなどを兼ね備えたコミュニティ・ホスピタルの実際と行政担当者、支えるボランティアの思いを学びます。	×	×	森 寛子
	4	校外実習(3)	環境衛生研究所 9月20日 静岡県環境衛生科学研究所の研究活動を見学する。環境科学部、大気水質部の業務内容と検査室等の見学で環境問題への理解を深めます。	×	×	森 寛子
	5	校外実習(4)	地域住民コホートの見学実習(日程調整中) コホート研究を通じた疾病予防・健康増進の概説。	×	×	田原康玄
評価方法	実習への参加度(実習先での意見交換や質疑応答を含む)(100%) <成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3以上の出席(全5日中4日以上)を条件とする。 校外実習の(1)、(2)、(3)の出席を単位習得の必須条件とする。					
テキスト	なし					
参考書	なし					
授業時間外に行う学修内容	予習:1年次に履修した公衆衛生の必修科目の内容を復習しておくこと。 復習:実習で学んだ内容を記録としてまとめること。					
備考	・ 遠隔受講(オンライン・オンデマンド)不可。 ・ 校外実習3回はCOVID-19感染症状況によって変動する。					

科目名	死生学		学 期	前期前半		
履修区分	選択科目		曜日・時限	土曜 5 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 1		
配当年次 (履修推奨年次)	2 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	山崎浩司		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	山崎浩司					
科目概要	現代社会の人の生き死ににまつわる多様な課題を扱う死生学について解説する。また、地域における看取りと死別と支えあいについて講義を行う。					
到達目標	1. 死生学の成り立ちと射程について説明できる。 2. 死生学の代表的なテーマについて現状と課題を説明できる。 3. 自分なりの死生観を自覚し他者の死生観を尊重できる。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	死生学とは	死生学の成り立ちと種類及び主要なテーマについて概説する。	○	○	山崎浩司
	2	デスカフェ	死について気軽に語り合う社会運動であるデスカフェについて解説する。 ※ 講師出張のため、講義動画の視聴をもって出席とする。	×	○	山崎浩司
	3	死別・悲嘆とその支援	死別・悲嘆の捉え方の変遷を確認し、その支援について考察する。	○	○	山崎浩司
	4	緩和医療	緩和ケア医(ゲストスピーカー)が、個々の患者の語りに照準した緩和医療の実践・研究について解説する。	○	○	山崎浩司
	5	デスエデュケーション	医療マンガを題材に「良い死(good death)」について考察する医学教育の実践を紹介する。	○	○	山崎浩司
	6	看取りと宗教	臨床宗教師(ゲストスピーカー)が、看取りの医療における宗教者の関わりや実践について解説する。	○	○	山崎浩司
	7	生殖医療と生命	死生心理学者(ゲストスピーカー)が、生命の選択や操作の倫理問題について解説する。	○	○	山崎浩司
8	在宅看取りと尊厳	在宅看取りと尊厳ある最期・死について、地域包括ケアシステムの構築も視野に入れて考察する。	○	○	山崎浩司	
評価方法	期末レポート(100%) <成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 回中 6 回以上)を条件とする。					
テキスト	石丸昌彦・山崎浩司編(2018)『死生学のフィールド』放送大学教育振興会					
参考書	臨床死生学テキスト編集委員会編(2014)『テキスト臨床死生学』勁草書房 清水哲郎・島蘭進編(2010)『ケア従事者のための死生学』ヌーヴェルヒロカワ					
授業時間外 に行う学修内容	授業で講師が指定したテキストの該当部分や関連する参考書などを読み、授業内容を復習して理解を深める。					
備考	ゲストスピーカーの都合により、授業展開の順番が変更になる可能性があることを了解されたい。					



科目名	質的研究法		学 期	前期後半		
履修区分	選択科目		曜日・時限	土曜 5 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	森 寛子		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	森 寛子					
科目概要	<p>研究対象である個人や小集団の認識、価値観、行動、及びそれらを成り立たせる規範などのコンテキストを理解するのに有用なアプローチである質的研究法について講義する。量的研究との違い、主要なデータ収集法とデータ分析法などを解説するとともに、演習を通して体験的に理解することを促す。</p> <p>森 寛子／8 回</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 質的研究法の特徴を量的研究法との対比により理解する。</li> <li>2. 質的研究におけるデータ収集の基本的知識と技術を学び、質の高いデータを収集できる。</li> <li>3. 質的研究におけるデータ分析手続きの基本を理解し、厳密な結果を生成できる。</li> </ol>					
授業展開	回	テーマ	内 容	オン ライン	オンデ マンド*	担当教員
	1	質的研究とは	量的研究と対比しつつ質的研究ならではのリサーチクエスト ョン、倫理的配慮等、方法論的特性を理解する。	○	○	森寛子
	2	データ収集(1)	代表的なデータ収集法とサンプリング法を理解する。	○	○	森寛子
	3	データ収集(2)	個人インタビューとフォーカスグループインタビューについて 学ぶ。	○	○	森寛子
	4	演習(1)	個人インタビューによるデータ収集の演習を行う。	△	×	森寛子
	5	データ分析(1)	代表的なデータ分析法を学び、質的研究における分析の基 本的な考え方を理解する。	○	○	森寛子
	6	データ分析(2)	継続比較分析に基づくコーディングについて学び、コード化 の演習を行う。	○	×	森寛子
	7	演習(2)	コーディング後、切片化されたデータを用いて、プロパティ とディメンジョンによる分析の演習を行う。	△	×	森寛子
8	質的研究の評価基準と 統合への可能性	質的研究から得られた知見の評価基準について理解する。	○	○	森寛子	
評価方法	<p>演習 50%(演習 1・2 各 25%、課題レポート等提出)、期末レポート 50%</p> <p>&lt;成績評価の前提条件&gt; 選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 回中 6 回以上)を条件とする。</p>					
テキスト	ジョン・W・クレスウェル、ジョアンナ・クレスウェル・バイアス著、廣瀬眞理子訳(2022)『質的研究をはじめのための 30 の基礎スキル』新曜社。					
参考書	<p>サウタツツヤ、春日秀朗、神崎真実編(2019)『ワードマップ質的研究法マッピング』新曜社。</p> <p>Pope C &amp; Mays N eds (2020) Qualitative Research in Health Care (4th ed), Wiley-Blackwell.</p>					
授業時間外に 行う学修内容	<p>授業で講師が指定した論文やテキストの該当部分を読み、授業内容を復習したり、次回授業の予習をしたりすること。演習の事前準備や参加して得られた学びなどについて、レポートを作成すること。自らの研究や実践と関連する質的研究の文献を読み、期末レポートを作成すること。</p>					
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 4 回・第 7 回の演習(オンデマンドでの出席不可)は、極力オンラインでの出席も回避し、原則オンサイトで出席すること。</li> <li>・ 「混合研究法」の履修にあたっては本科目の単位修得が望ましい。</li> <li>・ 2023 年度入学生までは、「社会健康医学における質的研究法」として登録される。</li> </ul>					

科目名	質的研究法特講(M-GTA 特講)		学 期	前期後半		
履修区分	選択科目		曜日・時限	夏季集中講義		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	山崎浩司		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	質的研究法		
担当教員	山崎浩司					
科目概要	<p>看護・保健・福祉系の質的研究で多用される修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ(M-GTA)について、質的研究方法論としての特性を詳しく解説する。また、M-GTA を活用して研究を計画ないし実施している受講者は発表し、全員で質疑応答・ディスカッションを行う。加えて、主に保健・医療・福祉領域で M-GTA による研究経験のあるゲストスピーカーが、自身の研究成果や実践的応用について発表する。</p> <p>※ 令和 6 年度開講日:8 月 24 日、31 日、9 月 7 日、14 日の 4 日間(土曜 4・5 限)</p>					
到達目標	<p>1. M-GTA の特性を、他の質的研究方法論との対比により理解できる。</p> <p>2. M-GTA における分析手続きを理解し、厳密な結果を生成できる。</p> <p>3. M-GTA による研究を適切に評価し、質疑応答や議論を発展させられる。</p>					
授業展開	回	テーマ	内 容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	M-GTA の方法論的特性①	M-GTA の基本特性について、他の GTA やそれら以外の質的研究方法論との違いを踏まえて解説する。	△	△	山崎浩司
	2	M-GTA の方法論的特性②	M-GTA の基本特性について、他の GTA やそれら以外の質的研究方法論との違いを踏まえて解説する。	△	△	山崎浩司
	3	M-GTA の分析手続き①	M-GTA の分析手続きについて、具体例を参照しながらステップ・バイ・ステップで解説する。	△	△	山崎浩司
	4	M-GTA の分析手続き②	M-GTA の分析手続きについて、具体例を参照しながらステップ・バイ・ステップで解説する。	△	△	山崎浩司
	5	M-GTA による研究の成果と実践的応用	ゲストスピーカーが、M-GTA による自身の研究成果や実践的応用について解説する	△	△	山崎浩司
	6	研究発表	受講生が、M-GTA による自身の研究の構想や進捗を発表する。	△	△	山崎浩司
	7	研究発表	受講生が、M-GTA による自身の研究の構想や進捗を発表する。	△	△	山崎浩司
	8	研究発表	受講生が、M-GTA による自身の研究の構想や進捗を発表する。	△	△	山崎浩司
評価方法	<p>研究発表をする者: 研究発表(60%)、期末レポート(40%)</p> <p>研究発表をしない者: 課題レポート(40%)、期末レポート(60%)</p>					
テキスト	木下康仁(2020)『定本 M-GTA: 実践の理論化をめざす質的研究方法論』医学書院。					
参考書	木下康仁編(2005)『分野別実践編グラウンデッド・セオリー・アプローチ』弘文堂。					
授業時間外に行う学修内容	<p>授業で講師が指定したテキストや論文などの該当部分を読み、授業内容を復習したり次回授業の予習をしたりする。研究発表をする者は、レジュメの作成など発表の準備を行う。研究発表をしない者は、発表および質疑応答・議論に関して課題レポートを作成する。全員自らの研究や実践と関連する M-GTA による文献を読み、期末レポートを作成する。</p>					
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>質的研究の基礎を学習していない者は、原則として科目「質的研究法」を履修した上で受講すること。</li> <li>定員 20 名(科目履修生を含む): 本科目で M-GTA を活用して研究を行う予定のある者の受講を優先する。</li> <li>極力オンサイトでの出席が望ましいが、オンラインでの出席も認める。オンデマンドでの出席は 2 回までとする。</li> <li>授業内のグループワーク、質疑応答、ディスカッションへの積極的な参加を期待する。</li> <li>2024 年度開講(2023 年度以前の入学者は履修不可。)</li> </ul>					

科目名	混合研究法		学 期	前期前半		
履修区分	選択科目		曜日・時限	土曜 2 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 1		
配当年次 (履修推奨年次)	2 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	八田太一		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	質的研究法		
担当教員	八田太一					
科目概要	混合研究法(Mixed Methods Research)は、質的アプローチと量的アプローチを統合させる研究方法論であり、単一の研究の中で質と量の 2 つのアプローチを採用し統合を試みた研究は混合型研究と呼ばれる。より複雑な研究課題に取り組む際に「統合」の有用性が注目されるものの、その概念を理解し、使いこなすことは容易ではない。ここでは、受講生が「統合」以前の問題を明らかにし、混合研究法を使うために必要な考え方を伝える。受講生は、課題・演習として修士論文や課題研究などで取り組んでいる研究を素材に混合型研究をデザインし、混合研究法の理解を深め方法論的視野を広げる。					
到達目標	1. 質的研究と量的研究とを問わず調査研究の基本的な手順を理解し、調査を実施する合理性を認識する。 2. 混合研究法の基本的な前提と統合の多様性を理解し、方法論的検討に必要な視座を獲得する。 3. 手続きダイアグラムを描くことで、自分の研究を混合型研究として説明する。					
授業展開	回	テーマ	内 容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	混合研究法の背景と調査研究の手続き	混合研究法の背景と調査研究の基本的な構成を読み取る	○	○	八田太一
	2	混合研究法の定義と合理性	混合研究法の多様な定義を俯瞰し混合研究法を用いる合理性を理解する	○	○	八田太一
	3	統合とコア・デザイン	混合研究法の鍵概念である「統合」と基本的なデザインとを対比的に理解する	○	○	八田太一
	4	サンプリングとデータ収集	サンプリングレベルの統合とデータソースからデータを切りとる方法を理解する	○	○	八田太一
	5	データ分析と結果の提示	分析レベルの統合と質的・量的結果を統合させるジョイント・ディスプレイを理解する	○	○	八田太一
	6	実践マトリックスと手続きダイアグラム	研究で扱うデータの所在と研究手続きの構成を理解する	○	○	八田太一
	7	個別発表	各学生が研究テーマに合わせてダイアグラムを描き発表する	○	×	八田太一
8	個別発表	各学生が研究テーマに合わせてダイアグラムを描き発表する	○	×	八田太一	
評価方法	発表及び発表資料(70%)、講義内の議論参加への積極性(30%) <成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	「混合研究法入門」抱井尚子(2015)医学書院 「質的研究をはじめのための 30 の基礎スキル」廣瀬眞理子・訳(2022)新曜社					
参考書	「混合研究法の基礎」(監訳)土屋敦・八田太一・藤田みさお(2017)西村書店 “The Mixed Methods Research Workbook”. Michael D. Fetters. (2020) SAGE 「混合研究法の手引き—トレジャーハントで学ぶ研究デザインから論文の書き方まで」M フェターズ・抱井尚子(2021)遠見書房					
授業時間外に行う学修内容	7 回目、8 回目の授業では各自の研究テーマで混合型研究のデザイン(手続きダイアグラム)を発表する。授業内容に合わせ毎回、課題を出す。各自の研究計画や研究内容を批判的に捉える機会にもなるため、根気強く取り組むこと。					
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>第 7 回、第 8 回はオンデマンド不可。</li> <li>2023 年度入学生までは、「社会健康医学における混合研究法」として登録される。</li> </ul>					

科目名	精神保健学概論・心理社会的支援技術論		学 期	前期後半		
履修区分	選択科目		曜日・時限	金曜 4 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 1		
配当年次 (履修推奨年次)	2 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	天笠 崇		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	ヘルスコミュニケーション概論、行動医科学		
担当教員	天笠 崇					
科目概要	精神疾患予防対策、精神健康増進施策の立案に当たり、実際に住民に行動を喚起させる手法について、特に認知行動療法や社会生活スキルトレーニング(SST)の適用方法について講義及び演習を行う。					
到達目標	1. 県内の精神保健的課題について理解できる。 2. 県民に行動を喚起させる手法について理解できる。 3. 県内の精神保健的課題に気づき、心理社会的支援技術を使って解決のために立案できる。					
授業展開	回	テーマ	内 容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	精神的健康を取り巻く 状況	精神的健康を取り巻く世界、日本、県の概況について解説する。	○	○	天笠 崇
	2	静岡県内の精神保健的 課題	県内の精神保健的課題と取り組み状況について、精通したゲストスピーカーを招聘し解説する。	○	○	天笠 崇
	3	心理社会的支援技術論 (1)	心理社会的支援技術として認知行動療法を中心に演習を交えながら講義する。	○	○	天笠 崇
	4	心理社会的支援技術論 (2)	心理社会的支援技術として社会生活スキルトレーニング(SST)を中心に演習を交えながら講義する。	○	○	天笠 崇
	5	家族の精神保健的課題	県内の家族の精神保健的課題とそれらを支援するために可能な心理社会的技術について講義する。	○	○	天笠 崇
	6	学校教育の精神保健的 課題	県内の学校の精神保健的課題とそれらを支援するために可能な心理社会的技術について講義する。	○	○	天笠 崇
	7	勤労者の精神保健的課 題	県内の勤労者の精神保健的課題とそれらを支援するために可能な心理社会的技術について講義する。	○	○	天笠 崇
8	現代社会の精神保健的 課題	県内の現代社会的な精神保健的課題とそれらを支援するために可能な心理社会的技術について講義する。	○	○	天笠 崇	
評価方法	レポート(40%)、ディスカッション参加度・発言内容(60%) <成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じて資料配布					
参考書	授業展開の必要に応じてその都度指示					
授業時間外に 行う学修内容	予習: 第 5~8 回については事前に調査して各自課題を提案できるようにすること。 復習: 講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考	本科目は発展的科目なので、履修する院生と相談しながら授業展開を考えていきますので、本シラバス通りにならない場合もあります。					

科目名	医療・ケア組織論		学 期	後期前半		
履修区分	選択科目		曜日・時限	土曜 3 限		
単 位 数	1 単位 (90 分 × 8 コマ)		使用教室	講義室 1		
配当年次 (履修推奨年次)	2 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	天笠 崇		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	高齢者ケア概論、行動医科学		
担当教員	天笠 崇、佐々木八十子					
科目概要	医療や介護等の現場において、疾病予防対策や健康増進施策を継続的かつ効果的に展開するための組織のあり方等について講義を行う。 (オムニバス方式／全 8 回) (天笠 崇／5 回)健康増進組織について、特に健康職場・健康増進活動拠点病院(HPH)・コ・プロダクションに関して講義を行う。 (佐々木八十子／3 回)医療組織文化の調査事例をもとに、組織文化・診断・変革のプロセスに関して講義を行う。					
到達目標	1. 医療や介護における組織文化の概念を理解する。 2. 組織の特性を把握するための組織分析の手法を理解する。 3. 組織プロフィールから、疾病予防対策や健康増進施策を展開する際の促進要因や阻害要因を理解し、課題に取り組むために求められる変化と適応について検証できる。 4. 健康職場、HPH、SDGs、コ・プロダクションの概要を理解する。 5. 実践の際重要となるチームングとリーダーシップについて理解する。					
授業展開	回	テーマ	内 容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	医療・ケア組織論について	イントロダクション 健康増進施策・疾病予防対策・医療・ケアを支援ととらえ、支援と組織の関係について概説する。	○	○	天笠 崇
	2	組織論の歴史と国内外の組織研究	組織論の歴史並びに国内外の医療・ケアにおける組織研究について解説する。	○	○	佐々木八十子
	3	方法論と実例	組織文化の概念フレームワークと診断ツールにもとづいた、組織プロフィールの実例から見える医療・ケア組織の課題と質改善の取り組みについて解説する。	○	○	佐々木八十子
	4	チームングとリーダーシップ	健康職場・HPH・地域保健活動を進めるには組織変革が必要となり得るため、その要となるチームングとリーダーシップについて講義する。	○	○	佐々木八十子
	5	HPH とコ・プロダクションと SDGs	健康増進活動拠点病院(HPH)とは何か、その歴史的背景について、特に健康の社会的決定要因(SDH)との関係や英国で発展してきたコ・プロダクションについて講義する。さらに、持続可能な開発目標(SDGs)とは何か、その背景、わが国の現状、医療・ケア組織との関わりの可能性について講義する。	○	○	天笠 崇
	6	組織変革	ゲストスピーカーを招聘し、疾病予防対策や健康増進施策を継続的かつ効果的に展開するために組織が求められる変化と適応について検討する。	○	○	天笠 崇
	7	行政組織	ゲストスピーカーを招聘し、地域において様々なステークホルダーと連携しながら保健医療活動を実施する行政の組織としての特徴と効果的なネットワークの形成について検討する。	○	○	天笠 崇
8	健康職場 発表会	前半:健康職場とは何か、提唱された背景と考え方、進め方について、特に産業医・産業保健スタッフ活動の視点から概説する。 後半:グループ発表・講評(Q&A)	○	○	天笠 崇	
評価方法	グループワーク・資料作成・発表(70%)、授業へのリアクションペーパー提出(30%) <成績評価の前提条件>選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じて資料配布					
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 組織文化を変える, キム S・キャメロン著, ロバート E・クイン著 (ファーストプレス)</li> <li>・ 人を助けるとはどういうことか, エドガー・H・シャイン, 英治出版</li> <li>・ SDGsの基礎, 沖大幹ほか, 事業構想大学院大学出版部</li> <li>・ 日本 HPH ネットワーク・ウェブの「研究・試料」</li> <li>・ チームが機能するとはどういうことか, エイミー・C・エドモンドソン, 英治出版</li> </ul>					
授業時間外に行う学修内容	<p>予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。</p> <p>復習:講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。</p>					
備考						

科目名	高齢者ケア特論		学 期	前期後半		
履修区分	選択科目		曜日・時限	土曜 4 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 1		
配当年次 (履修推奨年次)	2 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	高齢者ケア概論		
科目責任者	森 寛子		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	森 寛子、小林美亜					
科目概要	<p>高齢者ケア概論で学んだ内容を基に、要介護高齢者の特異性に注目した介護の現状課題の把握、検討、災害時や性同一性障害者へのケアについて講義する。</p> <p>(森 寛子/7 回)高齢者介護の多様な状況の課題に関する講義を行う。 (小林美亜/1 回)高齢者の健康と認知症に関する講義を行う。</p>					
到達目標	<p>1. 原因疾患や個人特性による介護の課題の違いや高齢者の健康状態の多様性を理解する。</p> <p>2. 経口摂取、患者との意思疎通など日常的な課題から、大規模自然災害、看取りなど介護の様々な状況での介護の課題を理解する。</p>					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	高齢者の健康問題	高齢者集団の健康について再考する。健康負担を示す量的指標やアドバンスド・ケア・プランニングへの理解を深める。	○	○	森 寛子
	2	口から食べるという支援	介護施設や在宅での摂食嚥下リハビリテーションの取り組みを理解し、食べることの文化的影響と介護者への心理社会的影響について認識を深める。	○	○	森 寛子
	3	ジェンダーとケア、そして人権	性的少数者へのケア提供の問題を認識し、その課題を理解する。そしてケアを受ける者の人権についても再考する。	○	○	森 寛子
	4	認知症支援と地域生活	認知症患者の地域社会での暮らしを支える地域の取り組みについて理解する。	○	○	小林 美亜
	5	看取り	施設、自宅、病院のそれぞれでの看取りに精通した研究者をゲストスピーカーとして招聘し、高齢者介護では看取りの問題が避けて通れないことについて理解を深める。	○	○	森 寛子
	6	多職種連携の地域ケアシステム	医療依存度の高い在宅介護について、難病専門の訪問看護師で研究者であるゲストスピーカーを招いて理解を深める。	○	○	森 寛子
	7	大規模災害下での課題	東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県気仙沼市での、災害数年後までの高齢者介護の課題とその対応を理解する。	○	○	森 寛子
	8	まとめ	これまでの講義内容を総括し、高齢者介護の課題について、研究課題を想定して個別発表を行う。	○	×	森 寛子
評価方法	個別発表(80%)、講義内の議論への参加度(20%) <成績評価の前提条件>選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じて資料配布					
参考書	授業展開の必要に応じてその都度提示する。					
授業時間外に行う学修内容	復習:講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考	第 8 回はオンデマンド不可。					

科目名	高齢者運動・リハビリテーション論		学 期	前期前半		
履修区分	選択科目		曜日・時限	金曜 3 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 1		
配当年次 (履修推奨年次)	2 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	藤本修平		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	藤本修平					
科目概要	高齢者の疾病・介護予防、機能回復を目指したリハビリテーションについて、臨床・地域・ヘルスケア業界・ヘルステック領域（ヘルス+テクノロジー）などの切り口から、どのような視点を大事にして各主体が展開しているか、また介護予防・健康増進施策に至る重要な手続きなどについて講義を行う。					
到達目標	1. 介護予防および機能回復を目指したリハビリテーションについて、様々な切り口から説明できる。 2. リハビリテーションに関連するヘルスケア業界の取り組みを理解し、身近な課題について自らアイデアを立案することができる。 3. 介護予防・健康増進に関する様々な手法がどのような手続きによって実証されているか説明できる。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	リハビリテーションと社会参加	広義・狭義のリハビリテーション概念及び社会参加におけるリハビリテーションの役割について解説する。	○	○	藤本修平
	2	リハビリテーション総論とヘルスコミュニケーション	エビデンスに基づいた脳卒中リハビリテーション・整形疾患リハビリテーションの具体的な内容（ガイドラインの活用を含む）と介護予防との関係、およびリハビリテーションに必須のヘルスコミュニケーションの活用方法を解説する。	○	○	藤本修平
	3	介護予防・機能回復に向けた脳科学リハビリテーション	介護予防・リハビリテーション領域で最も重要視されている脳科学アプローチに注目し、具体的なリハビリテーション手法や施策を解説する。	○	○	藤本修平
	4	介護予防分野におけるリハビリテーションの保険外サービス	昨今、市場が大きくなっている保険外のリハビリサービスについて、介護予防や機能回復を主眼において、その特徴と役割について解説する。	○	○	藤本修平
	5	ヘルステック領域におけるリハビリテーション施策	リハビリテーションに関わるヘルステック領域のリハビリテーション施策について、介護予防・健康増進に繋がるアプリ開発に至る研究知見の活用及びその効果を中心に解説する。	○	×	藤本修平
	6	介護予防・健康増進における地域リハビリテーション	介護予防・地域リハビリテーションの研究者をゲストスピーカーとして迎え、介護予防・健康増進のために地域で行われている介入・イベントやその実証実験などを解説する。	○	○	藤本修平
	7	コミュニティ形成	コミュニティ形成の実務経験が豊富な者をゲストスピーカーとして迎え、コミュニティの役割やリハビリテーションとの関係性について解説する。	○	○	藤本修平
8	介護予防・社会参加を目的としたヘルスケア情報プラットフォーム	介護予防やリハビリテーション領域に関するヘルスケア関連の情報プラットフォームを取り上げ、その意義を解説する。	○	×	藤本修平	
評価方法	講義における議論の参加度(40%)、レポート(60%) <成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じて資料を配布					
参考書	なし					
授業時間外に行う学修内容	予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した文献を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考	5 回目、8 回目は演習形式となるため、オンデマンドは不可。					

科目名	ヘルスケアビジネス論		学 期	後期前半		
履修区分	選択科目		曜日・時限	金曜 3 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 1		
配当年次 (履修推奨年次)	2 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	藤本修平		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	高齢者・リハビリテーション論		
担当教員	藤本修平					
科目概要	国内のヘルスケアビジネス市場を概観しながら、研究のための研究に陥らないよう、社会シーズや研究シーズの実装(医療、データ利活用、情報発信、医療機器開発、介護事業など)に必要な考え方・実務および公衆衛生人材に求められるスキル、産官学連携の切り口について、さまざまな企業のケーススタディを通して講義・演習を行う。					
到達目標	1. ヘルスケアビジネスにおいて必要な公衆衛生スキルについて、様々な切り口から説明できる。 2. 研究(研究シーズ)を社会実装する場合の手法および社会ニーズを捉える方法について、概観を説明できる。 3. 産官学連携の実践における産業側の考え方および医療・介護 DX の社会実装について事例・ビジネスモデルを説明できる。					
授業展開	回	テーマ	内 容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	ヘルスケアビジネス概論	公衆衛生人材が活躍しているヘルスケアビジネスについて紹介しながら、研究シーズを産業化する上で必要な視点やフレームワークを解説する。	○	○	藤本修平
	2	ヘルスケア AI の潮流	ヘルスケアにおける AI 活用について、公衆衛生人材に求められることや DX の導入においてどのようなプロセスを経る必要があるか、演習を交えながら解説する。	○	○	藤本修平
	3	マーケティングリサーチ①	ヘルスケアビジネスと公衆衛生人材の接点の 1 つであるマーケティングリサーチについて基礎的な知識を解説し、フレームワークを用いた演習を行う。	○	×	藤本修平
	4	マーケティングリサーチ②	ヘルスケアビジネスと公衆衛生人材の接点の 1 つであるマーケティングリサーチについて、ロジックモデルを作成する演習を行う。	○	×	藤本修平
	5	マーケティングリサーチ③	マーケティングリサーチ②で行ったロジックモデルの作成演習について、発表およびディスカッションを行う。	○	×	藤本修平
	6	産学連携と知的財産マネジメント	研究シーズを産業化する上で重要となる産学連携について、社会実装に至るまでのプロセスと知的財産マネジメントについて解説する。	○	○	藤本修平
	7	ファイナンス概論	研究シーズを産業化する上で重要なステークホルダーとなるベンチャーキャピタルやエンジェル投資家の機能について紹介し、資金調達で重要な視点を解説する。	○	○	藤本修平
8	社会実装に至る新規事業開発	新規事業開発を通して社会実装に至った企業からゲストスピーカーを招聘し、社会実装の失敗事例や成功事例について解説する。 ※備考参照	×	×	藤本修平	
評価方法	講義における議論の参加度(50%)、発表(30%)、最終レポート(20%) <成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じて資料を配布					
参考書	医療 4.0 実践編、デジタルヘルストrend 2023					
授業時間外に行う学修内容	予習: あらかじめ配布した講義資料および事前に提示する企業のケース資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した文献を読み、理解を深めること。					
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハンズオンの演習形式が主のものは、オンデマンド不可(オンライン受講は可)</li> <li>第 8 回目は、起業家のゲストスピーカーを 8 名程度呼び、ヘルスケアビジネスの潮流や社会実装について解説予定である。そのため、1 コマ目を延長する可能性があることを了承して受講すること(延長分を欠席しても単位に影響はない)。</li> <li>2023 年度のゲストの所属企業は、東証プライム企業(電通、メドレー)、上場企業への M&amp;A(Antaa(JMDC)、3suuny(帝人))、大手スタートアップ企業(カケハシ、メディカルノート、アイリス、Rehab for Japan、PREVENT)、Web3.0 事業でした。</li> <li>2023 年度開講(2022 年度以前の入学者は履修不可)</li> </ul>					



科目名	オーラルヘルスプロモーション		学 期	後期前半		
履修区分	選択科目		曜日・時限	土曜 2 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 1		
配当年次 (履修推奨年次)	2 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	佐藤洋子		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	佐藤洋子					
科目概要	口腔の健康と全身の健康は密接に関連している。オーラルヘルスプロモーションとは、口腔疾患の予防や口腔の健康意識を高めるプロセスや戦略である。本授業では、社会健康医学を実践するうえで重要なオーラルヘルスプロモーションに関する歯学知識、歯科口腔疾患の予防や公衆衛生、歯科保健医療制度、地域口腔保健、全身の健康との関連などについて、講義およびグループワーク演習を通して学習する。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主な口腔疾患とその予防について理解する。</li> <li>・ 口腔と全身の健康との関連を理解する。</li> <li>・ 地域口腔保健について理解する。</li> <li>・ 歯科レセプトデータの特徴について理解する。</li> </ul>					
授業展開	回	テーマ	内 容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	オーラルヘルスプロモーションの目的と意義/口腔の組織、発育、機能	歯科医学におけるオーラルヘルスプロモーション(口腔保健・予防歯科学)の考え方を解説し、歯科医学の基礎を解説する。	○	○	佐藤洋子
	2	口腔疾患の予防	う蝕、歯周病、不正咬合などの口腔疾患について解説する。疾患の予防や疫学指標について解説する。	○	○	佐藤洋子
	3	口腔と全身の健康(1) 糖尿病、循環器疾患、心疾患など	口腔と全身の健康との関連について国内外の学術研究を紹介し、解説する。	○	○	佐藤洋子
	4	口腔と全身の健康(2) がん、呼吸器疾患、認知症など	口腔と全身の健康との関連について国内外の学術研究を紹介し、解説する。	○	○	佐藤洋子
	5	地域口腔保健(1)	地域口腔保健に関する経験が豊富な研究者(ゲストスピーカー)を招聘し、ライフステージごとの口腔保健管理(母子口腔保健、小児期の口腔保健、成人期・老年期の口腔保健)の取り組みや研究などについて解説する。	○	○	佐藤洋子
	6	地域口腔保健(2)	地域口腔保健に関する経験が豊富で、静岡県の口腔保健にも関わっている研究者(ゲストスピーカー)を招聘し、ライフステージごとの口腔保健管理(母子口腔保健、小児期の口腔保健、成人期・老年期の口腔保健)の取り組みや研究などについて解説する。	○	○	佐藤洋子
	7	歯科レセプトデータの特徴と活用	歯科レセプトデータの特徴や、レセプトデータを用いた観察研究について解説する。	○	○	佐藤洋子
8	オーラルヘルスプロモーションの実践	静岡県における口腔保健の課題とその解決方法についてグループワークを行う。	○	○	佐藤洋子	
評価方法	授業への出席(40%)、講義の理解度を確認する小テスト(30%)、講義への積極的な参加度(30%) <成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする					
テキスト	講義内容に応じて資料配布					
参考書	口腔保健・予防歯科学(2017) 安井利一・宮崎秀夫・鶴本明久・川口陽子・山下喜久・廣瀬公治 編 Oral Epidemiology: A Textbook on Oral Health Conditions, Research Topics and Methods (Textbooks in Contemporary Dentistry)(2020) Marco A. Peres, Jose Leopoldo Ferreira Antunes, Richard G. Watt					
授業時間外に行う学修内容	予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること 復習: 講義内容に関連した文献や参考書を読み、理解を深めること					
備考	2023 年度開講(2022 年度以前の入学者は履修不可)					

科目名	修士論文						
履修区分	選択						
単位数	8単位	開講時期	1年次～2年次・通年				
科目責任者	研究指導教員						
担当教員	研究指導教員						
科目概要	これまでの業務上の経験、講義・演習やフィールド実習等で得た気付き、各人の関心に基づいて、解決すべき保健・医療上の課題を設定し、研究計画書を作成する。そして、研究計画書を踏まえたデータの収集、調査と分析を進め、その結果について、修士論文の作成を行う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究計画書の作成に関する基本的な知識を説明できる。</li> <li>2. 健康寿命の延伸を図るために、科学的思考や論理的思考に基づいた研究活動を行うことができる。</li> <li>3. 研究を推進するに当たり、確かな倫理観に裏付けられた研究態度を身に付けることができる。</li> </ol>						
授業展開	<table border="1"> <tr> <td>1年次</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関連文献の調査</li> <li>・ 研究課題に関する研究計画書の作成</li> <li>・ 研究倫理委員会の審査申請書の作成</li> <li>・ 中間発表会における発表</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>2年次</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究対象者、研究対象施設等との調整</li> <li>・ 研究の実施</li> <li>・ 研究で得られたデータの整理、分析</li> <li>・ 修士論文の作成</li> <li>・ 特別研究発表会における発表</li> </ul> </td> </tr> </table> <p>(田原 康玄)生活習慣病・循環器疾患・フレイル・認知症のリスク因子の解明と予防・介入方法に関するゲノム・疫学研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(高木 明)新生児聴覚スクリーニングにより発見された難聴児の早期の人工内耳手術から引き続き適切な介入による音声言語発達の変容に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(末岡 浩)周産期医療における遺伝医療の最適化、適切な遺伝カウンセリングプロセスの構築に関する研究を指導する。</p> <p>(菅原 照)慢性腎臓病(CKD)などの生活習慣病の早期発見、早期診断、早期治療介入の推進が日本人の健康問題の予防と健康寿命の延長に関連することについての研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(臼井 健)精密医療実現のためのゲノム医療の推進および遺伝カウンセリングを含む遺伝診療の果たす役割に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(小島原 典子)ワクチンによる呼吸器感染症の予防効果、産業保健介入が働きがいに与える影響、電磁界など物理因子の健康影響などに関するシステムティックレビューや疫学研究を指導し、論文作成を支援する。</p> <p>(栗山 長門)長寿・認知症・がん・生活習慣病などを中心とした予防医学に関する研究、社会における健康リスクと関連要因の研究、コホート調査に関する研究課題 を中心に、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(森 潔)高額な医療費・介護費を必要とする腎疾患及び関連する生活習慣病・心血管疾患・癌などについて、危険因子の同定と積極的健康増進を目標とした研究課題を設定し、研究デザイン及び論文作成のプロセスを指導する。</p> <p>(木下 和生)がんや免疫関連疾患の疫学研究(遺伝子多型との関連も含む)、コホート調査で収集する検体を用いた新規老化生物指標(バイオマーカー)に関する研究課題について、研究プロセスと論文作成を指導する。</p> <p>(竹内 正人)健康保険組合保有データベースや DPC データベースをはじめとする大規模医療データベースを用いた臨床疫学・薬剤疫学に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(高山 智子)がん患者や生活者と医療者とのコミュニケーションに関する研究、パブリックヘルスコミュニケーションの質の改善に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p>			1年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関連文献の調査</li> <li>・ 研究課題に関する研究計画書の作成</li> <li>・ 研究倫理委員会の審査申請書の作成</li> <li>・ 中間発表会における発表</li> </ul>	2年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究対象者、研究対象施設等との調整</li> <li>・ 研究の実施</li> <li>・ 研究で得られたデータの整理、分析</li> <li>・ 修士論文の作成</li> <li>・ 特別研究発表会における発表</li> </ul>
1年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関連文献の調査</li> <li>・ 研究課題に関する研究計画書の作成</li> <li>・ 研究倫理委員会の審査申請書の作成</li> <li>・ 中間発表会における発表</li> </ul>						
2年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究対象者、研究対象施設等との調整</li> <li>・ 研究の実施</li> <li>・ 研究で得られたデータの整理、分析</li> <li>・ 修士論文の作成</li> <li>・ 特別研究発表会における発表</li> </ul>						

(山本 精一郎)がんを中心とした様々な疾患領域の治療、予防のための新しい医療技術(医薬品を含む)開発に資する臨床試験の計画、実施、解析について指導する。がんを含む生活習慣病予防や二次予防としての健診・検診分野における行動変容を促す方法の開発・評価・普及について指導する。

(古川 茂人)難聴の特性・リスク評価への展開を想定した、「聞こえ」の測定やメカニズム解明に関する心理物理学・神経生理学・認知科学研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。

(山崎 浩司)死別体験者のグリーフに対する健康増進的支援、臨床死生学、インフォーマルケアに関する研究課題について、主に質的研究を用いた論文作成の研究プロセスを指導する。

(堀内 泰江)臨床ゲノム解析による遺伝子型と表現型の関連研究成果をふまえ、ゲノム医療の推進、遺伝カウンセリングの質向上に関わる研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。

(天笠 崇)労働ストレス要因と精神疾患、職場のメンタルヘルス対策、社会生活技能訓練を初めとした心理社会的支援による精神健康の改善に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。

(森 寛子)地域社会で暮らす人々の健康と福祉の向上に関し、疫学手法や質的研究法(構成主義的 GTA,内容分析、テーマ分析など)、及び文献研究やフィールド調査などを用いた研究。漠然とした問題意識を研究課題へ洗練させてゆき、論文作成までを指導する。

(佐藤 康仁)生活環境における物理的因子、化学的因子、生物学的因子等と健康に関する疫学研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。

(溝田 友里)行動科学やナッジ、ソーシャルマーケティング等を活用した、健康に関する行動変容(身体活動、食事、禁煙、がん検診受診、特定健診受診、検査受検等)を促すための研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。

(田中 仁啓)循環器疫学のアプローチを使用し、疾患リスク・関連因子の解明を目指す研究課題を中心に、論文作成の研究プロセスを指導する。

(中谷 英仁)医薬に関する介入、観察研究の統計的手法及び解析、疾患の発症・悪化及び死亡に関する予測因子探索及び予測モデル構築に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。

(藤本 修平)ヘルスケア産業におけるマーケティングリサーチ・産学連携システムを用いた社会実装、診療ガイドライン活用・Evidence-practice gap・コミュニケーションに関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。

(佐々木八十子)医療や介護等の質の向上のための持続的かつ効果的なコミュニケーション・組織の在り方に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。

(八田 太一)混合研究法を用いたインフォームド・コンセントにおける医療者・患者関係の分析をはじめ、患者の自発性や意思決定場面にかかわる研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。

(佐藤 洋子)観察研究における統計的手法及び解析、希少難治性疾患におけるプロファイル解析及び診断/予後モデルの構築・評価に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。

評価方法	研究課題設定の適切性・学術的意義、研究方法の適切性、研究成果及び考察の妥当性、独創性、新規性等の観点から論文を評価
テキスト	—
参考書	—
備考	

科目名	課題研究						
履修区分	選択						
単位数	4単位	開講時期	1年次～2年次・通年				
科目責任者	研究指導教員						
担当教員	研究指導教員						
科目概要	これまでの業務上の経験、講義・演習やフィールド実習等で得た気付き、各人の関心に基づいて、解決すべき保健・医療上の課題を設定し、研究計画書を作成する。そして、研究計画書を踏まえたデータの収集、調査と分析を進め、その結果について、課題研究報告書の作成を行う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究計画書の作成に関する基本的な知識を説明できる。</li> <li>2. 健康寿命の延伸を図るために、科学的思考や論理的思考に基づいた研究活動を行うことができる。</li> <li>3. 研究を推進するに当たり、確かな倫理観に裏付けられた研究態度を身に付けることができる。</li> </ol>						
授業展開	<table border="1"> <tr> <td>1年次</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関連文献の調査</li> <li>・ 研究課題に関する研究計画書の作成</li> <li>・ 研究倫理委員会の審査申請書の作成</li> <li>・ 中間発表会における発表</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>2年次</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究対象者、研究対象施設等との調整</li> <li>・ 研究の実施</li> <li>・ 研究で得られたデータの整理、分析</li> <li>・ 課題研究報告書の作成</li> <li>・ 特別研究発表会における発表</li> </ul> </td> </tr> </table> <p>(田原 康玄)生活習慣病・循環器疾患・フレイル・認知症のリスク因子の解明と予防・介入方法に関するゲノム・疫学研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(高木 明)新生児聴覚スクリーニングにより発見された難聴児の早期の人工内耳手術から引き続き適切な介入による音声言語発達の変容に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(末岡 浩)周産期医療における遺伝医療の最適化、適切な遺伝カウンセリングプロセスの構築に関する研究を指導する。</p> <p>(菅原 照)慢性腎臓病(CKD)などの生活習慣病の早期発見、早期診断、早期治療介入の推進が日本人の健康問題の予防と健康寿命の延長に関連することについての研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(臼井 健)精密医療実現のためのゲノム医療の推進および遺伝カウンセリングを含む遺伝診療の果たす役割に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(小島原 典子)ワクチンによる呼吸器感染症の予防効果、産業保健介入が働きがいに与える影響、電磁界など物理因子の健康影響などに関するシステムティックレビューや疫学研究を指導し、論文作成を支援する。</p> <p>(栗山 長門)長寿・認知症・がん・生活習慣病などを中心とした予防医学に関する研究、社会における健康リスクと関連要因の研究、コホート調査に関する研究課題 を中心に、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(森 潔)高額な医療費・介護費を必要とする腎疾患及び関連する生活習慣病・心血管疾患・癌などについて、危険因子の同定と積極的健康増進を目標とした研究課題を設定し、研究デザイン及び論文作成のプロセスを指導する。</p> <p>(木下 和生)がんや免疫関連疾患の疫学研究(遺伝子多型との関連も含む)、コホート調査で収集する検体を用いた新規老化生物指標(バイオマーカー)に関する研究課題について、研究プロセスと論文作成を指導する。</p> <p>(竹内 正人)健康保険組合保有データベースや DPC データベースをはじめとする大規模医療データベースを用いた臨床疫学・薬剤疫学に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(高山 智子)がん患者や生活者と医療者とのコミュニケーションに関する研究、パブリックヘルスコミュニケーションの質の改善に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p>			1年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関連文献の調査</li> <li>・ 研究課題に関する研究計画書の作成</li> <li>・ 研究倫理委員会の審査申請書の作成</li> <li>・ 中間発表会における発表</li> </ul>	2年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究対象者、研究対象施設等との調整</li> <li>・ 研究の実施</li> <li>・ 研究で得られたデータの整理、分析</li> <li>・ 課題研究報告書の作成</li> <li>・ 特別研究発表会における発表</li> </ul>
1年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関連文献の調査</li> <li>・ 研究課題に関する研究計画書の作成</li> <li>・ 研究倫理委員会の審査申請書の作成</li> <li>・ 中間発表会における発表</li> </ul>						
2年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究対象者、研究対象施設等との調整</li> <li>・ 研究の実施</li> <li>・ 研究で得られたデータの整理、分析</li> <li>・ 課題研究報告書の作成</li> <li>・ 特別研究発表会における発表</li> </ul>						

(山本 精一郎)がんを中心とした様々な疾患領域の治療、予防のための新しい医療技術(医薬品を含む)開発に資する臨床試験の計画、実施、解析について指導する。がんを含む生活習慣病予防や二次予防としての健診・検診分野における行動変容を促す方法の開発・評価・普及について指導する。

(古川 茂人)難聴の特性・リスク評価への展開を想定した、「聞こえ」の測定やメカニズム解明に関する心理物理学・神経生理学・認知科学研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。

(山崎 浩司)死別体験者のグリーフに対する健康増進的支援、臨床死生学、インフォーマルケアに関する研究課題について、主に質的研究を用いた論文作成の研究プロセスを指導する。

(堀内 泰江)臨床ゲノム解析による遺伝子型と表現型の関連研究成果をふまえ、ゲノム医療の推進、遺伝カウンセリングの質向上に関わる研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。

(天笠 崇)労働ストレス要因と精神疾患、職場のメンタルヘルス対策、社会生活技能訓練を初めとした心理社会的支援による精神健康の改善に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。

(森 寛子)地域社会で暮らす人々の健康と福祉の向上に関し、疫学手法や質的研究法(構成主義的 GTA,内容分析、テーマ分析など)、及び文献研究やフィールド調査などを用いた研究。漠然とした問題意識を研究課題へ洗練させてゆき、論文作成までを指導する。

(佐藤 康仁)生活環境における物理的因子、化学的因子、生物学的因子等と健康に関する疫学研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。

(溝田 友里)行動科学やナッジ、ソーシャルマーケティング等を活用した、健康に関する行動変容(身体活動、食事、禁煙、がん検診受診、特定健診受診、検査受検等)を促すための研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。

(田中 仁啓)循環器疫学のアプローチを使用し、疾患リスク・関連因子の解明を目指す研究課題を中心に、論文作成の研究プロセスを指導する。

(中谷 英仁)医薬に関する介入、観察研究の統計的手法及び解析、疾患の発症・悪化及び死亡に関する予測因子探索及び予測モデル構築に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。

(藤本 修平)ヘルスケア産業におけるマーケティングリサーチ・産学連携システムを用いた社会実装、診療ガイドライン活用・Evidence-practice gap・コミュニケーションに関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。

(佐々木八十子)医療や介護等の質の向上のための持続的かつ効果的なコミュニケーション・組織の在り方に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。

(八田 太一)混合研究法を用いたインフォームド・コンセントにおける医療者・患者関係の分析をはじめ、患者の自発性や意思決定場面にかかわる研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。

(佐藤 洋子)観察研究における統計的手法及び解析、希少難治性疾患におけるプロファイル解析及び診断/予後モデルの構築・評価に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。

評価方法	課題分析の的確性や解決策の現実性、課題の構造・背景の分析方法、具体的な解決策及び考察の妥当性・有用性等の観点から報告書を評価
テキスト	—
参考書	—
備考	

科目名	課題研究(遺伝カウンセラー養成コース)						
履修区分	GCコース必修科目						
単位数	4単位	開講時期	1年次～2年次・通年				
科目責任者	臼井 健、末岡 浩、堀内泰江						
担当教員	臼井 健、末岡 浩、堀内泰江						
科目概要	文献検索法・文献評価法、プレゼンテーション・ライティングスキル、疫学概論、医療統計学概論で学修した内容及び臨床研究概論で学修する内容をもとに、また、これまでの業務上の経験、講義・演習や実習等で得た気づき、各人の関心に基づいて、解決すべき遺伝医療の課題を設定し、研究計画書を作成する。合わせて、研究方法論についても学修する。そして、研究計画書を踏まえた情報の収集、調査と分析を進め、その結果について、課題研究報告書の作成を行う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究計画書の作成に関する基本的な知識を説明できる。</li> <li>2. 適切な遺伝医療を提供するために、科学的思考や論理的思考に基づいた研究活動を行うことができる。</li> <li>3. 研究を推進するに当たり、確かな倫理観に裏付けられた研究態度を身に付けることができる。</li> </ol>						
授業展開	<table border="1"> <tr> <td>1年次</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関連文献の調査</li> <li>・ 研究課題に関する研究計画書の作成</li> <li>・ 研究倫理委員会の審査申請書の作成</li> <li>・ 中間発表会における発表</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>2年次</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究対象者、研究対象施設等との調整</li> <li>・ 研究の実施</li> <li>・ 研究で得られたデータの整理、分析</li> <li>・ 課題研究報告書の作成</li> <li>・ 特別研究発表会における発表</li> </ul> </td> </tr> </table> <p>(臼井 健) 精密医療実現のためのゲノム医療の推進および遺伝カウンセリングを含む遺伝診療の果たす役割に関する研究課題について、報告書作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(末岡 浩) 周産期医療における遺伝医療の最適化、適切な遺伝カウンセリングプロセスの構築に関する研究を指導する。</p> <p>(堀内泰江) 遺伝医療に伴い生じてくるクライアントの社会。心理的なサポート体制の問題点や課題を抽出しその有効的な解決策に関する研究をサポートする。</p>			1年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関連文献の調査</li> <li>・ 研究課題に関する研究計画書の作成</li> <li>・ 研究倫理委員会の審査申請書の作成</li> <li>・ 中間発表会における発表</li> </ul>	2年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究対象者、研究対象施設等との調整</li> <li>・ 研究の実施</li> <li>・ 研究で得られたデータの整理、分析</li> <li>・ 課題研究報告書の作成</li> <li>・ 特別研究発表会における発表</li> </ul>
1年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関連文献の調査</li> <li>・ 研究課題に関する研究計画書の作成</li> <li>・ 研究倫理委員会の審査申請書の作成</li> <li>・ 中間発表会における発表</li> </ul>						
2年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究対象者、研究対象施設等との調整</li> <li>・ 研究の実施</li> <li>・ 研究で得られたデータの整理、分析</li> <li>・ 課題研究報告書の作成</li> <li>・ 特別研究発表会における発表</li> </ul>						
評価方法	課題分析の的確性や解決策の現実性、課題の構造・背景の分析方法、具体的な解決策及び考察の妥当性・有用性等の観点から報告書を評価						
テキスト	—						
参考書	—						
備考							

科目名	課題研究(聴覚・言語コース)						
履修区分	言語・聴覚コース必修科目						
単位数	4単位	開講時期	1年次～2年次・通年				
科目責任者	高木 明、古川茂人						
担当教員	高木 明、古川茂人						
科目概要	これまでの業務上の経験、講義・演習等で得た気づき、各人の関心に基づいて、解決すべき難聴・言語発達・認知症等に関する課題を設定し、研究計画書を作成する。そして、研究計画書を踏まえたデータの収集、調査と分析を進め、その結果について、課題研究報告書の作成を行う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究計画書の作成に関する基本的な知識を説明できる。</li> <li>2. 難聴者(乳幼児や高齢者を含む)の聴覚・言語能力の総合的評価障害補償、適切な介入に結びつけるために、科学的思考や論理的思考に基づいた研究活動を行うことができる。</li> <li>3. 研究を推進するに当たり、確かな倫理観に裏付けられた研究態度を身に付けることができる。</li> </ol>						
授業展開	<table border="1"> <tr> <td>1年次</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関連文献の調査</li> <li>・ 研究課題に関する研究計画書の作成</li> <li>・ 研究倫理委員会の審査申請書の作成</li> <li>・ 中間発表会における発表</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>2年次</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究対象者、研究対象施設等との調整</li> <li>・ 研究の実施</li> <li>・ 研究で得られたデータの整理、分析</li> <li>・ 課題研究報告書の作成</li> <li>・ 特別研究発表会における発表</li> </ul> </td> </tr> </table> <p>(高木 明) 新生児聴覚スクリーニングにより発見された難聴児の早期の人工内耳手術から引き続き適切な介入による音声言語発達の変容に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(古川茂人) 難聴の特性・リスク評価への展開を想定した、「聞こえ」の測定やメカニズム解明に関する心理物理学・神経生理学・認知科学研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p>			1年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関連文献の調査</li> <li>・ 研究課題に関する研究計画書の作成</li> <li>・ 研究倫理委員会の審査申請書の作成</li> <li>・ 中間発表会における発表</li> </ul>	2年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究対象者、研究対象施設等との調整</li> <li>・ 研究の実施</li> <li>・ 研究で得られたデータの整理、分析</li> <li>・ 課題研究報告書の作成</li> <li>・ 特別研究発表会における発表</li> </ul>
1年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関連文献の調査</li> <li>・ 研究課題に関する研究計画書の作成</li> <li>・ 研究倫理委員会の審査申請書の作成</li> <li>・ 中間発表会における発表</li> </ul>						
2年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究対象者、研究対象施設等との調整</li> <li>・ 研究の実施</li> <li>・ 研究で得られたデータの整理、分析</li> <li>・ 課題研究報告書の作成</li> <li>・ 特別研究発表会における発表</li> </ul>						
評価方法	課題分析の的確性や解決策の現実性、課題の構造・背景の分析方法、具体的な解決策及び考察の妥当性・有用性等の観点から報告書を評価						
テキスト	—						
参考書	—						
備考							